

令和5年度

# 研究 くり た

研究主題

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり  
～「協働的な学び」の充実を通して～



秋田県立栗田支援学校

## 目 次

◇はじめに	校 長	佐々木 孝 紀	
◇全校研究	-----		1
◇小学部研究	-----		8
◇中学部研究	-----		3 2
◇高等部 普通科研究	-----		4 7
◇高等部 総合サービス科研究	-----		5 9
◇寄宿舎研究	-----		7 3
◇資料 研究のあゆみ	-----		8 1
◇おわりに	副校長	神 部 守	

## はじめに

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校も以前の生活に戻りつつあり、児童生徒の元気な声が学校中に響き渡り、地域との学習も活発に行われるようになりました。また昨今、社会の変化のスピードが一層速くなり、将来、社会の中で生きていく児童生徒に必要な力も変化しつつあります。そのような中で、学びを保障し、将来の自立と社会参加を実現していくために必要な力をつける教育を学校全体で真剣に考えたことは、あらためて学校の教育課程を再度考え直す良い機会となりました。

特別支援学校の学習指導要領については、小学部・中学部・高等部、すべてにおいて全面実施となり、より一層改定の基本的な考え方を踏まえて、確実に実施することが求められています。また、令和3年1月には、中教審答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～ 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現 ～』が出され、目指す共生社会の実現に向けて、地域で豊かに生きていく力を育成するために、思考力・判断力・表現力の学力の三要素を大切に、開かれた教育課程を具体化していく実践が必要とされています。それを実施していく教師の姿としては、変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続けること、子供一人一人の学びを最大限に引き出す役割を果たすことなどが示されております。

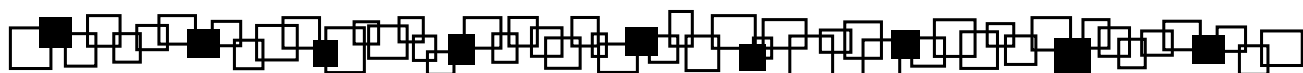
今年度の研究は、研究主題、『自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり～「協働的な学び」の充実を通して～』と題して3年間の研究の2年目に当たります。昨年度は、学校教育目標に沿った「各学年で目指す姿」を基に、キャリア教育の視点で学部間・学年間のつながりを確認し、個別最適な学びと地域の特性を生かした活動等による協働的な学びを意識した単元計画や学習活動、実態に応じた支援の工夫等による授業づくりを行い、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」を導き出しました。

そして、今年度は、「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいとのつながりを明確にし、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、自ら学び続ける子どもの育成を目指す授業実践研究を行ってきました。各学部等において「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」を活用した授業実践に取り組んできたことにより、教師が児童生徒の変容をより具体的に見取るようになり、児童生徒の自らの学びを深める場面が多く見られました。反面、更なる児童生徒の成長につなげるためには、課題も見つかっています。今年度の成果と課題を整理し、次年度以降の継続した研究に生かしてまいります。

本校の実践研究において、たくさんのご指導・ご助言をいただきました秋田県教育庁特別支援教育課指導主事の先生方を始め、日頃から本校教育活動にご理解、ご協力を頂いている皆様方には深く感謝申し上げますと共に、この場を借りて御礼申し上げます。

校長 佐々木 孝紀

# 全校研究



# 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり〈2年次／3年〉 ～「協働的な学び」の充実を通して～

## 1 主題設定理由

### (1) 学校の現状と児童生徒の実態から

本校の児童生徒数は246名(小学部66名、中学部74名、高等部106名)、職員数も150名を超え、秋田県内一の大規模校である。児童生徒の障害も多様化しており、生活全般に介助を要する児童生徒、情緒の安定やコミュニケーション、集団参加に課題がある児童生徒をはじめ、不適応行動や生徒指導上の問題を有する生徒も少なくない。

また、本校の特色ある教育活動の一つである「地域学習」では、地域行事の参加に加え、学校周辺の環境整備や店舗の清掃、地域の学校や施設との交流活動や共同活動など、日常の学習のねらいを達成するために、地域を学習の場や教材として活用する取組を展開している。しかし、学習のねらいをしっかりと整理できないまま地域活動を実施することだけが優先されてしまう状況や、近年の新型コロナウイルス感染症対策による活動の制限が見られてきたこともあり、従来の学習活動や学習展開が難しくなっているという現状がある。

### (2) これまでの研究から

令和2年度は「一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善～学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して～」をテーマに研究を進めた。学校教育目標と日々の授業とのつながりを意識し、教科横断的な視点で授業づくりができるよう「目指す姿と学習内容の一覧」と「単元配列表」、「単元計画案」の作成に取り組んだ。児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた授業づくりが実現し、教育課程全体で児童生徒を育てるという意識が高まり、教育課程を核とした教師同士の協働が図られた。

また、生活自立、職業自立に向けた授業づくりや寄宿舎での指導において、学校が有する人材や施設の有効活用、教職員間の連携を深めることで、卒業後の生活を視野に入れ、自分のできることを増やしていこうとする児童生徒の意欲や態度の育成につながった。

### (3) 学習指導要領から

学習指導要領前文では、急激に社会が変化する中で育むべき資質・能力について、新学習指導要領の着実な実施とICTの活用を通し、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている」と記されている。また、実現すべき子どもの学びの姿に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善につなげていくことが必要とされている。このことから、児童生徒個々の教育的ニーズに応じた学びと、多様な他者と関わり合いながら学びを深める協働的な学びを充実させ、授業改善をしていくことが必要と考える。

以上のことから、これまでの研究の成果である個別の教育的にニーズに応じた授業づくりの継続を図りつつ、児童生徒一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な他者と協働する「協働的な

学び」の充実を図ることが必要と考え、本研究主題を「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり～「協働的な学び」の充実を通して～」とした。

## 2 研究の目的

- ・多様な他者との関わりの中で、よりよい考えを生み出したり、よりよい自分の在り方を考えたりする「自ら学び続ける児童生徒」の育成を図る。
- ・学校全体のキャリア教育の視点から、各学部・各学年で目指す力のつながりを確認し、小学部・中学部・高等部を通して系統的で発展的な学びを積み重ねる。
- ・これまでの研究の成果や本校の地域学習のねらい及びこれまで続けてきた地域学習の成果と課題を踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、授業改善へとつなげる。

## 3 研究仮説

キャリア教育の視点に立った系統的で発展的な学びの積み重ねと、これまでの研究の成果及び学校内外の資源を活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図った授業づくりを通して、授業改善が図られ、自ら学び続ける児童生徒の育成が図られるであろう。

## 4 昨年度（1年次）の取組と成果と課題

### （1）資質・能力の育成を目指した指導計画の立案と児童生徒の姿を通じた評価・改善

令和3年度の成果を受け、「学校の教育目標」、「学部目標」を各学年の児童生徒の目指す姿として具体化し、共有した。さらに、各教科等で学ぶ内容や育成される資質・能力、学習活動との関連を学年職員で確認し、年間指導計画の作成に役立てた。また、具体的な児童生徒の姿を通して各学年の「育成を目指す資質・能力」について、具体的な評価場面や評価規準を設定して、夏季休業中、冬季休業中、年度末と年3回の学年会を実施し、定期的に評価・改善を図った。このことから、学校の教育目標、学部目標を根拠とした個々の児童生徒の目指す姿の設定や、学校の教育目標と日々の授業とのつながりを明確化していくことができ、児童生徒の目指す姿を見据えた教育課程を支えるマネジメントサイクルの構築が図られた。

### （2）「キャリア教育で育成したい資質・能力」の視点から学年間・学部間の指導内容のつながりの確認

キャリア教育の視点で「目指す姿」の学部間のつながりについて共有するため、全校縦割りグループでの話し合いを3回実施した。学校の教育目標とキャリア教育とのつながりを確認する中で、学部間で共通している「育成を目指す資質・能力」や、それに向けて各学年でどんなことに取り組んでいるのかを共有し、学部間で共通する力について導き出した。

### （3）協働的な学びの充実に向けた単元計画や学習活動の工夫・改善

各学部の授業づくりにおいて、「協働的な学び」についての職員間の意識の共有と、「協働的な学び」の充実に向けた単元計画や学習活動の工夫と改善を行った。学部内授業研究会は、事前授業検討、提示授業の参観、授業協議で構成し、学部職員全体で授業について検討する機会を多く設けた。各学部の実践から、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりについて、以下に示す項目をポイントとしてまとめることができた。

- ・児童生徒一人一人が自ら活動したり、考えたりすることができる状況づくり
- ・自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫
- ・多様な場や人材の活用

#### (4) 課題

- ・各学部の授業実践と「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿とのつながり
- ・教師同士が互いに学び合える授業研究及び授業研修の在り方の検討

### 5 今年度（2年次）の研究の内容と方法

#### (1) 「自ら学び続ける子ども」と、授業における児童生徒のねらいとのつながりの明確化

- ・昨年度の成果を基に、「自ら学び続ける子ども」をより具体的な姿として全校に提示
- ・「自ら学び続ける子ども」の具体的な姿に向けて、授業の中で教師が期待する対象児童生徒の思いを引き出すための、学習活動や単元計画、支援の工夫の検討

#### (2) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

- ・昨年度の成果を基に、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」をまとめ、事前検討等で活用

#### (3) 児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して、子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

- ・教師同士の対話を通じた、対象児童生徒のねらいの検討や授業における子どもの学びの過程の検証

### 5 研究の実際

#### (1) 「自ら学び続ける子ども」と、授業における児童生徒のねらいとのつながりの明確化

昨年度の成果である「学部間で共通する力」と各学部の授業実践における児童生徒の姿から、本校で考える「自ら学び続ける子ども」をより具体的な姿として全校に提示した。(図1) また、授業における児童生徒のねらいとのつながりを意識できるよう、授業の中で教師が期待する子どもの思いに着目し(図2)、そのような思いを引き出すための学習活動や単元計画、支援の工夫について対象児童生徒を抽出し検討した。対象児童生徒を設定したことで、児童生徒の行動や発言、表情など、具体的な姿をイメージして検討することができた。

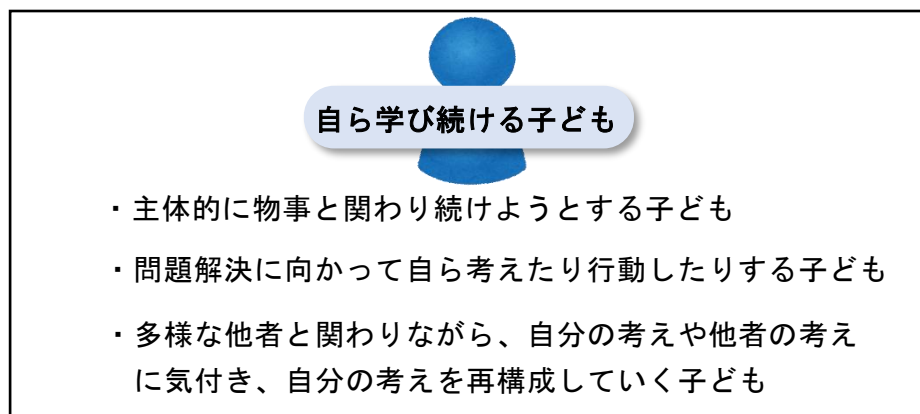


図1 自ら学び続ける子どもの具体的な姿

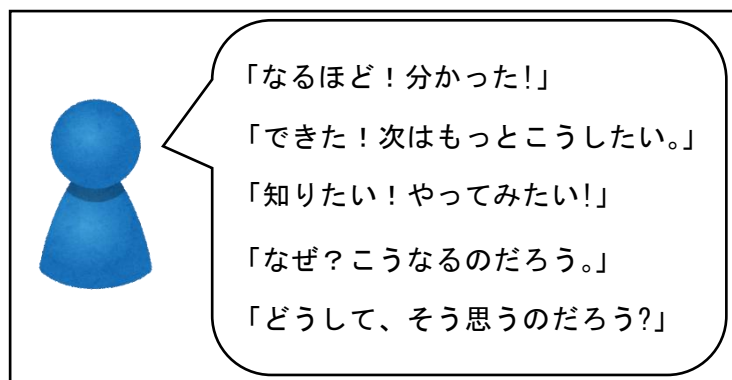


図2 授業の中で教師が期待する子どもの思い

## (2) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

昨年度の成果を基に、「自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント」を図3のようにまとめた。各学部の授業づくりの中で、事前検討に活用し、指導案の「指導について」という部分に反映させた。ポイントを活用することが目的とならないように、授業を通して育てたい力は何かを十分検討し、そのために必要な活動や手立ての工夫はあるか、授業づくりのポイントを活用して広い視点で考えられるように留意した。

**自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント**

**①児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり**

例えば…  
 既習事項の活用、教材教具の工夫、自分の意見を整理する手立て、ICTの活用、自分の役割の明確化、知識・技術の定着など

**②自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫**

例えば…  
 見通しのもてる活動、同じ目標をもつ生徒同士、ペアやグループなど多様な学習集団、

**③多様な場や人材の活用**

例えば…  
 校内の職員との関わり、専門家との交流、地域社会での体験など

図3 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

## (3) 児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して、子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

これまでの研究で取り組んできた「学ぶ姿に着目した授業研究」に重点を置き、「期待する姿」を基に、児童生徒の発言や行動から子どもの学びを丁寧に見取ることを継続した。今年度は、授業協議だけでなく、各学部での事前授業検討や授業シミュレーションでも対象児童生徒の学びに着目し、教師同士の対話を通して、児童生徒のねらいの妥当性や単元計画や学習活動、支援の工夫について検討した。小学部では、映像を活用した学びの見取り、中学部では授業シミュレーションを通じた具体的な授業場面での学びの見取りなど、教師同士が対話を図れるよう、学部研究日や授業研究会を利用し、各学部の実情に合わせた方法で対話の機会を多く設定した。



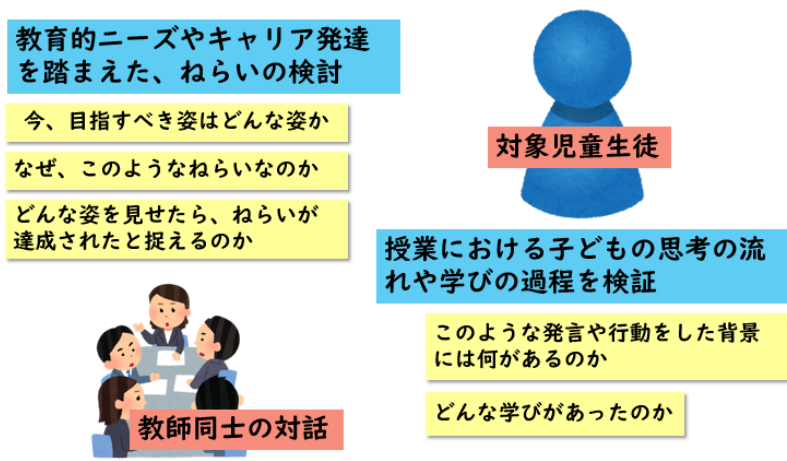


図4 対象児童生徒についての教師同士の対話の内容

(4) 研究の日程

月	学部研究会	研究全体会及び全校授業研究会
4		19日(水) ○研究全体会 ・研究の方向性の確認
5	26日(金) ○今年度の学部での取組について説明	
6	22日(木) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	14日(水) ○全校授業研究会事前検討会
7	19日(水) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	10日(月) ○全校授業研究会(中学部授業提示) 31日(月) ○全校授業研究会事前検討会
8	1日(火) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討 ○1学期の取組の反省と2学期の取組の説明	24日(木) ○研究全体会 ・各学部の研究経過報告
9	11日(月) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	
10	18日(水) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	5日(木) ○全校授業研究会事前検討会 25日(水) ○全校授業研究会(高等部授業提示)
11	17日(金) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	
12	15日(金) ○研究テーマに沿った授業づくりの検討	11日(月) ○全校授業研究会(小学部授業提示)
1	24日(水) ○今年度の取組の成果と課題についての共有	
2	21日(水) ○来年度の取組についての検討	16日(金) ○研究全体会 ・全校研究及び学部研究の2年次の報告

## 6 まとめ（成果と今後に向けて）

### （1）成果

#### ①教師同士の対話を通して、対象児童生徒の学びを見取る姿勢の高まり

小学部での映像を使った学びの見取り、中学部でのシミュレーションを通じた見取り、高等部での事前検討を通じた対象児童生徒の学びの見取り、寄宿舎職員同士でのグループワークなど、各学部の実情に応じ、様々な方法で教師同士の対話の機会を設定した。月1回の学部研究日、事前検討会、授業研究会などを通して、子どもの実態を共有し授業中の発言や行動に着目することで、対象児童生徒の学びを見取る教師の姿勢が高まった。

#### ②授業づくりのポイントを活用した、児童生徒の期待する姿に対する手立ての工夫

昨年度の成果を授業づくりのポイントとしてまとめ、今年度の授業づくりに反映させた。学習活動や単元計画、支援の工夫を検討する中で、より広い視点で授業を考えられるようにポイントを活用した。単元計画全体や本時の授業のどの場面で、どのようにポイントを活用するかを考えることで、児童生徒の期待する姿に対する手立てが精選された。

#### ③児童生徒の自ら学びに向かう姿、主体性の高まり

成果として挙げた「学びを見取る姿勢の高まり」や「手立ての工夫」に伴い、対象児童生徒の様子にもあるような自ら学びに向かう姿が増え、児童生徒の主体性が高まった。この主体性の高まりを、本研究テーマにある「自ら学び続ける子ども」へとつなげていくためには、各学部の今年度の課題として挙げられている、児童の「やりたい」という気持ち、学びの実感、気付きや考えを表現する機会などについて、授業づくりの中で個々の児童生徒の発達段階に応じて、「自ら学び続ける姿」を考えていく必要があると感じている。

### （2）今後に向けて

#### ①自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりの継続

各学部の報告にあった今年度の取組を踏まえ、対象児童生徒だけでなく他の児童生徒の自ら学び続ける姿についても検討し、授業づくりに反映させていく必要がある。そのためには、授業づくりのポイントを活用した各学部の実践を継続し、それぞれの学部の課題に迫りながら、授業づくりの充実を図っていきたい。

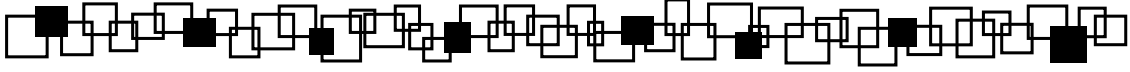
#### ②教師同士の対話の充実を図った授業改善

月1回の学部研究日の設定や、授業研究会での対象児童生徒の学びの見取りなど、事前検討会や授業研究会などを利用し、教師同士の対話の機会を多くもてるよう研究を進めた。その成果として子どもの学びを見取る姿勢の高まりや、対象児童生徒に対する手立ての工夫が図られた。今後は、よりよい授業づくりを目指し、対話のメンバーや内容を含めた事前授業検討の工夫と、児童生徒の学びの見取りから授業全体を評価する方法を検討し、教師同士の対話を充実させ、授業改善につなげていきたい。

<参考文献>

- 1 文部科学省（2017）「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」
- 2 文部科学省中央審議会（2022）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～答申」中央審議会
- 3 菊地一文（2021）「知的障害教育における学びをつなぐキャリアデザイン-本人の思いや願いを踏まえた深い学びの実現に向けて-」ジース教育新社
- 4 名古屋恒彦（2022）「知的障害教育における『個別最適な学び』と『協働的な学び』」

# 小学部研究



## 小学部 授業づくりの実際

### 1 昨年度（1年次）の研究から

昨年度の小学部の研究テーマは「『自分で』『自分たちで』『誰かのために』活動する児童の育成～日常生活の指導における個別最適な学びと協働的な学びの視点から～」である。日常生活の指導を取り上げ、「自ら学び続ける子ども」を「『自分で』『自分たちで』『誰かのために』活動する子ども」と捉え、それぞれのポイントで授業の検討、評価、改善を行った。日常生活の指導で研究を進めたことにより、特に「自分で」のポイントについて話し合いが充実した。成果として、自ら学び続ける子どもを育てるため、支援方法を次のように整理した。

「自分で」	…個々のねらいに応じた課題の準備・適切な支援、実態に応じた教材教具の準備
「自分たちで」	…ペアやグループの工夫、座席や配置の工夫、教師の支援を減らし児童同士で教え合ったり一緒に取り組んだりする場の設定
「誰かのために」	…教師が感謝を伝える場面の設定、「誰かのために」を意識できる役割の設定

今年度の研究では、「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する子どもと授業のねらいのつながりを明確にし、上記のポイントを生かして授業づくりを行う。さらに、丁寧に学びを見取る評価の積み重ねを重点的に行い、児童の実態把握やねらい、教師の支援の妥当性を高める。また、昨年度は「自分で」のポイントについて充実した成果を得られたことから、今年度は「自分たちで」や「誰かのために」のポイントについても深化できるよう対象授業を遊びの指導と生活単元学習に絞る。丁寧に学びを見取る評価に重点を置くために、以下の四点について工夫し、研究を進める。

#### 授業研究の方法

##### ①映像を活用した授業視聴と協議

録画された映像で授業を視聴することで、教師の見る場面が絞られて同じ視点で協議を進めることができ、教師の解釈の違いや様々な見方・捉え方に触れ、児童の見取りがより深まると考える。また、協議でも映像を活用し、意見を聞いてから再度見返したり、止めたりしながら話すことで、より事実に基づいた見取りを行えると考える。

##### ②丁寧に学びを見取るための方法

児童の言動の事実から客観的な評価を行い、児童の姿と授業のねらいにおけるつながりを明確にしたい。また、児童の思いを踏まえた評価を行い、児童の主体的な姿を具体的に考え、「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿につなげていきたい。そのため、次の順番で見取りを行う。

- ①予想される児童の思い
- ②児童の言動の事実
- ③言動の事実に基づいた児童の予想される思い
- ④そのような姿が見られた理由

##### ③対象児童を2名設定

対象児童を「リーダー的な児童」と「自立活動中心の児童」の2名に設定し、様々な児童の実態から「自ら学び続ける子ども」を育てるための授業づくりを行い、ねらいの明確化を図る。また、全学年にそれぞれ対象児童を2名ずつ設定する。このことにより、協議の際に自分の学年の児童についても触れながら話し合いを進めることができ、授業研究の成果を日々の授業に生かせるのではないかと考える。

##### ④教師同士が対話しやすいグループの設定

話しやすい環境をつくるために、協議グループを学年、学部ごとにする。また、学年での協議、参観にすることで自分たちの学年の授業や対象児童についても触れながら話し合いができると考える。

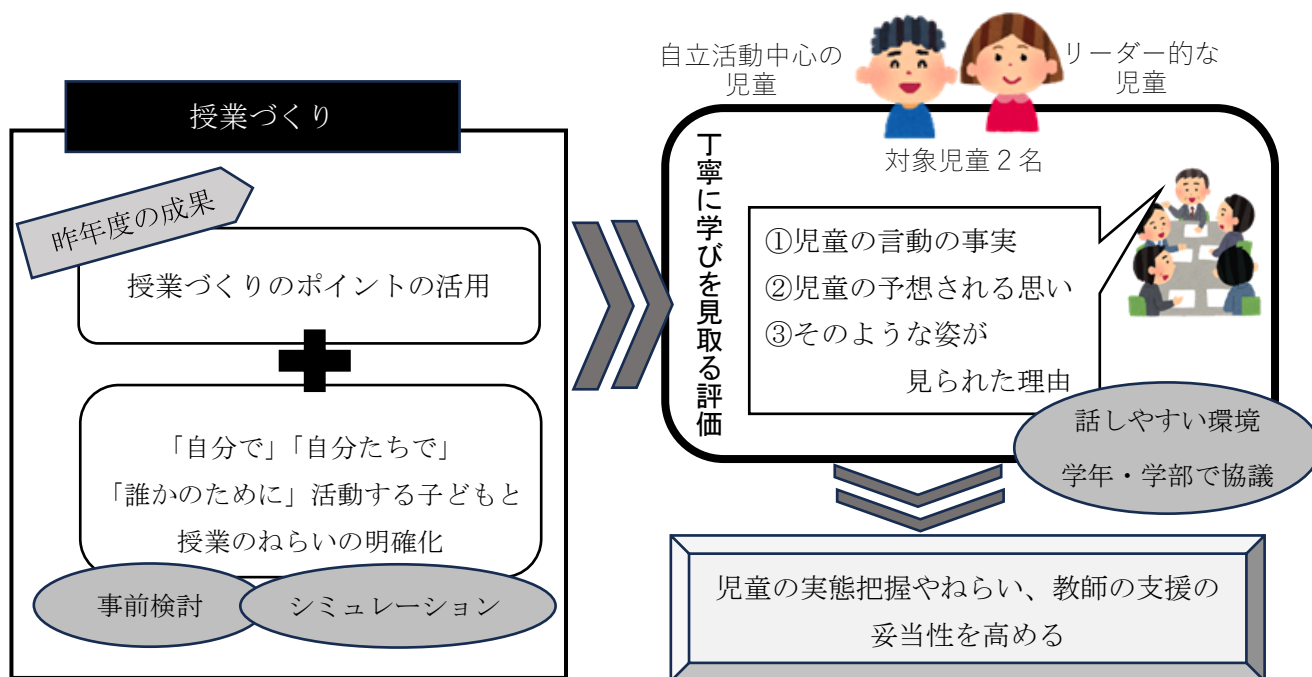


図1 今年度の研究の流れ

## 2 授業の実際

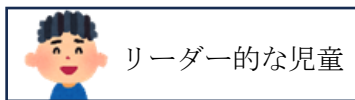
今年度は、映像を効果的に使い、次の手順で授業づくりと評価を進めた。

1. 事前授業検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元について、単元計画、本時の流れの共有と検討</li> <li>・ 映像を活用した対象児童の実態の共有</li> <li>・ 授業づくりのポイントの確認</li> <li>・ 対象児童の予想される言動・思いからねらいの妥当性（「自ら学び続ける子ども」の姿）の検討</li> </ul>
2. シミュレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時につながる授業の映像を視聴し、本時の流れや対象児童のねらい、教材の再検討</li> <li>・ 配置や板書、動線の確認</li> </ul>
3. 授業参観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対話しながら授業を見ることができるよう、学年ごとに映像を視聴</li> <li>・ 対象児童2名を中心にそれぞれ撮影した映像を各グループで視聴</li> <li>・ 対象児童の言動の事実、予想される思い、なぜそのような姿が見られたのか各自付箋に記入</li> </ul>
4. 授業協議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像を見返しながらグループごとに対象児童について、言動の事実、予想される児童の思い、なぜそのような姿が見られたのかについて協議</li> <li>・ 今後の授業をよりよくするための教材の工夫や単元や学習活動について検討</li> <li>・ 指導助言</li> <li>・ (学部研究時のみ実施)対象児童の「自ら学び続ける子ども」の姿について具体的な姿やそのような姿を引き出すための学習活動や支援について協議</li> </ul>

(1) 6年 生活単元学習 「だれかのために ～1学期の活動～」

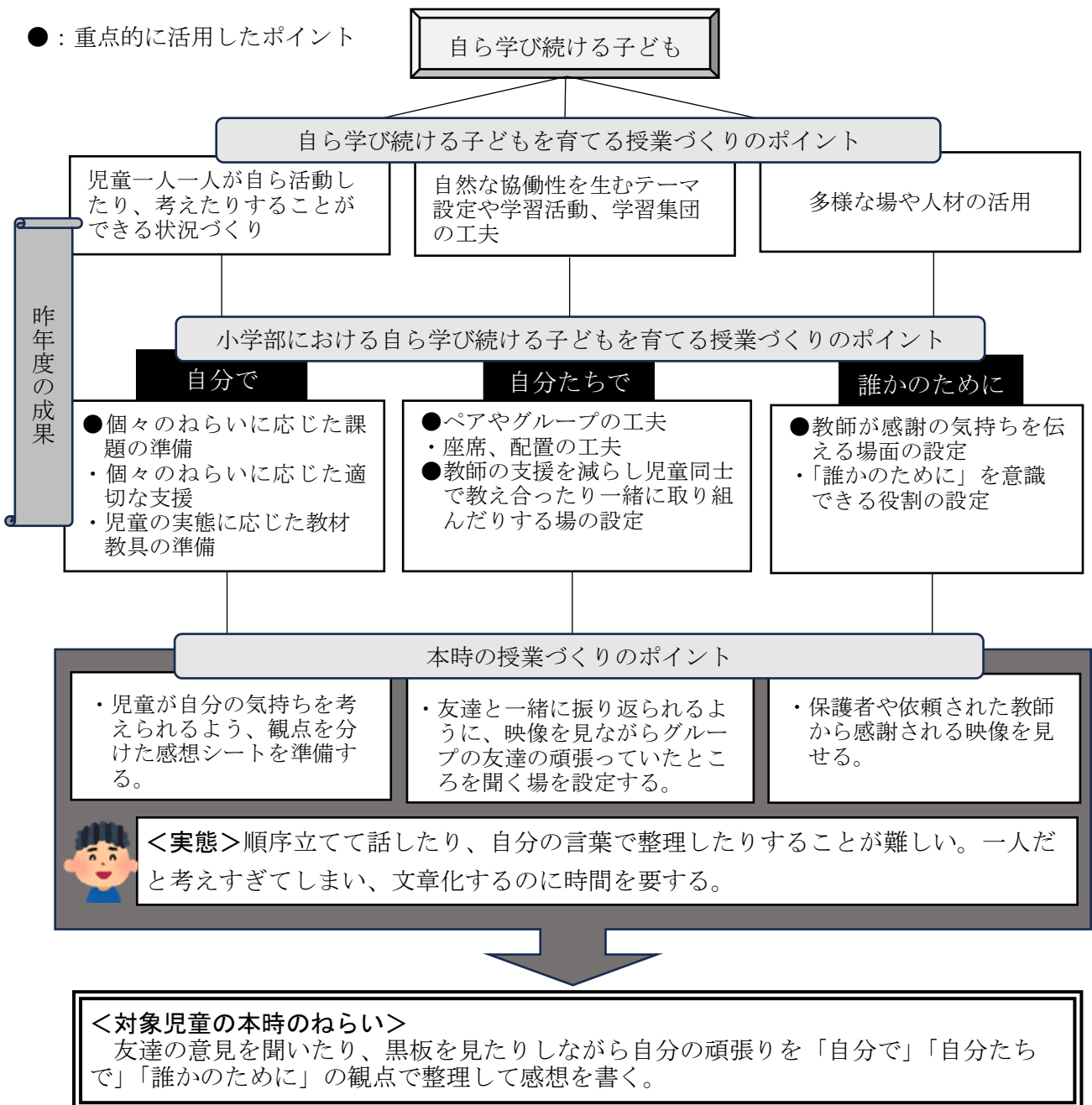
小学部の共有スペースの清掃や学部に関わる行事の準備・片付けなど、人の役に立つ活動を中心単元とし、年間を通して「だれかのために」の学習を進めた。清掃では、繰り返し同じ場所の清掃に取り組むことで、見通しと自信をもち、友達と協力しながら活動する姿を育む。また感謝される経験を重ねることで、主体的に取り組んだり、最後まで責任をもってやり遂げようとしたりする姿を育む。本時は、PTAの会場設営で頑張ったことの振り返りを行った。

①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

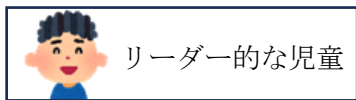


※自立活動中心の児童については資料1を参照

●：重点的に活用したポイント



②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね



授業者の考え

- ・自分の言葉で振り返りシートに記入してほしい。
- ・振り返り学習の積み重ねがあることや「誰かのために」という合い言葉で学習を積み重ねてきていることから「誰かのために」なら一人でもまとめられるのではないかな。

教師同士の対話

丁寧な見取り



事前検討・シミュレーション

- ・自由に書き始めると自信のなさからうまく感想をまとめられないのではないかな。
- ・感想記入前に友達から褒められたり、依頼された人から感謝されたりすると自己肯定感を高められるのではないかな。
- ・話題に挙げたことを板書しておくとも黒板を見ながら感想を書くのではないかな。
- ・観点ごとに分けて板書しておけば「誰かのために」だけでなく、「自分で」「自分たちで」についてもまとめられるのではないかな。

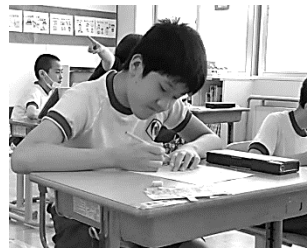


本時における

丁寧な見取り

児童のねらいに対する言動の事実

- ・自分から手を挙げて友達の頑張りを発表した。自分の頑張りを友達に褒められ、照れ笑いをしていた。
- ・黒板は見なかったが、活動の様子の写真をじっくり見ていた。ゆっくりではあるが、自分の言葉で感想を観点ごとに書いていた。



<本時のねらい>

友達の意見を聞いたり、黒板を見たりしながら自分の頑張りを「自分で」「自分たちで」「誰かのために」の観点で整理して感想を書く。



授業協議

教師同士の対話

丁寧な見取り

<予想される児童の思い>

- ・友達から褒められてうれしかっただけでなく、「僕、こんなことを頑張ったな」と振り返っていたのではないかな。書きたいことはあるが、どのように書いたらよいか分からなかったのではないかな。

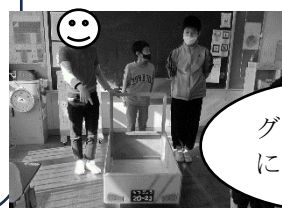
<児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動するために>

- ・振り返ることを大切にするのであれば、グループに分かれるなどして話しやすい環境をつくり、友達同士で対話しながら振り返る時間を設定してみてもどうか。また、その際は話合いの時間を十分にとり、ワークシートは穴あきのものでもいいのではないかな。



授業改善

- ・グループでの活動や話し合う時間を多く設けるようにした。これまでは意見があってもつぶやきで終わることも多かったが、繰り返しグループでの話合いの場を設けたことで、自信をもって自分の意見を友達に伝え、友達と相談しながら活動を決めたり、振り返ったりできるようになってきた。



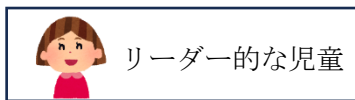
グループごとに頑張りを発表



(2) 1年 遊びの指導 「ぐんぐんランドであそぼう②」

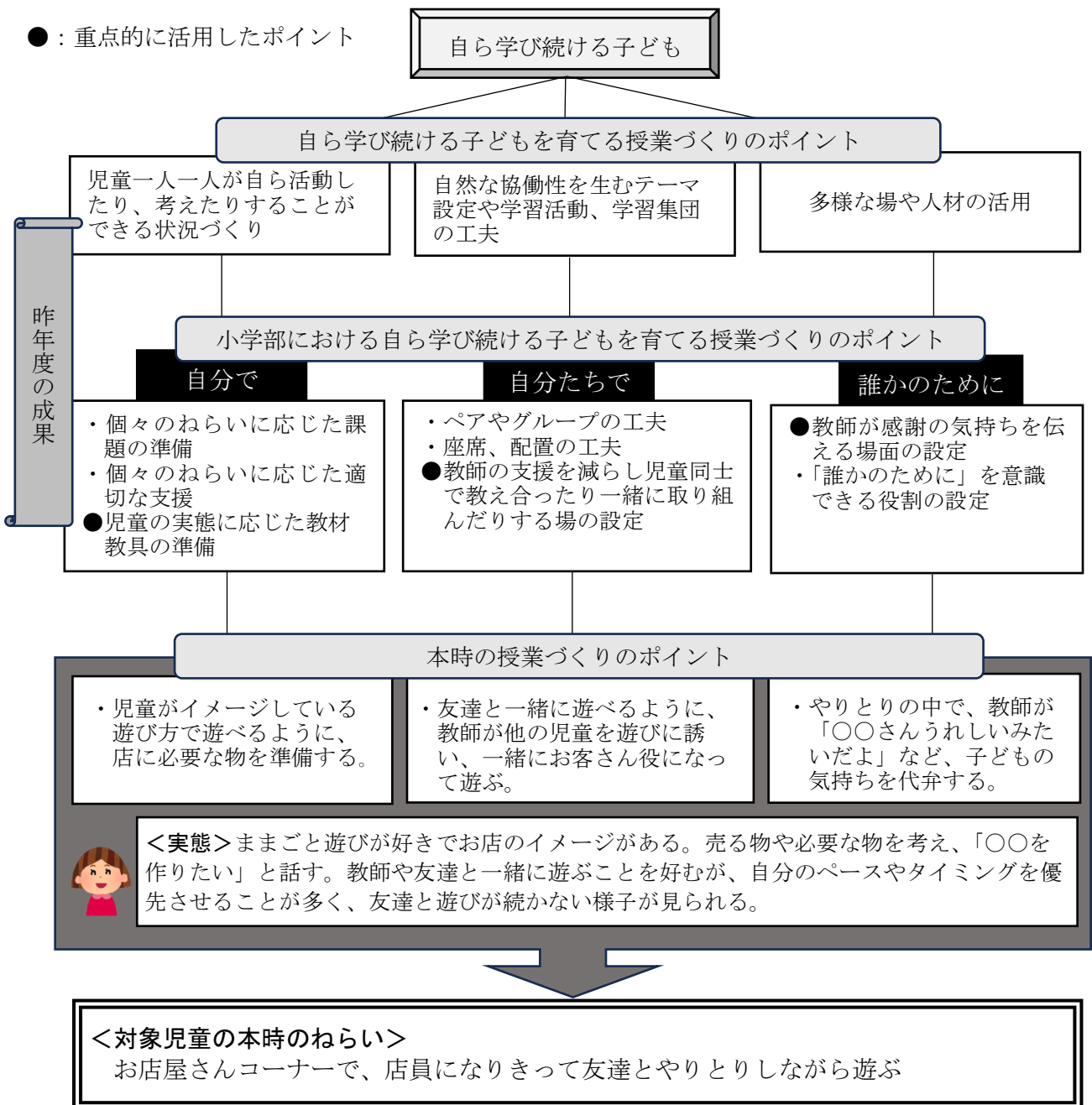
ぐんぐんランド①は、休み時間に遊んでいる遊具や体育で使っている用具を使って遊んだ。その中で、児童から「〇〇で遊んでみたい」という意見が出た。そのため、ぐんぐんランド②では、児童からの提案であるお店屋さんコーナーや遊びたい遊具を追加して計画し、自分たちで遊具を作り、児童のイメージするぐんぐんランドで遊ぶ。本時は、自分たちで作ったお店屋さんコーナーを設置して遊んだ。

①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント



※自立活動中心の児童については資料2を参照

●：重点的に活用したポイント



②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね



リーダー的な児童



授業者の考え

- ・自分たちで考えて作った遊具で遊んでほしい。
- ・教師とではなく、友達と一緒に遊ぶ姿を育てたい。

教師同士の対話

丁寧な見取り



事前検討・シミュレーション

- ・お店屋さんコーナーを作りたいと話したのが本児なので、お店屋さんコーナーで時間いっぱい遊ぶのではないかと。
- ・外食経験が多いため、自分で工夫しながら遊べるよう、レジや調理場などもあるといい。
- ・かわいい服装が好きなので、エプロンを用意すると店員になりきって楽しめるのではないかと。
- ・児童同士でやりとりできるように、教師が他の児童をお店屋さんコーナーに遊びに誘う必要がある。

丁寧な見取り

本時における



児童のねらいに対する言動の事実

- ・「いらっしやいませ。〇〇はいかがですか」と話し、店員になりきっていた。
- ・友達に話し掛けても返答がなく、やりとりしている姿はあまり見られなかったが、ロボットをお客さんに見立てて遊んでいた。
- ・魚釣りコーナーで遊んでいた児童が調理場に魚を持っていくのを見てまねしたり、流れの中で「魚持ってきて」など友達にお願いしたりしていた。



<本時のねらい>

お店屋さんコーナーで、店員になりきって友達とやりとりしながら遊ぶ



授業協議

教師同士の対話

丁寧な見取り

<予想される児童の思い>

- ・店員さんになりたい。友達とうまくおままごとができないから大好きなロボットをお客さんにしよう。〇〇くんの遊び面白そう、釣った魚を持ってきてもらってお店で出そう。

<児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動するために>

- ・まだ1年生なので、教師が児童同士をつないで達成できるねらいを立てたり、やりとりが成立するような支援をしたりしていく必要がある。
- ・今後も児童が考えた教材で遊ぶことを継続することで、児童同士で遊びを成立させようと自然と関わる姿が見られるようになるのではないかと。

授業改善

- ・お店屋さんが成立するよう、教師が他の児童を誘い、一緒にお客さん役になった。
- 本児の話したことに教師が他の児童と一緒に受け答えしたことで、受付、調理、会計、商品を渡す一連の流れが成立した。さらに、自分もお客さんとして遊ぶ姿が見られた。
- ・お店屋さんコーナーを継続し、お店屋さんのすぐ近くに魚釣りコーナーを設置した。
- 魚釣りから料理する流れが確立され、魚釣りコーナーでよく遊ぶ児童とも関わる様子が見られた。

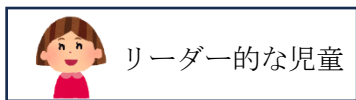


(3) 3年 生活単元学習 「パーティーをしよう⑤ ～クリスマスパーティー～」

本単元では、児童の興味・関心の高いホットケーキ作りを取り入れて、これまで繰り返してきた誕生日会やパーティーを行う。繰り返しパーティーを行うことで、役割が分かって自分から取り組んだり、友達と協力して活動したりする姿を育む。

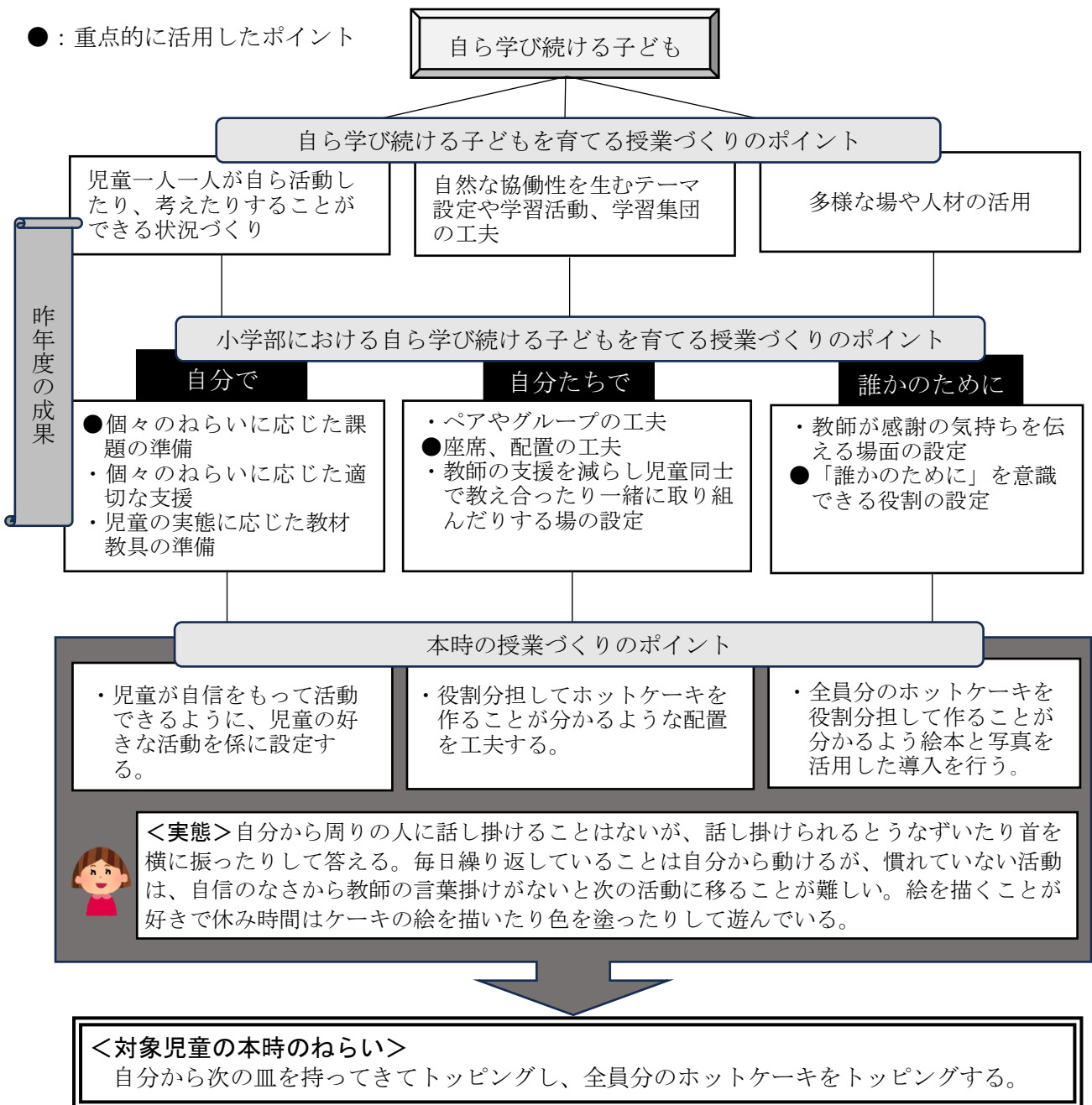
本時は、クリスマスパーティーに向け、ホットケーキ作りの練習をする。ホットケーキ作りの工程で役割を分け、児童の得意なことを生かした係を設定した。

①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント




※自立活動中心の児童については資料3を参照

●：重点的に活用したポイント



②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

 リーダー的な児童



授業者の考え

- ・困ったときに自分から教師に伝えられるようになってほしい。
- ・ホットケーキ作りに使う材料は分かっているので、材料が足りないと気付いて自分から何か行動しようとするのではないかな。



事前検討・シミュレーション

丁寧な見取り

教師同士の対話

- ・初めての生活単元学習なので、遊びの要素や児童の好きな活動を取り入れ、児童が楽しめるねらいにはどうか。
- ・一人でホットケーキを作るのではなく、みんなでパーティーを盛り上げることが実感できるよう、役割分担してみようか。
- ・児童が絵を描くことが好きなのであれば、そのことを生かした係を設定してみようか。
- ・日常的に困った際に自分から伝えられないのであれば、本時で自分から教師に話し掛けることは難しいのではないかな。まずは、活動に見通しをもって自分から動くことからねらってみようか。

丁寧な見取り



本時における

児童のねらいに対する言動の事実

- ・自分から次の皿を持ってきてトッピングし、グループの友達と一緒に全員分のホットケーキをトッピングをした。
- ・写真を見ながらトッピングしていた。
- ・蓋が開かないときに困っていたが、教師から言葉を掛け、直していた。



<本時のねらい>

自分から次の皿を持ってきてトッピングし、全員分のホットケーキをトッピングする



授業協議

教師同士の対話

丁寧な見取り

<予想される児童の思い>

- ・みんなで協力してホットケーキを作るから私はトッピング係を頑張ろう。先生が「みんなの分トッピングしてね」って言っていたから〇〇さんと一緒にどんどんトッピングしよう。

<児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動するために>

- ・児童全員に役割があり、みんなで協力してホットケーキを作ることが分かるような導入だった。
- ・チョコスプレーの蓋が開かず、困っていた場面があったが、教師がすぐ助けてしまっていた。全体的にもう少し待つ支援をしてもよかった。
- ・トッピングのやり方が決まっていたが、もっと児童が楽しみながら活動できるように、自由にトッピングさせてみると、より主体性が高まるのではないかな。

授業改善

- ・トッピング係を継続し、見本を示さず自由にトッピングをした。
- 活動に自信と見通しをもち、自分からトッピング作業に取り掛かるようになった。大きくトッピングの仕方を変えることはなかったが、果物の数など、自分なりに工夫する姿が見られた。できたホットケーキを見て教師に褒められ、嬉しそうにならずにいた。



### 3 まとめ

#### (1) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて

＜「授業づくりのポイント」を生かした授業づくりにおける成果＞

##### ①【自分で】個々のねらいに応じた課題や教材の準備、適切な支援

児童が繰り返し行ってきて自信をもってできる活動や児童の興味・関心を生かした活動を設定することで、児童の主体的に活動する姿につながった。自立活動中心の児童に対してもICT機器を活用したり、様々な学習場面で同じツールを活用したりしながら児童が自分で選ぶ場面を設定したことで、得意なことを生かし主体的に活動に取り組む姿につながった。

##### ②【自分たちで】ペアやグループ、座席や配置の工夫、教師の支援を減らし児童同士で教え合ったり一緒に取り組んだりする場の設定

休み時間や普段の学習の様子も踏まえて、お互い協力したり関わったりしながら活動できるペアを考えたことで、相手を助けようとしたり、順番に物を使用したりする姿が見られた。また、リーダー的な児童と自立活動中心の児童をペアにすることで、リーダー的な児童は自立活動中心の児童の手を取ったり、近くまで行って言葉掛けをしたりして、自分なりに関わり方を工夫する姿が見られた。自立活動中心の児童も教師と活動するのではなく、繰り返し友達と活動したことで、集団で行動したり友達を意識したりする姿につながった。ペアやグループでの活動を多く設定したことで、教師の支援がなくても自然と友達同士で助け合ったり、協力したりする姿が見られるようになった。

##### ③【誰かのために】教師が感謝の気持ちを伝える場面の設定、「誰かのために」を意識できる役割の設定

児童が見通しと自信をもって活動できるようになってきた段階で、身近な教師から依頼されたり、教師へ報告したりする場面を設定することで、児童の活動への意欲をさらに高めることができた。また、具体的に教師から感謝されたり、褒められたりしたことで、次の活動への意欲にもつながった。自立活動中心の児童においては、教師が即時評価したり、動画で振り返ったりすることが有効であった。自立活動中心の児童に対しては、今後も前向きな言葉で評価を積み重ね、児童が行った活動と評価の意味をつなげ、「頑張った」や「楽しかった」という評価が前向きな評価であると気付いていくことが大切であると学部で共有した。

##### ④【今年度新たに出た授業づくりのポイント】待ったり見守ったりする支援

「自分で」「自分たちで」の二つのポイントにおいて、教師の待つ支援が有効であった。児童が自ら行動した姿やその結果を褒めることで、主体的に活動する姿につながった。特に、自立活動中心の児童は自分の思いを行動のみで示すことが多いため、児童が教師の予想していない行動をとった際もすぐに言葉を掛けず、待つことで、児童の思いをより深く知ることができ、「自分で」活動する姿を引き出すきっかけとなった。また、教師が意図的に待つ姿勢を示したことで、「自分たちで」何とかしようとし合ったり、協力したりする姿が見られるようになった。

##### ⑤【今年度新たに出た授業づくりのポイント】役割分担

「自分たちで」「誰かのために」の二つのポイントにおいて、活動の役割分担が有効であった。役割分担することで、自分だけでなく、友達の活動にも目を向けることができ、「自分たちで」活動するという意識をもつことができた。また、みんなで一つのを完成させる活動において、工程で役割分担することで「友達のために」という思いを育むことができた。

## <丁寧な評価の見取りにおける成果(○)と課題(▲)>

### ①映像を活用した授業視聴と協議

- 対象児童を中心に撮影した映像を見たことで、児童の言動について同じ場面を見ながら評価を見取ることができ、教師の解釈の違いや様々な見方・捉え方を知る機会となった。
- これまでは、授業の一部しか参観できないことも多かったが、授業の大まかな流れやねらいに関する場面など、必要な場면을視聴したことで、短時間で授業全体を見ることができ、全職員が授業全体の流れを知った上で協議に参加することができた。また、映像で授業を視聴したことで、教師同士で対話しながら見るポイントや内容を確認し合うことができ、指導案と授業のすり合わせを丁寧に行うことができた。
- 協議中にも映像を自由に見返せるよう準備したことで、協議しながら児童の言動の事実や言葉掛けなどを見返したり、映像を止めて環境設定や支援を確認したりすることができた。このことにより、児童の言動の事実に迫り、協議を深めることができた。
- ▲児童が見ている映像の音が聞き取りにくかったり、児童の声が小さくて聞き取れなかったりする場面もあった。

### ②丁寧に学びを見取るための方法

- 児童の言動の事実から客観的に評価したことで、教師の支援を見直したり、児童にとって学習活動が適切であるかどうか客観的に考えたりすることができた。
- 予想される子どもの思いを基に評価を重ねたことで、児童の得意なことや好きなことを生かした学習活動や役割を考えることができ、児童が自ら進んで活動しようとする主体的な姿につながった。
- ▲児童の実態について、映像での説明や資料での説明もあったが、それだけでは細かい実態まで分からないため、児童の思いについて考えることが難しいこともあった。

### ③対象児童を2名設定

- 対象児童をリーダー的な児童と自立活動中心の児童の2名にしたことで、実態に幅のある児童が関わって活動したり、全員が主体的に参加したりできるための効果的な学習活動や内容について考えることができた。
- 自立活動中心の児童にとっての主体的な姿や自ら学び続けようとする姿について話し合う機会を設け、考えを深めることで、対象児童だけでなく、各自が担任する児童と重ね合わせながら協議を進めたことで、普段の指導につながる話し合いができた。
- ▲授業によっては、事前検討の時期が10月頃だったため、年間計画に意見を反映することが難しかった。年間指導計画立案前に、事前検討できるといい。

### ④教師同士が対話しやすいグループの設定

- 協議グループを学年ごとにしたことで、話しやすい環境ができ、これまでの協議よりも活発に意見が出た。また、自分の学年の児童についても触れながら話し合いを進めることができ、普段の指導の改善にもつながった。協議を通し、学年の指導観や授業づくりにおいて大切にしたいポイントなど、学年の方向性を確認する機会になった。
- 全校研究会では、協議グループを学部にしたことで、他学部から見たキャリア教育の視点で意見をもらうことができた。
- ▲協議の最後の発表で、他の学年や学部の職員の意見を聞くことはできたが、一緒に協議を深めることができなかった。

## (2) 職員の変容

### ①客観的な視点での実態把握

丁寧な評価の見取りで、教師が児童の言動の事実について考えたり、客観的な評価をもらったりしたことで、主観的な視点での実態把握と客観的な視点の双方から児童の実態を把握できるようになった。客観的な視点で実態把握を行うことで、根拠となる支援や学習活動の工夫について具体的に考える機会となった。これまでは、「きっと、〇〇だろう」や「これまで〇〇だった」など教師の主観で学習活動や支援を考えることが多かったが、様々な支援を準備して検証したり、問題行動が起こった際の環境や支援を見直したりしたことで、児童の得意なことや苦手なことをさらに知ることができた。児童の得意なことや苦手なことが明確になったことで、学習活動や支援、ねらいの妥当性を高めることにつながった。

### ②待ったり、見守ったりする支援

児童が自ら活動する姿を引き出したり、児童の思いを知ったりするために、児童が自発的に行動するまで待ったり、児童がやろうとしていることを見守ったりする支援が増えた。教師が待つ姿勢を示すことで、児童の思いが「自分でやらないといけない」から「自分で、自分たちでやろう」に変化し、主体的に活動する姿につながっていたと考える。また、児童が困った際にもすぐに言葉掛けせず待つことで、自分で助けを求めたり、自分で解決しようと動いたりする姿につながった。特に、自立活動中心の児童が教師の予想していない行動をとった際もすぐに制止せず、待つことで児童のやりたい思いや好きなことを深く知ることにつながった。

## (3) 次年度に向けて

### ①自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりの継続

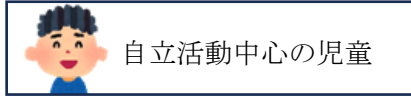
来年度も自ら学び続ける子どもを育てるために、『「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿を育てるための授業づくりのポイント』を生かし、継続して授業づくりを行う。今年度新たに追加された「役割分担」や「待ったり、見守ったりする支援」も生かし、児童の主体性を大切にし、自ら学び続ける子どもの育成を図る。また、協議でも映像を効果的に活用し、児童の言動の事実や教師の支援からねらいや支援の妥当性を高め、よりよい授業につなげたい。

### ②児童の「やりたい」という気持ちを大切にしたい授業づくり

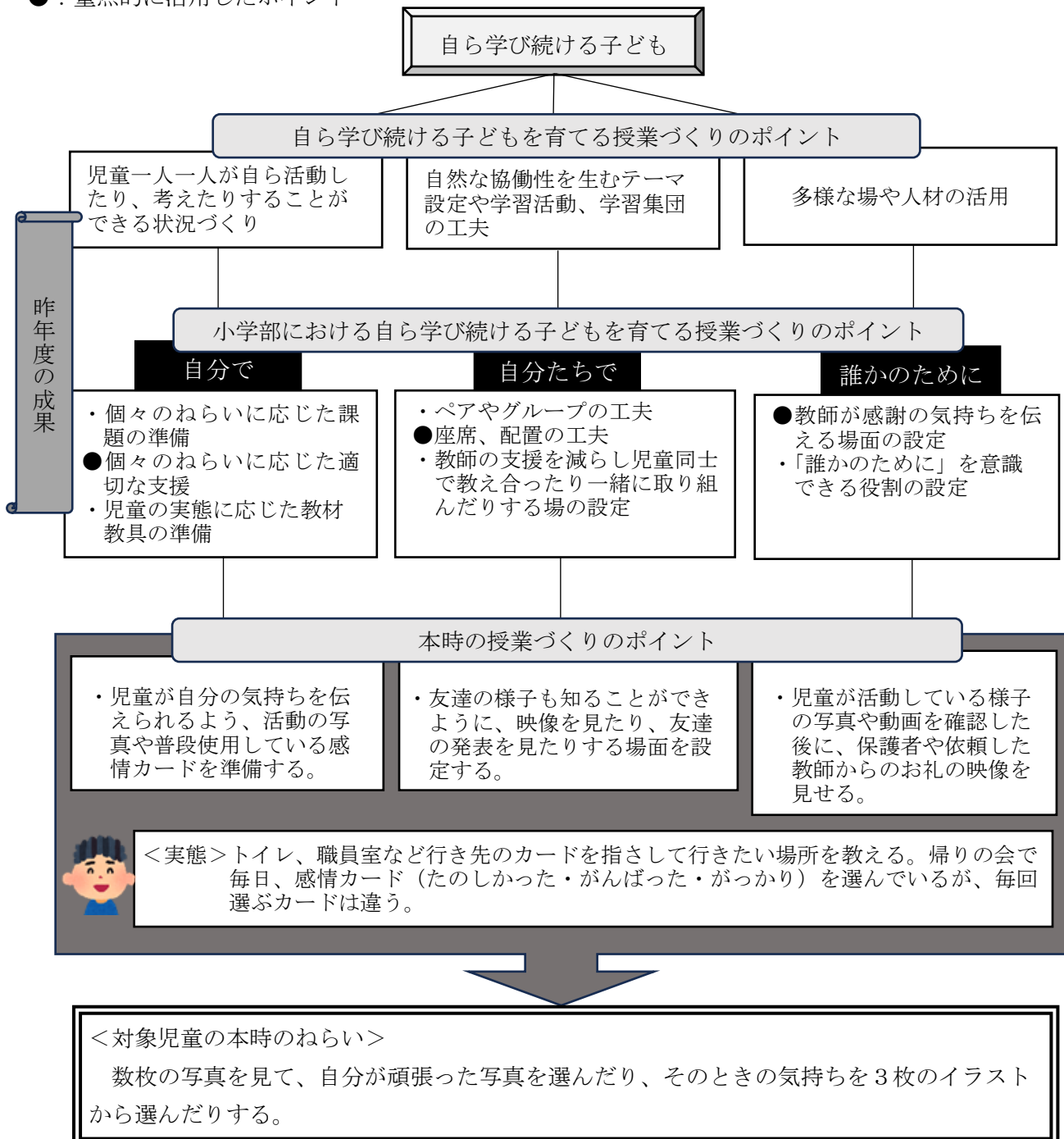
これまでは、「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿を教師の期待する姿から捉え、授業づくりにおいても「自分で〇〇してほしい」というような視点でねらいや学習活動を設定していた。より児童の主体性を高め、「学び続ける姿」につなげるためにも、来年度は児童の得意なことや興味・関心を生かし、「やりたい」という気持ちを大切にしたい学習活動やねらいを考えていきたい。児童の「やりたい」という気持ちと教師の期待する姿を擦り合わせることで、児童の「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動する姿を引き出し、自ら学び続ける子どもの姿に迫っていけるのではないかと考える。

## 6年 生活単元学習 「だれかのために ～1学期の活動～」

①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

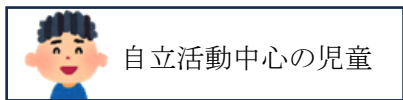


●：重点的に活用したポイント





②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね



授業者の考え

- 感情カードは、帰りの会でも使用しているので、今回の振り返りでも使用してみたい。
- 活動の写真カードは数枚の写真の中から印象に残っているものを指さすのではないかな。

教師同士の対話

丁寧な見取り



事前検討・シミュレーション

- 感情カードは、帰りの会では「頑張った」を選ぶことが多いので、今回も「頑張った」を選ぶのではないかな。
- 活動の写真を見る前に動画でも様子を見ると何をやったのかははっきりと思い出すのではないかな。
- 場所を変えて何回か選ばせると児童の本当の思いが分かるのではないかな。

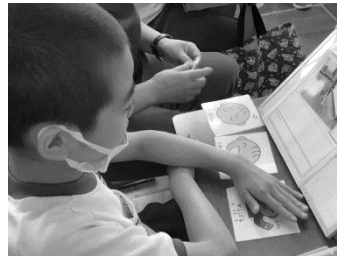


本時における

丁寧な見取り

児童のねらいに対する言動の事実

- 写真は3枚の中から自分が掃除機をかけている写真を選んでみた。
- 感情カードは最初、「頑張った」を選んだが、シャッフルしてみると「頑張った」カードを触った後に他のカードにも触った。もう一度シャッフルしても同様だった。



<本時のねらい>

数枚の写真を見て、自分が頑張った写真を選んだり、そのときの気持ちを3枚の感情カードから選んだりする。



授業協議

教師同士の対話

丁寧な見取り

<予想される児童の思い>

- 掃除機の写真を見て頑張ったと思っているのではないかな。掃除機が一番楽しかったのではないかな。
- 感情カードは、何を選んだらいいのかははっきりとは決まっていなかったのではないかな。

<児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動するために>

- 自立活動中心の児童もカードで気持ちを選ぶことで、自分の気持ちを表現しようとする気持ちを育てられるのではないかな。また、様々な学習で同じ感情カードを使用していくことで、「頑張った」や「楽しい」というカードがプラスの評価であると理解し、選べるようになるのではないかな。

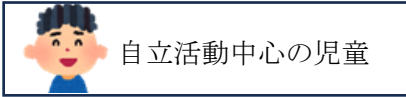
授業改善

- 毎日の帰りの会だけでなく、様々な場面で感情カードを選ぶ活動を設定した。カードの位置を変えても「頑張った」を選ぶようになった。さらに、カードだけでなく、iPadとVOCAを活用して音声でも発表できるようにしたことで、「頑張った」という言葉と感情カードがつながってきている。

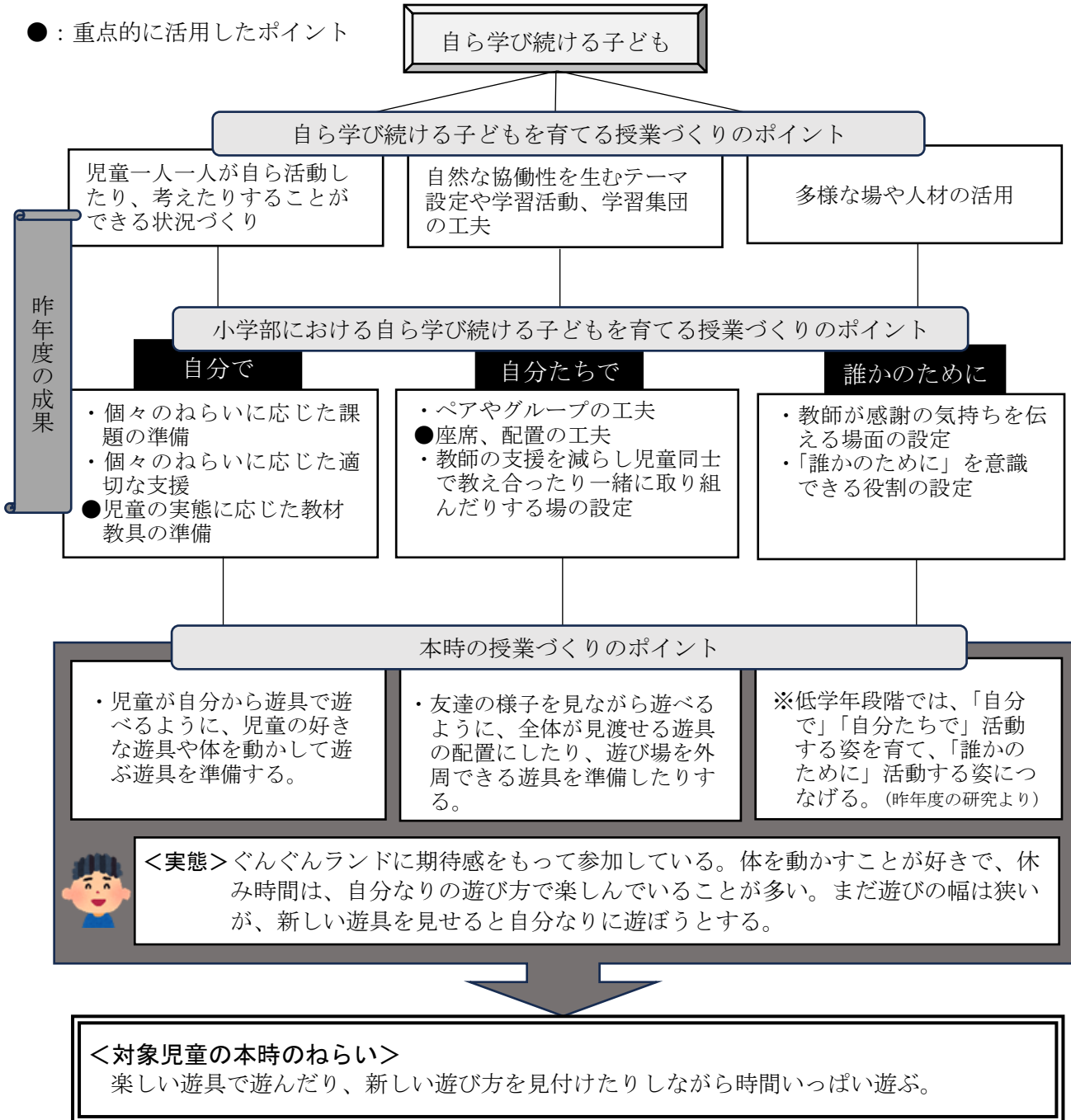


1年 遊びの指導 「ぐんぐんランドであそぼう②」


①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント



●：重点的に活用したポイント



②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

 自立活動中心の児童



授業者の考え

- ・体を動かして時間いっぱい遊んでほしい。
- ・友達と場所や遊具を共有しながら遊んでほしい。

教師同士の対話

丁寧な見取り



事前検討・シミュレーション

- ・ぐんぐんランドに期待感をもっているのでは、時間いっぱい遊ぶのではないか。
- ・前時に気に入っていた遊びを残すことで、安心して遊べる遊具と新しい遊具を行き来しながら遊ぶのではないか。
- ・教師に遊びに誘われてもまだ自分なりの遊び方で楽しんでいるので、友達と遊具を共有することはまだ難しいのではないか。
- ・まだ特定の遊び方で遊んでいることが多いので、新しい遊びに興味をもったり、自分で考えた遊び方で遊んだりする姿を積み重ねてもいいのではないか。

丁寧な見取り



児童のねらいに対する言動の事実

- ・自分から様々な遊具へ向かい、自分なりの遊び方で時間いっぱい遊んでいた。
- ・友達が台車で遊んでいるのを見て、最初は台車の車輪の動きを見て楽しんでいました。その後、自分で押して何回か遊んでいた。
- ・友達と一緒に紙温泉に入り、遊んでいた。



<本時のねらい>

好きな遊具で遊んだり、新しい遊び方を見付けたりしながら時間いっぱい遊ぶ。



授業協議

教師同士の対話

丁寧な見取り

<予想される児童の思い>

- ・たくさん遊具があって楽しい。いろいろなところで遊ぼう。
- ・友達の遊んでいる台車が気になる、近づいてみよう。

<児童が「自分で」「自分たちで」「誰かのために」活動するために>

- ・自立活動中心の児童は、好きな遊びを増やしたり、幅を広げたりすることが大事であるため、児童の好きな遊具と新しい遊具を混ぜながら遊び場を設定することで、安心した環境下で「自分から」遊ぶ姿を育てられるのではないか。
- ・友達と遊ぶ姿につなげるために、友達の様子を知ることができる環境を設定していく必要がある。

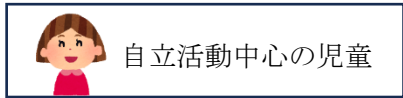
授業改善

- ・児童の好きな遊具を残し、遊び場を設定した。
- 引き続き好きな遊具と新しい遊具を行き来しながら遊ぶ姿が見られた。
- ・友達の様子に目を向けたり、友達と場を共有したりして遊べるように、全体が見渡せる遊具の配置にし、教師が仲介して他の児童と場を共有できるよう支援した。
- 教師の仲介を受け、友達と一緒に台車に乗ったり、紙温泉に入ったりして遊んでいた。

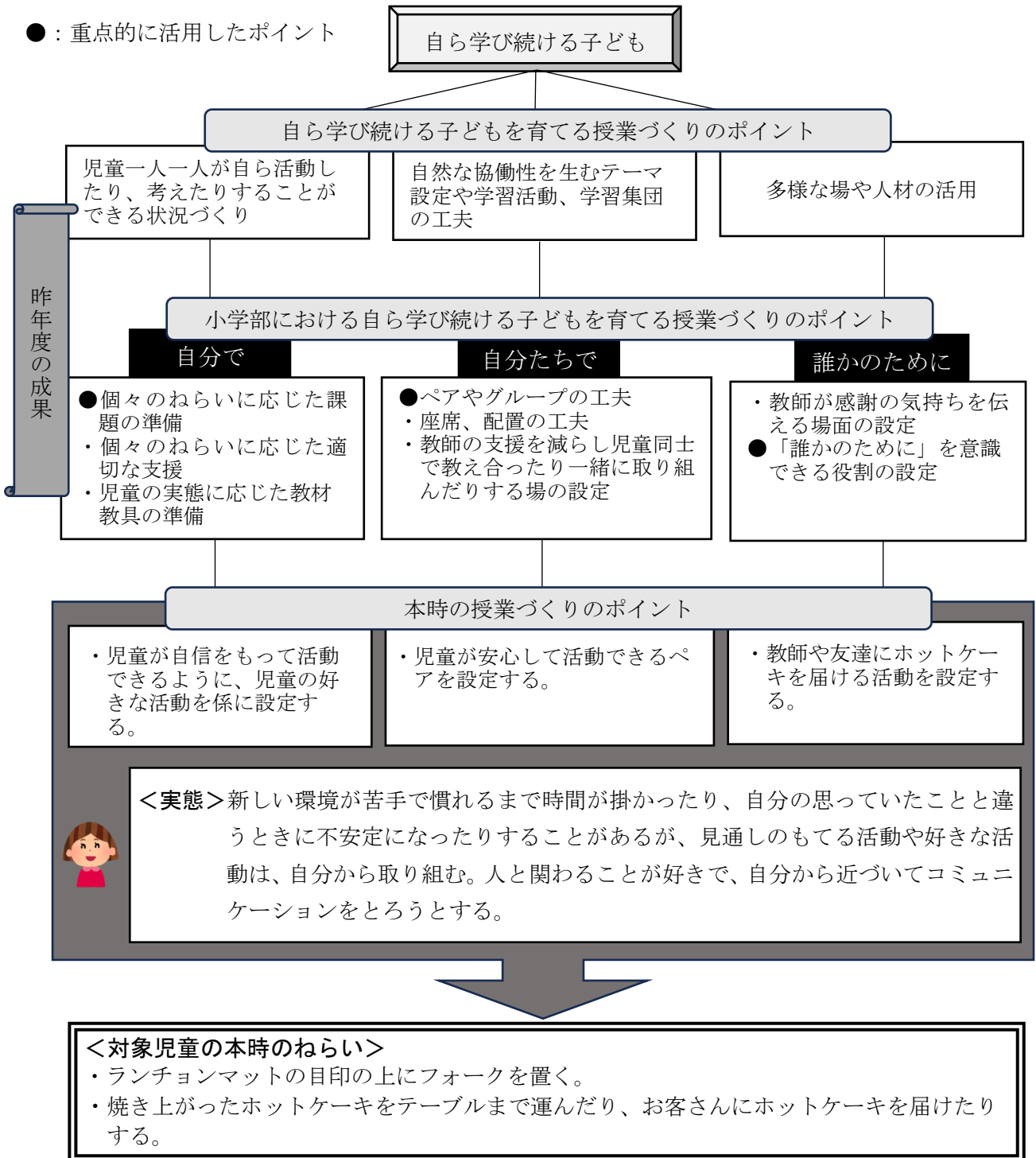


### 3年 生活単元学習 「パーティーをしよう⑤ ～クリスマスパーティー～」

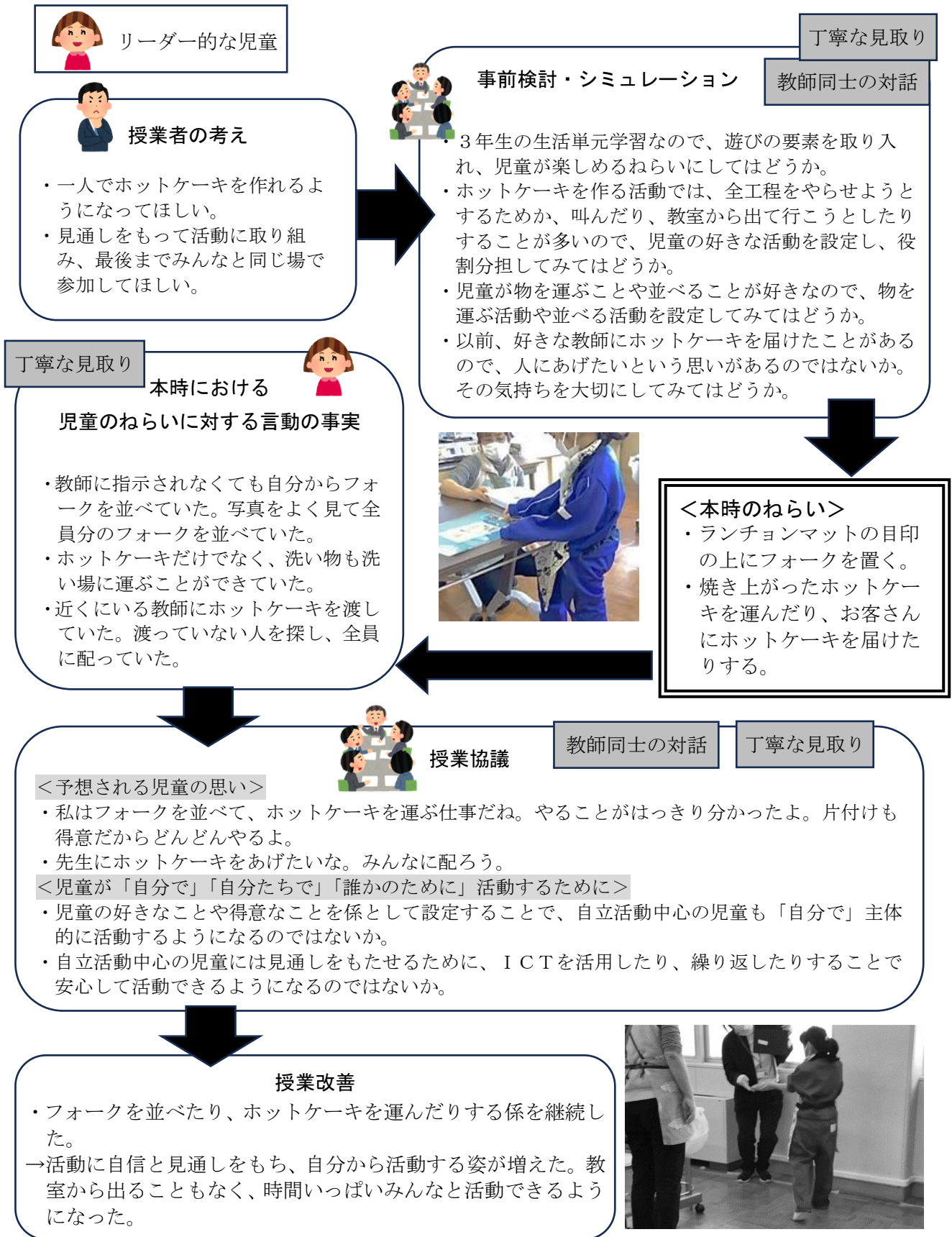
①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童のねらいのつながりと、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント



●：重点的に活用したポイント



②児童の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね



## 小学部 3年 生活単元学習指導案

日時：令和5年12月11日（月）10：20～11：30

場所：小学部3年1組教室、小学部実習室

児童：男子4名、女子4名、計8名

指導者：篠田るり子(T1)、柳田智子(T2)、菅原尚子(T3)  
大山万里子(T4)、京屋庸子(T5)

### 1 単元名 「パーティーをしよう⑤」～クリスマスパーティー～

#### 2 児童生徒と単元

##### (1) 児童生徒について

本学年は男子4名、女子4名の計8名で、2学級からなる。3名の児童は、調理器具など様々な物を握り続けたり、最後まで場を共有して活動したりすることが難しいが、得意な活動を設定することで、最後までみんなと同じ場にいられるようになってきている。また、どの児童も絵や写真、動画など視覚的支援を活用することで、見通しをもち、落ち着いて活動に取り組むことができるようになってきた。コミュニケーション面では、教師の質問に簡単な言葉で答える児童や、発声や表情で気持ちを表す児童がいる。自分の気持ちを一方的に伝えることが多く、ほとんどの児童が教師を介して友達と関わっている。学年での学習や、学級での活動などに友達と一緒に取り組んできたことで、少しずつ友達への関心が高まってきており、中には、友達のやり方を見てまねをする児童もいる。また、特定の音や声が気になり活動に集中できない児童もいるが、見通しをもちやすい作業的な活動であれば、やることが分かってじっくり取り組むことができるようになってきた。

##### (2) 単元設定理由

2年生での誕生日会やクリスマスパーティーでは、教師が準備した飲み物で乾杯したり、教師が企画したゲームで遊んだりした。2年生の後半には、ホットケーキ作りの工程が載っている教科書や絵本を児童が好んで見ており、「ホットケーキ」や「たまご」などと話す姿が見られた。また、遊びの指導や校外学習では、ままごとの道具を使い、児童同士で簡単なやり取りを楽しむ姿が見られた。そこで、本単元では、ホットケーキ作りを取り入れながらこれまで繰り返し行ってきた誕生日会やクリスマスパーティーを行う。児童の興味・関心の高いホットケーキを題材に取り上げることで、できるだけ自分たちで準備したり作ろうとしたりするのではないかと考えた。さらに、年間を通して繰り返しパーティーを行うことで、自分の役割が分かって自分から取り組む姿を育み、友達と協力して活動する楽しさを味わってほしいと考えている。

児童は、クリスマスはパーティーをしたり、ケーキを食べたりするなど楽しいイメージをもっている。そのため、クリスマスパーティーでは、飾り作りやお楽しみコーナー、会食を設定することで、意欲的に準備をしたりパーティーを楽しんだりする姿が見られるのではないかと考えた。これまでの「パーティーをしよう～おたんじょうびかい②—④～」のホットケーキ作りでは、実態に幅はあるが、必要な材料や道具を準備し、大まかな手順が分かって自分でできる部分が増えた。そこで、クリスマスパーティーでは、ホットケーキ作りに加え、トッピングしたりジュースや会場の準備をしたりするなど、児童の得意なことを生かした係を設定し、みんなで役割分担してパーティーを作り上げる楽しさを味わってほしいと考えている。

##### (3) 指導について

###### ①自分の役割が分かって自分から取り組む姿を育むために

- ・担当の係を毎回同じにする。
- ・児童の得意なことを生かした活動を取り入れ、活動や手順が分かるように、繰り返し練習する。
- ・自ら考えて活動できるように、すぐに言葉を掛けずに自分から協力を依頼するまで見守る。
- ・伝えたいことや活動内容は、短い言葉（キーワード）と絵カードや写真、映像などを使って視覚的に提示する。
- ・ホットケーキ作りでは、自ら取り組めるように個々に合った手順表を準備する。

②友達と協力したり、関わったりしながら活動する姿を育むために

- ・グループで準備したり、ホットケーキを作ったりする。
- ・協力してホットケーキを作ることへのイメージや期待感がもてるように、導入で「おばけのホットケーキ」の読み聞かせや映像を提示する。
- ・教師が気持ちを代弁したり、話す言葉を確認したりする。
- ・友達と協力して活動した際は称賛したり、振り返りで紹介したりする。

③安全に活動するために

- ・調理活動では、安全にホットプレートを使えるように、児童の立ち位置に印を付けたり、児童の背の高さに合った机を準備したりして、スムーズに動けるような配置や動線にする。
- ・調理器具を正しく扱えるように、持つ場所や扱い方について事前に確認する。
- ・マスクの着用を促したり、十分に手洗いを行ったりする。

### 3 単元目標(パーティーをしよう⑤～クリスマスパーティー～)

- (1)ホットケーキづくりの手順に合った道具を選んでホットケーキを作る。(知)
- (2)映像や手順表を見てホットケーキ作りやパーティーの準備に必要なものを自分から準備したり、友達と協力して生地を作ったりする。(知・思)
- (3)パーティーやホットケーキ作りで自分の役割が分かって活動したり、パーティーを楽しんだりする。(思・学)

### 4 単元計画(総時間数 81 時間/本時 44・45 時)

授業 時数	学習内容(各教科の内容) ※各教科等合わせた指導においては、 合わせている教科の内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 (知・思・学)
6 時間	「パーティーをしよう①」 ～3年生がんばろうかい～ 生カ役割(ア)(イ)、国A聞くこと1段階(ウ)	・自己紹介 ・会食	・自分の好きなものを話したり写真を見せたりする。(知) ・好きなものを自分で選ぶ。(思)
9 時間	「パーティーをしよう②」 ～7月おたんじょうびかい～ 生カ役割(ア)(イ)、国A聞くこと1段階(イ)	・係(司会や挨拶など)決め ・ホットケーキ作りの練習 ・お誕生日会	・教師と確認しながら必要な材料や道具を準備し、ホットケーキを作る。(知・思)
9 時間	「パーティーをしよう③」 ～8・9月おたんじょうびかい～ 生カ役割(ア)(イ)、算A数計算2段階ア	・カード作り ・ホットケーキ作りの練習 ・お誕生日会	・絵本や実物、写真を見ながら材料の名前を話したり、持ってきたりする。(知)
9 時間	「パーティーをしよう④」 ～10・11おたんじょうびかい～ 生カ役割(ア)(イ)、算A数計算2段階ア	・ランチョンマット作り ・ホットケーキ作りの練習 ・お誕生日会	・ホットケーキ作りのおおまかな流れが分かり、友達と一緒に必要な物を準備する。(知・思)
19 時間	「パーティーをしよう⑤」 ～クリスマスパーティー～ 生カ役割(ア)(イ)、算B1段階(ア) 算C1段階(ア) 生オ人との関わり(ア)(イ) 生き手伝い・仕事(ア) 図A表現2段階(イ) 音A表現1段階(ア)	・パーティーの内容決め ・係(司会や挨拶など)決め	・クリスマスパーティーを行うことが分かり、イラストや写真を見て、自分がやりたい係や活動を選ぶ。(思・学)
		・係(司会や挨拶など)で準備、練習 ・クリスマスの飾り作り	・自分の係の仕事が分かり、練習に取り組む。(思・学) ・好きな材料を選んでリースを作る。(学)
		<b>本時(11、12/19時間)</b> ・グループ(ホットケーキ作り、会食準備など)の発表 ・ホットケーキ作りの練習 ・会食の準備	・友達と一緒にホットケーキの材料や道具を準備し、手順に合った道具を選んで生地を作る。(知・思) ・グループで自分のやる事が分かり、少ない支援で活動する。(思・学) ・手順表や動画、写真を手掛かりにホットケーキを作ったり、会食の準備をしたりする。(知・思)
		・ホットケーキ作り ・会食の準備 ・クリスマスパーティー	・友達と一緒にホットケーキの材料や道具を準備し、手順に合った道具を選んで生地を作る。(知・思) ・グループで自分のやる事が分かり、一人で活動する。(思・学) ・友達と一緒にダンスをしたり、会食したりする。(思・学)
9 時間	「パーティーをしよう⑥」 ～1月おたんじょうびかい～ 生カ役割(ア)(イ)、算A数計算2段階ア	・ホットケーキ作りの練習 ・会食の準備	・グループで自分のやる事が分かり、自分から活動する。(思・学)
20 時間	「パーティーをしよう⑦」 ～ありがとうのかい～ 生カ役割(ア)(イ)生オ人との関わり(ア)	・ホットケーキ作りの練習 ・会食の準備 ・感謝状、飾り作り ・ありがとうの会	・一人で、または少ない支援でホットケーキづくりをする。(知・思・学) ・おうちの人の感想を聞いたり、感謝の言葉を伝えたりする。(思・学)



## 5 単元の評価規準(パーティーをしよう⑤～クリスマスパーティー～)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>手順に合った道具を選んで使用している。</li> <li>必要な材料を持ってきている。</li> <li>泡立て器で決められた回数混ぜ、生地を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順表や写真、動画を手掛かりに活動している。</li> <li>ボウルを支えたり、泡立て器で混ぜたりして役割分担して生地を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割が分かり、自分から活動に取り組んでいる。</li> <li>友達と一緒にダンスをしたり、会食したりしながらパーティーに参加している。</li> </ul>

## 6 本時の計画 (81 時中の 53、54 時)

### (1) 本時のねらい

映像や手順表、実物を見て自分のやることが分かり、グループに分かれてホットケーキづくりやパーティーの準備をする。

### (2) 児童生徒のねらいと手立て (対象児童生徒部分は太枠で囲む)

No	氏名(性別) 【グループ】	実 態	個別のねらい	手立て
1	A (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>早くホットケーキをひっくり返したいという思いがあり、タイマーを待たずにひっくり返してしまう。</li> <li>安全に気を付けることはまだ難しいが、一人でも作ることができる。特に焼くことを楽しみにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホットケーキを皿にあげるタイミングが分かりたくさん焼く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>裏面の焼き上がりの時間の目安になるように残り時間が分かるタイマーを準備する。</li> <li>決められた時間待てるように、待つ場所を決める。</li> <li>フライ返しを置く場所を決め、待っている間は持たない約束をする。</li> </ul>
2	B (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初は教師の見本をまねて取り組もうとするが、慣れてくると自分のやり方で進めようとすることが多い。</li> <li>ホットケーキづくりは焼くことを楽しみにしているが、少しずつ活動に慣れてきており、決められた量以上の生地を流し込もうとすることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お玉1杯の決まった量の生地を流し込み、たくさん焼く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動前に1杯分の生地をホットプレートに流し込む映像を提示する。</li> <li>一度にたくさんのホットケーキを焼くことが分かるように映像を提示する。</li> <li>決まった量以上に生地を流し込んだ際は、もう一度映像を見ながら約束を確認する。</li> </ul>
3	C (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>手順表に沿って活動することは難しいが、周りの様子を見てまねする。</li> <li>絵本のイラストを見ながらトッピングする動作をして遊んでいる。</li> <li>動きはゆっくりだが、作り方は一つ一つ丁寧である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の様子やできあがりの写真を見てトッピングする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の様子を見ながらトッピングできるように、席を隣同士にする。</li> <li>できあがりの写真は実物大の写真を用意する。</li> </ul>
4	D (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日繰り返していることは自分から動けるが、慣れていない活動は、自信のなさから教師の言葉掛けがないと次の活動に移ることが難しい。</li> <li>ケーキの絵を描いたり色を塗ったりすることが好きである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から次の皿を持ってきてトッピングする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トッピングの順番と材料が分かる手順表を準備する。</li> <li>安心して次の活動に自分から取り掛かることができるように、教師に報告する場面を設定する。</li> <li>黙ったまま動こうとしないときは、少し待ったり、手順表と一緒に確認したりする。</li> </ul>

5	E (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな活動は、集中して取り組むが、それ以外の活動は歌を歌ったり、独り言を話したりしていることが多い。</li> <li>学年の友達が好きで、友達の名前を呼んで近付き、自分から関わろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コップに付けた印まで飲み物を入れ、友達や自分の分のジュースを準備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰の飲み物か分かるようなめくりカードを準備する。</li> <li>カップに誰の飲み物か分かるように名前シールを貼り、飲み物を入れる量が分かるように印を付けておく。</li> </ul>
6	F (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>見通しのもてる活動や物を運ぶなど好きな活動は、自分から取り組む。</li> <li>新しい環境が苦手な慣れるまで時間が掛かったり、自分の思っていたことと違うときに不安定になったりすることがある。</li> <li>人と関わることが好きで、自分から近づいてコミュニケーションをとろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ランチョンマットの目印の上にフォークを置く。</li> <li>焼き上がったホットケーキを運んだり、お客さんにホットケーキを届けたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実物大のフォークの写真をランチョンマットに貼る。</li> <li>フォークを1本ずつ持っていけるように、お盆にフォークを並べる</li> <li>ホットケーキを置く場所が分かるように、実物大の写真を用意する。</li> <li>ホットケーキを届けたい相手を聞いたり、「持って行ってね」と言葉掛けしたりする。</li> </ul>
7	G (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファスナー付きの袋など好きな物はずっと持ち続けるが、興味のない物は投げることが多い。籠に入れると一人で目的の場所まで運ぶことができるようになってきている。</li> <li>異食行動があり、いろいろなものを口に入れようとしていたり、周りの様子を伺いながらその場から離れようとしていたりする。</li> <li>印を見ておおまかな場所にシールを貼ることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使った道具を籠に入れて流し台に運ぶ。</li> <li>ファスナー付きの袋から装飾を出し、ホワイトボードに貼る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>始めは教師と一緒に道具を籠に入れたり、流し台まで運んだりする。</li> <li>慣れてきたら持っていく物を指さして示したり、籠を渡して「お願い」「持って行くよ」と言葉を掛けて見守ったりする。</li> <li>楽しみながら活動できるように、児童の好きな袋に飾りを入れておく。</li> <li>貼る場所が分かるように、印を付けたり、教師が指さしをしたりする。</li> </ul>
8	H (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣れない活動では、教室に入るまで時間が掛かることがある。</li> <li>異食行動があり、いろいろなものを口に入れようとしていたり、衝動的に走り出したりすることがある。</li> <li>物を持ち続けることが難しいが、iPad など自分の好きな物であれば自分から触ったり、持ち続けたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使った道具を流し台に一人で持って行く。</li> <li>教師と一緒に、パーティーで流す曲を選ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動きが分かるように最初は教師と一緒に練習する。</li> <li>持っていく物を指さして示したり、「片付けます」と言葉掛けしたりする。</li> <li>好きな曲を選べるように、2つの動画を準備しておく。</li> <li>iPad は自由に操作できないように設定する。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分は児童対象生徒の個別のねらいに対する手立て
15	※身仕度を整えて集合する。【3-1 教室】 1 あいさつをする。 2 読み聞かせを聞く。 3 合い言葉を言い実習室に移動する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エプロンや三角巾の着用など、一人でできない部分は児童からの依頼を待って支援する。</li> <li>・T2は、友達と役割を分担してパーティー準備をするイメージがもてるように、「おばけのホットケーキ」の絵本や児童の顔写真を使った映像を見せる。</li> <li>・ホットケーキ作りやパーティーの準備への意欲が高まるように、児童と一緒に合い言葉を言う。</li> </ul>
35	4 手洗いをする。 5 二人一組でホットケーキの生地作りをする。 <グループ> ① F、C ② G、A ③ E、B ④ D、H 6 それぞれのグループに別れてパーティーの準備をする。 <グループ> ア)ホットケーキを焼く イ)トッピングする ウ)飲み物を準備する エ)フォークを並べる ホットケーキを運ぶ オ)片付け、パーティーに必要な物の準備をする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・しっかり手を洗えるように「あわあわ手洗いの歌」を教師と一緒に歌ったり、必要に応じて教師と一緒に手を添えて洗ったりする。</li> <li>・二人で生地を作れるように、それぞれのグループで気を付けることをイラストや写真で確認したり、教師が演示したりする。</li> <li>・一人で活動している際は、協力できるように、「〇〇さん困っているね」や「どうしたらいいかな」と言葉掛けする。</li> <li>・自分たちが使う材料が分かるように、材料をトレーにまとめたり、トレーに顔写真を貼ったりする。</li> <li>・&lt;グループ①、③&gt;調理しやすい高さの机を準備する。</li> <li>・&lt;グループ②、④&gt;GとHが活動に集中できるように、椅子を壁側に設置する。</li> </ul> <p><b>【ア】ホットケーキを焼く(A、B) T2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お玉1杯の生地を流し込むことやホットケーキをたくさん作ることが分かるように動画を準備する。</li> <li>・活動前にホットプレートに触らないなど安全な焼き方を写真やイラストで確認をする。</li> <li>・ひっくり返すタイミングが分かるように、タイマーを準備する。</li> </ul> <p><b>【イ】トッピングするG(C、D) T1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トッピングの量や配置が分かるように、見本となる写真や手順表を準備する。</li> <li>・トッピングしやすい高さの机を準備する。</li> </ul> <p>・(F) うまくトッピングができずに動きが止まったときは教師が近くに行ったり、目を合わせたりする。それでも助けを求められない際は「どうしましたか」と言葉掛けし、一緒に手順表を確認する。</p> <p><b>【ウ】飲み物を準備するG(E) T1</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰がどの飲み物を飲むか分かるように、名前シールと飲み物の種類が書かれためくりカードを準備する。</li> <li>・どのくらいの量を入れるか分かるように、マスキングテープでコップに印を付ける。</li> <li>・気持ちが活動に向かず、手が止まった際は、「ジュースはできましたか」と言葉掛けする。</li> </ul> <p><b>【エ】フォークを並べる、ホットケーキを運ぶ(F) T5</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーク置く場所に目印となるフォークの写真を貼る。</li> <li>・全員のフォークを配り終えるまでは見守り、最後に教師と一緒に正しくフォークが置けているか一つずつ見ながら確認する。</li> <li>・ホットケーキを置く場所が分かるように、実物の写真を机に貼る。</li> <li>・ホットケーキを届けたい相手を聞いたり、「持っていてね」や「まだもらっていない人は誰かな」と言葉掛けしたりする。</li> </ul>

			<b>【オ】片付け、パーティーに必要な物の準備をする (G、H) T 3、T 4</b> ・洗い物を持っていく場所が分かるような机の配置にする。 ・道具をどこに、どうやって運ぶのかが分かるように、始めは教師と一緒に洗い場に持って行く。 ・片付けが終わったら会食に必要なラジカセなどを取りに行く。
20	まとめ	7 今日の活動を振り返る。 8 会食をする。 9 あいさつをする。	・振り返りに集中できるように、会食の席とは異なる場所で振り返りを行ったり、テレビで映像を流したりする。 ・グループに分かれてホットケーキ作りやパーティーの準備を行っている姿を映像で提示し、一人一人の頑張りを評価する。 ・ホットケーキを食べながら個々の頑張りを出来栄を称賛し、クリスマスパーティーへの意欲を高める。 ・楽しい気持ちで会食に参加できるように、クリスマスの曲を流す。

#### (4) 評価

<児童生徒の評価>

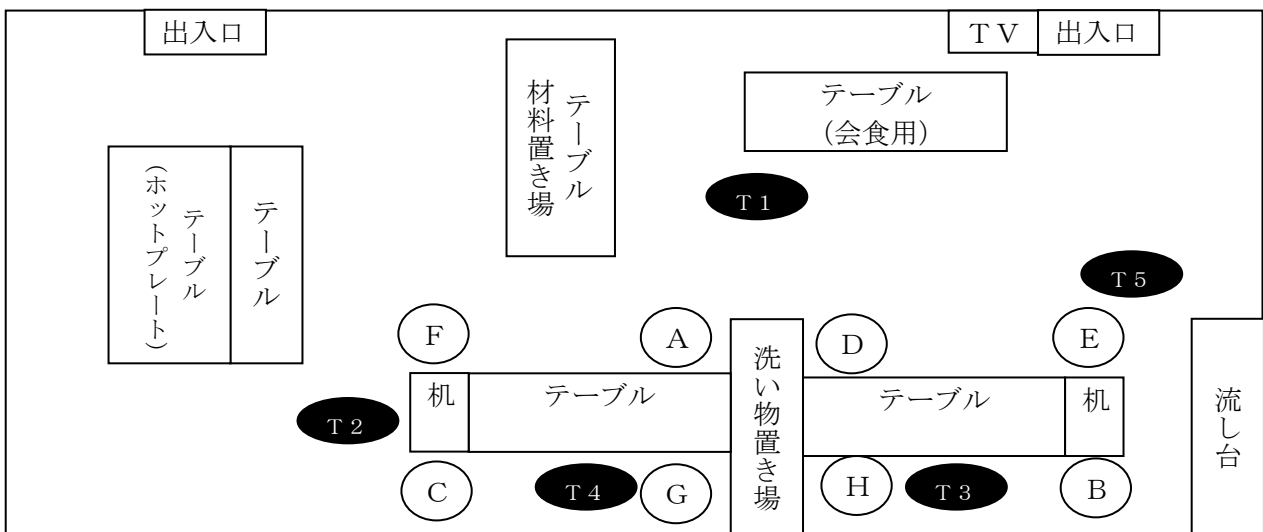
- ・映像や手順表、実物を見て自分のやる事が分かってきたか。

<教師の手立ての評価>

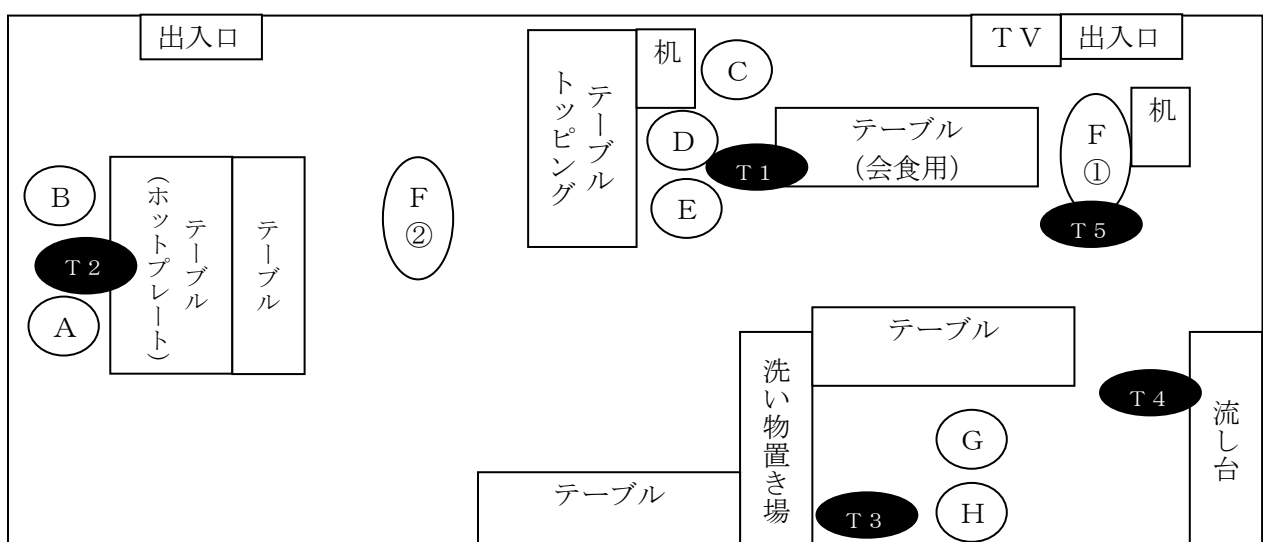
- ・児童が自ら活動するための映像や手順表は適切であったか。
- ・児童が意欲的に活動できる役割を設定できていたか。

#### (5) 配置図 (小学部自習室)

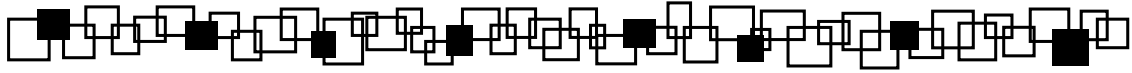
##### ①生地作り【学習活動5】



##### ②グループでパーティー準備【学習活動6】



# 中学部研究



## 中学部 授業づくりの実際

### 1 昨年度（1年次）の研究から

中学部では進路学習を研究対象授業とし、進路学習内容表を活用した指導計画の作成と学習内容の検討を行った。個の学びと他の人や物・環境との関わりを通した学びを関連させて積み重ね、自ら取り組んだり、気付きやよりよい考えを生み出したりする姿を目指す姿と想定した。それらを引き出すための効果的な単元構成、学習活動、手立てを検討した。

成果の一つ目は、目指す生徒像の育成に向けて各学年で学習内容や手立てを検討、実践し、学期末に評価することで、より良い実践につなげることができたことである。二つ目は、実態別縦割りグループや学年ごとの話し合いなど、様々な角度で3年間を見通して、どんな学習内容を扱うのかを検討できたことである。三つ目は、協働的な学びを充実させるための様々な手立てを共有できたことである。そこで今年度も進路学習を研究対象授業とし、有効だった手立てを活用しながら対象生徒のねらいや支援を検討し、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりを目指すことにした。

### 2 授業の実際

#### (1) 3年Aグループ 「働くってどんなこと？」

本単元は、働く人へのインタビューをまとめることで様々な職業に共通する「働くために必要な力」を見つけ、学校生活での自分の目標設定に生かすことをねらいとしている。

##### ①「自ら学び続ける子ども」と、授業における生徒のねらいのつながり

対象生徒は、将来働きたいという気持ちはあるものの、どんな仕事か具体的な考えをもっていない。また、身近にどんな仕事があるか、働くためにはどんな力が必要かについて理解が浅い。そのため、働く人へのインタビューを通していろいろな仕事があることを知ったり、仕事をする上でどんな力が必要か考えたりする姿を目指していくことにした。

##### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

###### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

- ・インタビューした仕事の中から興味をもったものを取り上げ、その仕事に必要な力と生徒自身の目標づくりを関連付けて扱う。

###### 2) 自然な協調性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

- ・いろいろな仕事を知ることができるように、グループでまとめたことを紹介し合う場を設定する。

###### 3) 多様な場や人材の工夫

- ・学校の近くのスーパーや校外学習先など、様々な職場で働く人にインタビューする機会を設ける。

##### ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

###### 1) 事前授業検討会・シミュレーションで話題になったこと

- ・働くことに前向きな気持ちを育てるために、インタビューで仕事のやりがいや楽しさを聞けるようにする。



写真1 各グループの発表内容を電子黒板で拡大し、共通点を探す場面



写真2 シミュレーションで教材の見やすさやワークシートの内容を検討



- ・自己理解を深め、自分の考えの変化に気付くために、自分の気持ちを表出したりインタビュー前後の考えを比較したりする機会を設定する。

## 2) 授業提示<授業検討・シミュレーションを経て工夫した点>


- ・ワークシートに感想欄を追加し、単元を通して自分の気持ちや考えの変化に気付くことができるようにする。

## 3) 授業協議

### インタビューで分かったことをまとめる場面

<p>対象生徒の言動</p> 	<p>インタビューで分かったことを簡潔にまとめることができていたが、ペアでのやりとりは少なかった。</p>
<p>教師の見取り</p> 	<p>ペア同士でやることを手分けしていたり、個々に動画を確認したりしていたからではないか。</p>
<p>授業への改善案</p>	<p>書いたことを交換して見合うなど、ペアでやり取りする手順を決めるとよいのではないか。</p>

### ワークシートで振り返る場面

<p>対象生徒の言動</p>	<p>スーパーの仕事で分かったことを振り返り、「大変そう」「今は仕事はやりたくない」とワークシートに書いた。</p>
<p>教師の見取り</p> 	<p>自分の得意不得意の理解や、仕事の大変さへの気付きがあったのではないか。</p>
<p>授業への改善案</p>	<p>その仕事を選んだ理由、給料の使い道、仕事を続けられる理由など、プラス面をたくさん聞くとよいのではないか。</p>

## 4) 指導助言

- ・単元の中で、インタビューや見学、動画での振り返りなど様々な形で仕事について考える機会が提供されていてよい。
- ・考える、話す、書くことに苦手意識がある生徒にとって、どのような手立てが必要かを考えていくことによって、よりよいものになると思う。
- ・社会から求められることを前提に考えてしまうと、夢や希望が減っていく。中学部段階の職業教育では、自分のやりたいことや興味・関心を広げていくことが必要な観点である。

## 5) 授業改善

給料の使い道や仕事を続けられる理由、やりがいなどについてのインタビューを取り上げたことで、将来はこんな趣味を続けたいなど、将来の生活への希望を考えるようになった。また、仕事について調べる学習を継続したことで、スーパーの仕事をやってみたいと話ようになった。

## (2) 2年Aグループ 「いろいろな仕事」

本単元は、働く人へのインタビューやインターネットを活用した仕事調べなどの学習を通して、社会にはいろいろな仕事があることを知り、「やってみたい」「その仕事に向いている人になりたい」と興味をもち、「自分はどんな仕事に向いているのだろう」「働くためにはどんな力が必要なのだろう」と考えることで自己理解を深めることをねらいとしている。

### ①自ら学び続ける子どもと授業における生徒のねらいのつながり

対象生徒は、将来は働きたいという漠然とした希望がある。やってみたい仕事は、自分の生活に身近なものを考えている。しかし、どんな仕事にどんな人が向いているのか、働くためにはどんな力が必要かについては理解が浅い。また、インターネット等を活用して資料を読み取ったり、それを基に考えたりすることに自信がない。そのため、友達と一緒に調べ学習をして、必要なことを取捨選択してまとめたり、資料を基に調べたことや気付いたことについて感想を書いたりすることで、仕事への知識を得る姿を目指していくことにした。

### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

#### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

- ・学習は①めあてを知る②予想する③調べる④まとめ・感想、の流れで毎回繰り返す。
- ・自分の将来や夢を意識して主体的に学習できるように、生徒が興味をもった職業を中心に取上げる。

#### 2) 自然な協調性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

- ・グループで活動する前に、一人で予想したり考えたりする時間を設ける。
- ・友達の考えを知って自分の考えをより深められるように、自分の意見を伝える段階の生徒と意見を比較して考えられる段階の生徒のグルーピングにする。

#### 3) 多様な場や人材の工夫

- ・栄養士の先生やスクールバスの運転手など、校内で働く人にインタビューをする機会を設ける。

### ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね


#### 1) 事前授業検討会・シミュレーションで話題になったこと

- ・学習内容を精選し、実態に合ったねらいを設定する。
- ・タブレットを使った調べ方を習得するために、どのような手順で調べたらよいか、調べ方のサンプルを例示する。
- ・他の人との関わりから自分の考えを改めて考えたり、まとめたりする場面（発表内容の比較、個人目標の比較など）を設定する。


#### 2) 授業提示<授業検討・シミュレーションを経て工夫した点>

- ・対象生徒のねらいに沿った活動に重点をおけるように、調べる項目を減らす。
- ・まとめのワークシートに、どんなことについて書くのか具体的な観点を示す。

#### 3) 授業協議

<p>対象生徒の言動</p> 	<p>友達に教えてもらう場面はあったが、ペアでの話合いがあまり進まなかった。</p>
--	--



教師の見取り 	書く内容や調べる情報量が少し多かったのではないかと。自分たちだけで話を深めていく段階でないのではないかと。
授業への改善案	調べる項目を絞り、話し合うポイントを一つに絞るとよいのではないかと。3グループから2グループにし、それぞれのグループに教師が入って話し合いを補助するなど、話し合いの仕方を学ぶ機会があるとよいのではないかと。

#### 4) 指導助言

- ・生徒のつぶやきを拾って、それを本人に調べさせるという学習過程はよかったが、学びを深めるためには、個の学びを全体に共有する場面でより工夫が必要である。
- ・ICTを活用した学習に興味をもっていたが、生徒にとって情報が多すぎる部分もあった。映像から何を読み取ってほしいのか、教師側がICTを活用する際のねらいを十分検討してほしい。



写真3 研究協議会の様子

#### 5) 授業改善

調べる項目を絞り、調べたことを全体で共有できるように、電子黒板を活用しながらまとめを行った。また、グループでの話し合いでは教師が進め方やまとめ方を補助することで、生徒が集団の中で自分の考えを伝えようとするが増えた。

### (3) 1年Cグループ 「中1おたすけたい～こまっているひとのためにはたらこう①」

本単元は、職員室や事務室、寄宿舍などのごみ捨てや依頼者とのやり取りを通して、他者とのよりよい関わり方を身に付け、感謝される体験を積み重ねる学習活動である。働く喜びや楽しさを感じることで、社会の中で意欲的に役割を果たす、相手の立場に立って考える、最後まで責任をもって取り組むことを目指すことをねらいとしている。

#### ①「自ら学び続ける子ども」と、授業における生徒のねらいのつながり

対象生徒は、誰かの役に立ちたい思いは強いが、実際に任されると緊張から声が小さくなったり言葉遣いが荒くなったりする。また、やるべきことを最後までできないことがある。そこで、ごみ捨てや依頼者とのやり取りを通して、任された仕事に最後まで取り組むことや、丁寧な言葉遣いで受け答えする姿を目指していくことにした。

#### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

##### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

- ・意欲をもって取り組めるように、友達と同じエプロンや名札を準備する。
- ・見通しがもてるように、作業学習で経験のある活動や道具を取り入れたり、場所が変わっても同じ手順で繰り返し取り組める活動に取り組んだりする。

##### 2) 自然な協調性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

- ・困っている誰かを助けるために活動しようという気持ちが芽生えるように「おたすけたい」という单元名を合言葉にしたり、活動が始まる前に全員で掛け声をかける場面を設定したりする。

### 3) 多様な場や人材の工夫

- ・普段関わりが少ない人とも適切なやりとりができるように、職員室や事務室、寄宿舍などで活動する場面を設定する。
- ・感謝されていることが実感できるように、依頼相手から直接言葉を掛けられるような学習内容を設定する。

## ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

### 1) 事前授業検討会・シミュレーションで話題になったこと

- ・役割を務め感謝される経験を積み重ねられるように、振り返りの仕方を工夫する（様々な人からの即時評価、シールなどの視覚的評価）。





写真4 シミュレーションの様子

### 2) 授業提示<授業検討・シミュレーションを経て工夫した点>

- ・振り返りの場面で、依頼相手からもらった花丸カードを全体に紹介して掲示する。
- ・レベルアップした証として、授業の最後に個々の名札にシールを貼る。

### 3) 授業協議

<p>対象生徒の言動</p> 	<p>何をやればいいのか分かっていて、自信をもって最後まで活動していた。依頼者の顔を見て最後まで話を聞いていた。</p>
<p>教師の見取り</p> 	<p>繰り返しの活動だったので、見通しをもてたのではないかな。導入で相手との関わり方のよい例、悪い例を演示したのが分かりやすかったのではないかな。</p>
<p>授業への改善案</p>	<p>経験を積み重ね、今後は場所、場面、相手を変えていくことで一層レベルアップできるとよい。</p>

### 4) 指導助言

- ・的確な実態把握により、生徒ができることを見極めて指導案をつくったことで、生徒が堂々と自信をもって活動していた。
- ・名札やシールなど、意欲を高める仕掛けがよかった。
- ・人との関わりを広げていくためには、身近な人から学校の先生や友達など段階を踏んでいくことが大切である。
- ・役割による貢献から働く意味を知り、働こうという気持ちにつながる。役割を果たす、感謝される勤労観が土台となり、職業観につながっていくことを考えて進路学習を進めてほしい。

### 5) 授業改善

協議後の授業では、寄宿舍や事務室、職員室、高等部の各教室の清掃やごみ捨てを継続し、たくさんの職員とのやりとりを重ねた。活動場所を変更し関わる相手を変えたり、適切なやりとりを動画で振り返ったりすることで、いろいろな場面で生徒が自信をもって人と関わり、任された仕事を最後までやり遂げる姿へつながった。



写真6 相手をしっかり見て話す生徒

### 3 まとめ

#### (1) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて

##### ①「自ら学び続ける子ども」と授業における生徒のねらいとのつながり

対象生徒の実態を事前検討で共有し、授業シミュレーションでねらいを達成した具体的な姿を検討することで、対象生徒の育てたい力について学部全体で段階的に考えることができた。

一方、対象生徒の自ら学び続ける姿を具体的に捉え、本時のねらいとのつながりを考えるためには、事前検討で話題に上がった部分を、どのような場面でどのように改善するか、学年や学習グループの担当で再検討する機会をもつことが必要である。

##### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントの活用

学校内外の働く人を対象にしたインタビューや、寄宿舎や職員室など校内の様々な場を使った学習など、多様な人材や場を活用した単元計画を立てたことで、様々な人との関わりの中で、知識として学んだことを実際の場面で確かめたり、学びを実感したりすることにつながった。

また、動画や電子黒板、タブレット端末などのICTを導入や振り返りに活用することで、生徒の分かりやすさにつながった。しかし、生徒のねらいを達成するために、どのように活用することが最適か、十分検討する必要があることが分かった。

次年度は、生徒の実態や単元の流れに応じて、授業づくりのポイントをどこでどのように活用するのが効果的か、学部で定期的に検討していきたい。

##### ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

ミニ検討会(授業者、学部主事、副主事、教育専門監、研究部が参加)、学部職員での事前検討会、授業シミュレーションと、メンバーや検討内容を絞って複数の検討会を実施した。話合いの内容を明確にしたことで、単元計画の検討、対象生徒の実態の共有、ねらいの妥当性の検討と段階を踏んで授業づくりができた。

#### (2) 生徒の変容

##### ①自分と社会とのつながりを考えたり実感したりする姿

いろいろな仕事について調べたり、働くことについて考えたり、実際に体験したりする機会をもったことで、働くことを今の自分と照らし合わせて考えたり、将来の生活に向けて具体的な関心を向けたりするようになってきた。さらに、寄宿舎や事務室、他学年や他学部の職員など、多様な場で様々な立場の人と関わりながら自分の役割を務め、感謝されたり認められたり教えてもらったりすることで、自分以外の人とのつながりを感じ、意欲的に活動しようとする姿が見られるようになった。

##### ②学んだことを、他の場面で実践しようとする姿

活動を通して様々な立場の人と関わることで、他学年の教師や、関わったことのある職員には、自分から進んで挨拶をすることが増えたり、適切な態度でやりとりをしようとする姿が見られたりした。また、働く上で健康な体づくりの大切さに気付き、睡眠時間の確保や朝食の摂取など、今の自分にできそうなことを実践する生徒や、それを見習う生徒が見られるようになってきた。

### (3) 職員の変容

#### ①生徒の言動に着目し、教師の支援の妥当性を考える姿勢の高まり

対象生徒を設定したことで、事前検討会での実態の共有を踏まえ、生徒の発言や行動を具体的にイメージしながら、教師の支援に妥当性があるか、他に手立てはないかを考える姿勢が高まった。また、授業参観や協議の視点を共通理解することで、授業協議で生徒のねらいにせまる意見交換ができた。

#### ②中学部段階の進路学習についての意識の変化

働くことに興味・関心をもつ、いろいろな仕事やおおまかな仕事内容を知る、将来を前向きに捉えるなどの中学部段階の職業観を学部全体で共有し授業づくりを検討してきた。授業づくりを進める中で、将来の生活に関連させて自分の長所や短所を知ること、仕事や生活についての知識を得ることだけでは十分な進路学習とはいえ、様々な人との関わりの中で、自分の役割を果たし、他者から認められたり必要とされたりする経験を積み重ねていくことも併せて考えていく必要があると改めて意識するようになった。

### (4) 次年度に向けて

できること・やりたいこと・社会から求められることの重なりを広げる視点を持ち、様々な集団の中で自分の役割を果たす経験と、他者から認められたり必要とされたりする経験を積み重ね、自分から考えたり意欲をもって行動したりして学びを実感する授業づくりを検討していく。

そのために、今年度の成果をもとに教育的ニーズに応じたグループでの進路学習を継続しつつこれまでも学年で継続的に取り組んでいる「一定のテーマに沿って活動する生活単元学習の単元」についても再考し、自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりを考えていきたい。

## 対象生徒について

資料4

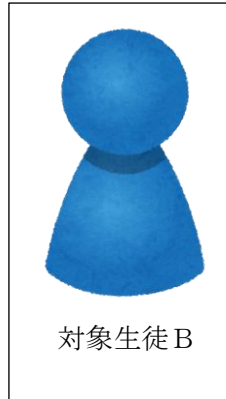
### 対象生徒の実態

【障害特性や得意なこと、学習面や生活面で困っていることや、その背景にあること】

- ・周りのことを考えて発言をしたり、友達の発言を待ったりすることができる。
- ・自分の意見をもっているが、周りの反応を気にして伝えられずにいることがある。
- ・気になることがあると、気持ちが活動からそれてしまうことがある。
- ・気持ちに波があり、落ち込んだり、いらいらしたりすると投げやりな態度になることがある。

【本単元に関わる実態】

- ・将来は働きたいという気持ちがあるが、どんな仕事があるか、自分にはどんなよさがあり、どんなことが得意か、どんな力が必要か具体的にイメージをもつことが難しい。
- ・働く人にインタビューをした経験があり、経験を基に質問を考えたり、友達と協力しながらインタビューをしたりしている。



### 本単元における育みたい資質・能力 (対象生徒の本単元のねらい)

- ・働いている人へのインタビューを通して具体的な仕事の内容や、働くために必要な力について知る。
- ・インタビューをした仕事の中から、興味をもった仕事、やってみたいと思った仕事を選び、その仕事をする上で必要な力を知る。
- ・自分の身近にどんな職業があるか、具体的にどんな仕事をしているかを知り、自分の興味のある仕事について考える。
- ・働くために必要な力を身に付けるためにどうすればよいか考え、具体的に目標を立てる。
- ・今の自分の得意なことや苦手なことについて振り返り、自分のことを知る。

### 本時の期待する姿（本時のねらい）

- ・働くために必要な力について知り、どの仕事にも共通している力について見付ける。
- ・インタビューをして分かったことを、短い言葉で分かりやすくまとめる。

## 本時で予想される子どもの思い

働くために〇〇が必要なんだ。他のグループはどんなことが分かったのかな

スーパーってこんな仕事があるんだ

ここはみんなに伝えたい  
ここが大事なんじゃないかな

スーパーの仕事は〇〇が楽しい、やりがいがあるんだ

## 思いを引き出すための支援や手立ての工夫

- どの仕事についても共通している必要な力を見付けられるように、他のグループがインタビューについて簡潔にまとめて書いた付箋を提示し、比較する活動を設定する。
- 友達と協力してまとめられるように、ペアやグループで活動する場面を設定する。
- 簡潔にまとめられるように、メモを見ながらどの部分を伝えればよいか、どこを伝えたいかを友達と相談し、伝えたい部分に印を付けるよう言葉を掛ける。
- 項目に沿ってまとめられるように、あらかじめ項目を示したワークシートを提示し、ワークシートに沿ってまとめるよう伝える。
- グループやペアでまとめたシートを提示しながら発表する活動を設定し、自分たちが付箋に書いた言葉と似ている言葉はないかなど聞くときのポイントを伝える。

## 中学部3年 生活単元学習(進路学習Cグループ)指導案

日 時：令和5年7月10日(月)10:40~11:50

場 所：中学部3-1教室

生 徒：男子2名、女子5名、計7名

指導者：市川奈津子(T1)、熊谷理香子(T2)

### 1 単元名 働くってどんなこと？

#### 2 生徒と単元

##### (1) 生徒について

7名(男子2名、女子5名)の学習グループである。自分の考えを言葉で伝えることができる生徒がほとんどであるが、言葉の選び方や使い方に課題がある生徒が多い。

進路学習で「知っている職業は何ですか」という質問に、モデル、タレント、裁判官、建築士、銀行などたくさんの職業が挙げられた。自分の身近な職業だけでなく、名前を聞いたことがある、テレビやYouTubeで見たことがあるという職業がたくさん出された。職業としての名前は知っているも、仕事の内容についての知識はあまりない。

全員が高等部を卒業したら仕事をしたいという気持ちをもっており、「給料をもらって働きたい」という発言が多く聞かれる。しかし、自分はどんなことが得意か、働くためにはどんな力が必要かなどの自己理解についてはまだ不十分である。また、仕事をすることについて具体的なイメージをもてず、学習活動に消極的になったり、目標をもてずにいたりすることもある。

実際に経験したことや、学習をしたことを基に具体的な目標を立てられるようになってきていることから、本単元では、働く人へのインタビューを通して、仕事の内容についての知識を身に付けるだけでなく、今の自分について振り返り、自分のよさに気づき、前向きに具体的な目標を立て、目標を達成しようとする姿を目指していきたい。

##### (2) 単元設定理由

2年生の進路学習で、学校の職員(栄養教諭、技師、事務、養護教諭)へ、仕事内容や1日のスケジュールについてインタビューする活動を行った。学校内には先生だけでなく、いろいろな仕事をしている人がいることが分かり、具体的な仕事内容やスケジュールについてまとめることができたが、自分が働くこととつなげて考えることは難しかった。

この単元では、2年生での学習を生かし、身近で働く人やこれまでの学習で関わりのあった職業の人に、インタビューをする。自分たちで質問を考え、直接相手から話を聞くことで、働くとはどういうことか、働く楽しさややりがいとは何か、どんな力が必要か具体的にイメージできるのではないかと考える。また、インタビューを通して分かった必要な力を基に、自分で目標を立てる活動では、周りの人からの好意的(肯定的)なエピソードを集め、紹介することで、自分に自信をもって考えたり、行動したりすることにつながるのではないかと考え、本単元を設定した。

##### (3) 指導について

###### ①生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり

- ・インタビューの様子を動画で撮影し、動画を見ながら振り返りをする。
- ・仕事の内容や働くために必要な力について知ることができるように、インタビューしたことを、仕事の内容、必要なことなど項目ごとに表にまとめる活動を設定する。
- ・目標を具体的に考えられるように、インタビューをしてまとめたことを基に働くために必要な力のチェックリストを作成し、チェックリストに沿って自分でチェックしたり、周りからの評価を聞いたりする活動を設定する。
- ・インタビューを通して分かったことが、インタビューをした仕事だけでなく、働くこと全般に必要な力であることがイメージできるように、職業準備性ピラミッドを活用する。

###### ②自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

- ・前向きな気持ちで目標を考えられるように、インタビューをした職業の中から面白そう、やってみたいなど思った仕事を選び、その仕事をする上で必要な力から目標を立てる活動を設定する。
- ・見通しをもち、落ち着いて活動できるように①インタビューの練習する、②インタビューする、③振り返る、を繰り返し行う。

- ・友達と相談したり、意見交換したりしながら進められるように、ペアやグループでインタビューをしたり振り返りをしたりする。
- ・いろいろな仕事について知ることができるように、グループやペアでまとめたことを紹介し合う場を設定する。

### ③多様な場や人材の活用

- ・自信をもってインタビューできるように、校内でインタビューをしてから校外の職場でインタビューをする機会を設定する。
- ・身近な仕事に興味をもったり、仕事の内容について知ったりできるように、学校の近くのスーパーや校外学習先でインタビューをする機会を設定する。

### 3 単元目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 自分たちの身近な仕事の具体的な内容や、働いている人が感じるやりがい、働くために必要な力について知る。知
- (2) インタビューを通して分かったことを分かりやすくまとめ、紹介する。思
- (3) 働くことについてまとめたことを基に、これからの自分の生活にかかわる具体的な目標を立てようとする。学

### 4 単元（題材）計画（総時間数 26 時間／本時 14 時）

時	学習内容（各教科の内容） ※各教科等合わせた指導においては、合わせている教科の内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">関</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )
4	自分たちが知っている、興味のある仕事について 職Aア（イ） ・身近な仕事	・自分たちが知っている仕事について出し合う。 ・身近に感じている仕事、テレビなどで知っている仕事に分ける。	・自分の知っていることを伝えたり、友達の話の聞いたりしながら仕事を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>
(10/18時)	働くことについて知る ・仕事の内容 ・仕事をする楽しさややりがい ・仕事をする上で必要な力、大切なこと 職Aア（ア）、イ（ア） ・インタビュー 国A聞くこと・話すこと（ア） ・インタビューのまとめ 国A書くこと（ア）	・働く人にインタビューをする。 ・インタビューを通して分かったことを簡潔にまとめる。 ①学校の先生 ②伊徳川尻店 ③秋田空港 ④大森山動物園	・働く人へのインタビューを通して仕事の内容や働くために必要な力について考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
4	これからの自分を考える ・やってみたい、興味をもった仕事 ・これからの目標 職Aア（イ）、イ（ア）	・インタビューをしたことを基に自分でやってみたい仕事、興味をもった仕事を選ぶ。 ・自分で選んだ仕事に必要な力についてまとめたことを基に振り返る。 ・チェックリストを参考に自分の目標を具体的に考える。	・やってみたい仕事、興味をもった仕事に必要な力を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・チェックリストを基に今の自分について振り返る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> ・チェックリストでのチェックや周りの人からのエピソードを参考に目標を具体的に考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>



## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューをする際に気を付けるポイントを意識して、インタビューをしている。</li> <li>分かったことを項目ごとに簡潔にまとめている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の聞きたいことを相手に伝えるように話したり、友達の意見を聞いたりしている。</li> <li>自分ができること、苦手なことについて考え、達成できそうな目標を具体的に立てている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と意見交換し合いながら、質問事項を考えたり、インタビューの練習をしようとしたりする。</li> <li>チェックリストなどを参考にしながら前向きな気持ちをもって自分の目標を立てようとしている。</li> </ul>

## 6 本時の計画（26 時中の 14 時）

### (1) 本時のねらい

- ①インタビューをして分かったことを項目ごとに短い言葉で簡潔にまとめる。
- ②それぞれの仕事を比較し、働くために必要な力や、やりがいについて同じ点や似ている点を見付ける。

### (2) 生徒のねらいと手立て（対象児童生徒部分は太枠で囲む）

No	氏名・性別	実 態	個別のねらい	手 立 て
1	A (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来は働きたいという気持ちはあるが、気持ちが乗らないと、授業に向かえないことが多い。</li> <li>メモや文章を読んで、キーワードを探し、書き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働いていてよかったこと、楽しいと思うことを知る。</li> <li>インタビューをして分かったことを項目ごとに簡潔に付箋に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューしたことの中で、働いていてよかったことなどに注目できるように、インタビュー内容をまとめる際に注目する点を具体的に提示する。</li> </ul>
2	B (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等部卒業後は、趣味を楽しむために、働いて給料をもらいたいという気持ちがある。</li> <li>どんな仕事があるか、自分はどんな仕事がしたいかなどの具体的なイメージはまだない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くために必要な力について知り、どの仕事にも共通している力について見付ける。</li> <li>インタビューをして分かったことを、友達と協力して短い言葉で分かりやすくまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの仕事についても共通している必要な力を見付けられるように、他のグループがインタビューについて簡潔にまとめて書いた付箋を提示し、比較する活動を設定する。</li> <li>友達と協力して簡潔にまとめられるように、ペアでメモを見合う場面を設定したり、キーワードになる言葉を話し合う活動を設定したりする。</li> </ul>
3	C (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等部卒業後は働いて給料をもらいたいという気持ちがある。</li> <li>自分の意見はあるが、自信がなく、みんなの前で伝えることが少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くために必要なことや、日頃気を付けることなどを知る。</li> <li>友達と一緒にインタビューをした時のメモから必要なことを探し、簡潔にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビュー内容を基に考えたり、まとめることができるように、インタビューをしたときの様子をタブレットで提示する。</li> <li>簡潔にまとめられるように、キーワードになる言葉を話し合う活動を設定し、キーワードを書き出してみるよう伝える。</li> </ul>

4	D (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をしたいという気持ちはあるが、授業に向かえないことがある。</li> <li>・少人数のグループやペアでの活動では、自分の考えを積極的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いていてよかったことや、楽しいと思うことを知る。</li> <li>・インタビューメモを基に分かったことを友達と協力して項目ごとに簡潔に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューしたことの中で、働いていてよかったことなどに注目できるように、インタビュー内容をまとめる際の項目を具体的に提示する。</li> <li>・メモだけで不安なときは、インタビューの様子をタブレットで提示し、参考にするよう伝える。</li> </ul>
5	E (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部卒業後は働きたいという気持ちはあるが、どんな仕事があるかなどの具体的なイメージはもてていない。</li> <li>・自分の意見をもっており、自分から伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いていて楽しいと思うことや大変なことなどについて知る。</li> <li>・友達と協力しながら、インタビューをして分かったことを付箋に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しいと思うことや大変なことなどを振り返られるように、タブレットを準備し、動画を確認してみるよう伝える。</li> <li>・友達と協力して進められるように、グループでメモを見合い、キーワードになる言葉を探す活動を設定する。</li> </ul>
6	F (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部卒業後は、一人暮らしをしながら働きたいという気持ちがある。</li> <li>・どんな仕事があるか、自分が得意なことはどんなことかなどの具体的なイメージはもてていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くために必要な力について知り、どの仕事にも共通している力について気付く。</li> <li>・インタビューをして分かったことを友達と協力して項目ごとに簡潔にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの仕事についても共通している必要な力を考えられるように、インタビューについてまとめたものを提示し、共通している言葉を探してみるよう伝える。</li> <li>・分かったことを簡潔にまとめられるように、メモを見合い、キーワードになる言葉を探すよう伝える。</li> </ul>
7	G (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後は、人と接する機会が少ない仕事をしたいと考えている。</li> <li>・一緒に活動している人には自分の意見を積極的に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働いていてよかったことや、楽しいと思うことを知る。</li> <li>・インタビューメモを基に分かったことを友達と協力して項目ごとに簡潔に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューしたことの中で、働いていてよかったことなどに注目できるように、インタビュー内容をまとめる際の役割分担を提示する。</li> <li>・友達と協力してまとめられるように、ペアやグループで活動する場面を設定し、メモを見合いながらまとめるよう言葉を掛ける。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分は対象生徒の個別のねらいに対する手立て
10	1 前時の内容を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊徳川尻店で見学したことやインタビューをしたことを思い出せるように、タブレットで撮影した動画を提示しながらどんな仕事があったか、どこを見学してきたかなどを質問する。</li> <li>・見学を通して、分かったことや、気付いたことなどを発表する機会を設定する。</li> </ul>
	導入	<p>めあて：インタビューで分かったことから、同じ点や似ている点を見付ける</p>
30	2 スーパーで働く人の仕事内容、インタビューで分かったことをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時は、インタビューをして分かったことをペアやグループでまとめ、同じ点や似ている点を見つけることを伝える。</li> <li>・友達と協力してまとめられるように、ペアやグループでまとめる活動を設定する。</li> <li>・簡潔にまとめられるように、メモを見ながらどの部分を伝えればよいか、どこを伝えたいかを友達と相談し、伝えたい部分に印を付けるよう言葉を掛ける。</li> <li>・メモだけで不安なときは、インタビューの様子を撮影した動画をタブレットで提示し、確認しながら進めるよう伝える。</li> <li>・学校で働いている人へのインタビューをまとめたものを例として提示し、どのようにまとめればよいか確認する時間を設定する。</li> <li>・項目に沿ってまとめられるように、仕事内容、やりがいや楽しいと思うこと、必要な力や大切にしていることなどの項目を示したワークシートを提示し、ワークシートに沿ってまとめるよう伝える。</li> </ul>
	展開	<p>ペア：B、C F、A グループ：D、E、G</p>
15	3 グループでまとめたことを紹介し、どの部門にも共通している点を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく発表できるように、話し方の例の手本を提示し、例に沿って発表するよう伝える。</li> <li>・分かりやすく発表するための工夫として、動画を活用してもよいことを伝える。</li> <li>・自分たちがまとめたことと比較しながら発表を聞けるように、発表を聞くときに注目する点を黒板に提示する。</li> <li>・どの部門にも共通していることを見付けられるように、それぞれのグループやペアでまとめたシートを黒板に提示し、似ている言葉に注目するよう伝え、比較する時間を設定する。</li> </ul>
15	4 それぞれの部門に共通している点を発表しあう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりがいや、楽しいと思うこと、働くために必要な力、気を付けていることで見付けた共通点を項目に沿ってワークシートに記入し、発表する時間を設定する。</li> </ul>
	まとめ	

(4) 評価

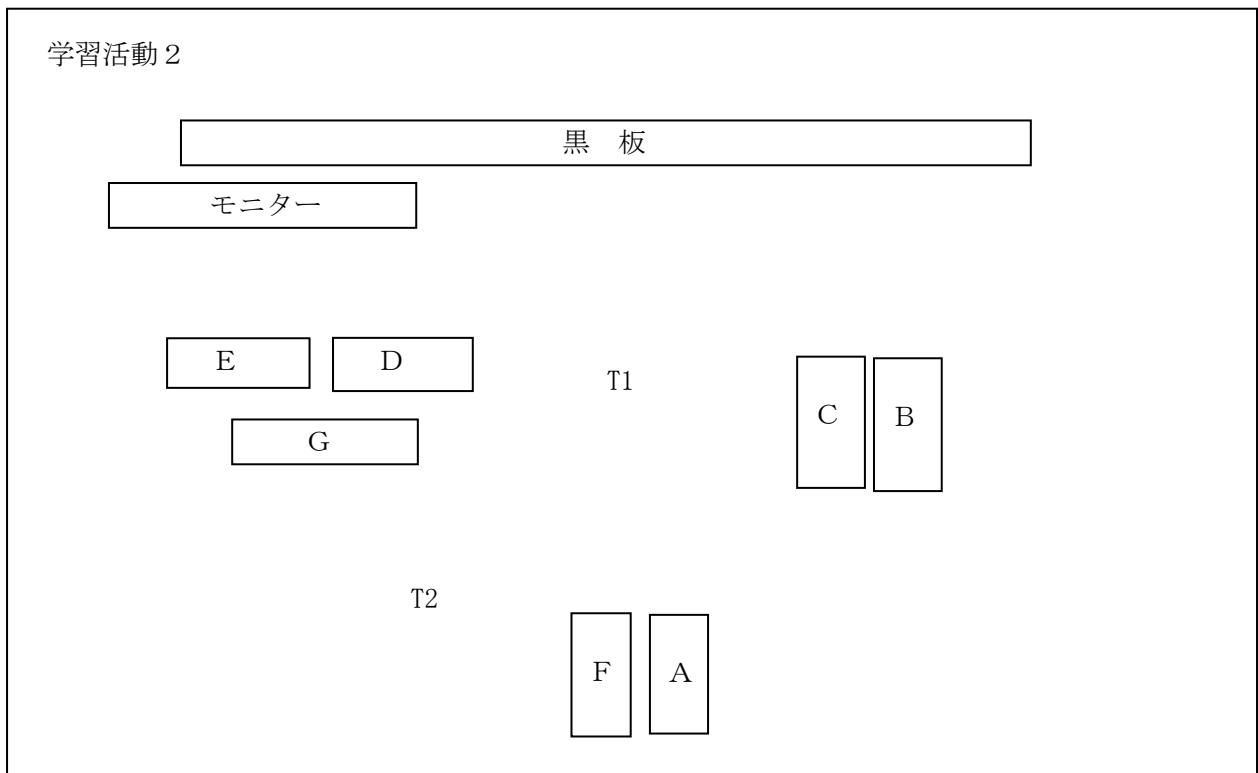
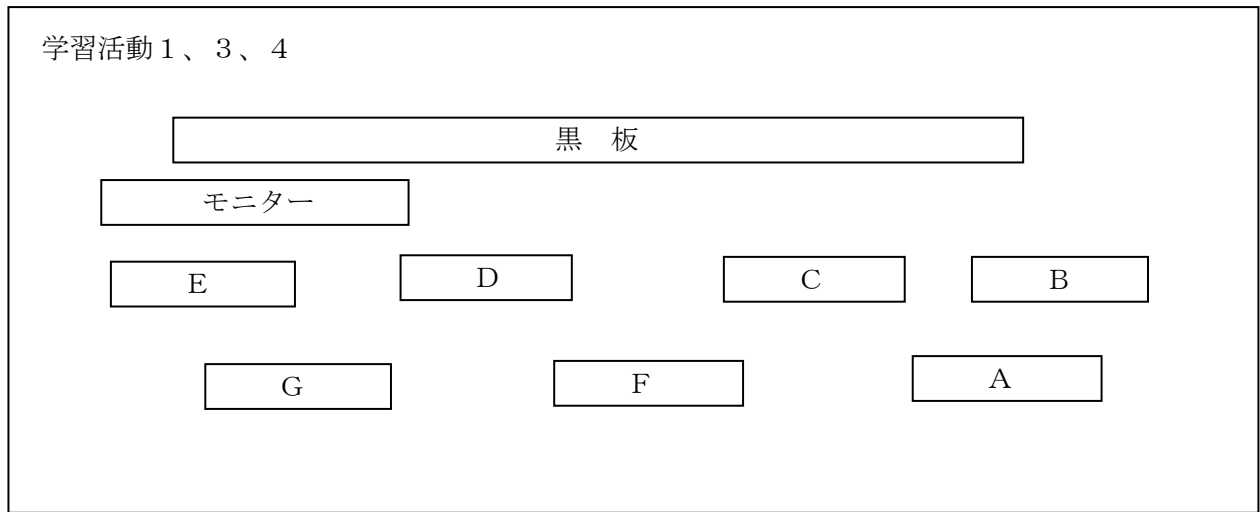
<生徒の評価>

- ・インタビューを通して分かったことを短い言葉で簡潔にまとめていたか。
- ・働くために必要な力ややりがいなどについて、同じ点や似ている点を見付けていたか。

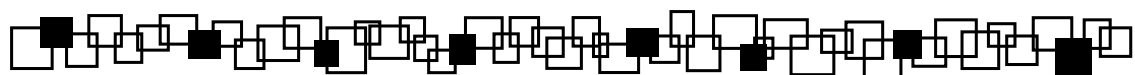
<教師の手立ての評価>

- ・分かったことを具体的に分かりやすくまとめるための表や、言葉掛けは適切であったか。
- ・同じ点や似ている点を見付けるための活動や言葉掛けは適切であったか。

(5) 配置図



# 高等部 普通科研究



# 高等部普通科 授業づくりの実際

## 1 昨年度（1年次）の研究から

高等部普通科では、昨年度（令和4年度）、「よりよい自分を目指して、自ら行動する生徒を育成する授業づくり～『協働的な学び』に重点を置いて～」を研究テーマに、学科研究を行った。研究は、職業科を研究対象授業とし、協働的な学びを通して、自己の進路実現に向けてよりよい自分、よりよい生活のために、学びや経験を生かして考えたり、自ら行動したりする生徒を育むことを目指した。教師が協働的な学びを意識して授業づくりを行ったことで、生徒同士の学び合いの機会が充実し、自ら学ぼうとする姿がたくさん見られるようになった。また、職員間で、協働的な学びを実現していくためには、活動グループの工夫やICTの活用、個別の学びと集団の学びをつなぐ工夫が重要であることが共通理解できた。一方で、生徒同士の会話を成立させようとするあまり教師の介入が増えてしまったり、意図的な役割や活動の設定が不十分だったりしたことなどから、効果的な取組を整理しながら、協働的な学びを更に充実させていく必要性が挙げられた。

そこで今年度は、「協働的な学び」を方法として導入しやすく、かつ「自ら学び続ける子ども」を目指していく上で効果的な授業である「生活単元学習」を学科研究対象授業とし、研究を進めることにした。自ら学び続ける子どもを育てる授業の実現に向けて、「育てたい資質・能力」の育成を目指し、各教科等の学習内容を検討し、学期ごとにそれらの評価、改善を図った。また、事前授業検討の充実に向け、各学年で中心単元検討を行い、生活単元学習の単元計画や学習内容を検討したり、職員間で共通理解を図ったりした。更に、本校職員の授業改善アドバイザーから助言をいただきながら、授業内容を検討したり、具体化したりして、事前授業検討の充実を図った。

学部目標	学年で育てたい資質・能力	学期の評価
健康に生活する力と健康で元気よくやり遂げる力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活習慣の確立</li> <li>食事、運動、生活リズム</li> <li>休日の過ごし方</li> <li>タイムスケジュールの立て方</li> <li>心身の安全</li> <li>気持ちのコントロールの仕方を知り、力を高める。</li> <li>安定した登校の継続</li> </ul>	<p>学業的に</p> <p>自身の学習について（適切な学習方法、学習計画、学習の進捗）も改善された。</p>
互いのよさを認め合い、協力しながら活動する態度を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感を高める。</li> <li>自分にかなげない経験の獲得</li> <li>認める、褒められる経験の積み重ね</li> <li>協働理解を深める。</li> <li>思いやり、認め合い</li> <li>よさを見付け、取り入れる</li> <li>協力を社会での規範意識を高める。</li> <li>人々、年齢に応じた振る舞い方を学ぶ</li> <li>人との適切（友好的）な関わり方を知り、触を広げる</li> <li>自分の気持ちを相手に伝える技術を高める</li> </ul>	<p>学内祭、実習</p> <p>他者理解～どのクラスも友達とよく話し合い、評価する場面もあり、育ってきている。</p> <p>規範意識～学年の生徒指導週間、各教科の学習、や時限の学習、具体的な目標、具体的な行動計画を立てる。</p> <p>友達同士の関わりが深まり、大きな声で話し合ったり、自分の気持ちを伝えるようになった。</p>

写真1 学年で検討した育てたい資質・能力の評価の様子

## 2 授業の実際

### (1) 2年3組「チャレンジ！チームワーク！チェンジ！～宿泊学習事前学習編～」

本学級は、自分の考えを言葉で伝えることができる生徒、選択肢の中から選んで伝える生徒と様々であり、個別の支援が必要な生徒も数名いる学習集団である。不登校傾向であった生徒が数名いるが、昨年一年間の学校生活を経て見通しをもち、友達との関わりや進路実現を励みに前向きに登校し、様々な活動に参加できるようになってきた。

本単元は、宿泊学習の事前学習として、宿泊学



写真2 授業の様子

習に関連する事柄を調べることを通して、「行ってみたい」「確かめてみたい」「やってみみたい」といった期待感を高めるとともに、宿泊学習に抵抗を感じている生徒の不安感を軽減することをねらいとしている。

学年全体での発表会に向け、本時では、宿泊学習先の文化について調べ、タブレット端末のアプリを活用してまとめる作業を行った。

### ①「自ら学び続ける子ども」と、授業における生徒のねらいのつながり

学年部で検討した「育てたい資質・能力」の育成を目指し、本単元では特に、「自信につながる新しい経験の獲得」や「思いやり」「認め合い」などをキーワードに単元内容を検討した。また、授業づくりの成果を検証するために、対象生徒Aを抽出した。対象生徒Aは、人の役に立ちたい気持ちがあり、学級の係活動に責任をもって主体的に取り組んでいる。しかし、時折、周囲からの言葉掛けを待ち、始業時間になっても教室に入室しなかったり、学習場所と違う場所に留まったりすることがある。また、相手の気持ちを考えずに一方的に関わることがあり、友達とトラブルを起こすことが時々あることから、友達と一緒に活動する楽しさや共感できた喜びを味わえることに気付き、相手を意識して一緒に活動することを目指した。

### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

#### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

本単元の始めの部分では、生徒の期待感を高めたり、不安を軽減させたりしていくためには、どのような事前学習が必要か生徒自身に考える機会を設け、学習活動に反映させた。また、宿泊学習への期待感につながるよう、現地で体験できるミッションを生徒が考える機会を設けた。



写真3 事前学習での取組の様子

#### 2) 自然な協働性を生むテーマ、活動、集団の工夫

事前学習の活動時には、友達と協力することのよさに気付けるよう、生徒同士が互いにできることを生かし、苦手なことを補い合えるような役割分担、ペアやグループでの活動場面を設けた。ペアやグループは、生徒が自信をもって活動できるよう、互いに安心して関わられるような組合せとした。どのような実態の生徒も意欲をもって活動したり、生徒同士が関わり合って活動したりできるよう、調べ学習や創作活動などを組み合わせた学習活動を設定した。また、調べたことを分かりやすく相手に伝えられるよう、タブレット端末での検索やアプリを活用したプレゼン制作を行う機会を設定した。

### ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

#### 1) 事前授業検討

行き先や活動内容が決まっている中で、生徒の主体的な活動をどのように引き出すか話し合った。グループ協議で多く話題に挙がったことは、学びのつながりであった。昨年の宿泊学習から今年度の宿泊学習、そして来年度の修学旅行へとどのようにつなげていくか不透明だったために、学年部を中心に検討しておく必要性が浮かび上がった。また、調べたことが実際の活動に結びつく仕掛けづくりや役割を決めることで責任感や活動する必然性が生まれるのではないか、との意見があった。

単元の始めでは、宿泊学習に抵抗感を感じている生徒が複数いることから、生徒の不安軽減や意欲喚起につながる活動を取り入れた。どうやらその不安を軽減できるか、宿泊学習を通してどのような力を身に付けたいか考える機会を設けるなど、生徒の不安感にも丁寧に寄り添いながら進めた。

## 2) 授業協議

対象生徒Aの期待する姿を「発表に向けて、友達からの依頼に快く応えて、スライドに入力したり、友達の制作を手伝ったりする」とした。本時では、友達に教わりながら入力し、授業の後半では、本人の得意とする活動（踊り）に取り組んでいた。

グループ協議では、対象生徒はスライドに入力はしていたものの、本人にとって楽しい活動だったかは疑念が残る様子であったことから、本人の関心や興味のある活動を設定する必要性が挙げられた。

指導助言では、調べ学習という活動そのものはよかったが、調べる内容の妥当性について話があった。調べたことが実際の活動に結び付く学習の工夫やねらいの焦点化、実態～ねらい～手立てのつながりの考慮について話があった。

## 3) 授業改善

その後、修学旅行で学びたいことを考える単元やそれに関連させて秋田の様々なことについて調べる単元において、生徒たちの思いや考えを生かし、調べる内容や調べ方、学習計画等を生徒が考える機会を設けた。調べ学習をしていく中で、「〇〇に行ってみてみたい」「実際に〇〇の話聞いてみたい」などの思いから、校外学習先を生徒自ら考えるなど、主体的な姿が見られた。

### (2) 3年インタビューグループ「クライム マイ マウンテン～栗田祝い太鼓編～」

本グループは、様々な活動を通して、友達と協力し合うことや互いに思いやること、目標に向かって一つ一つ積み重ねていくことの大切さを経験してきた。しかし、自己肯定感の低さから、自分に自信がなかったり、不登校傾向だったりする生徒もいる。本単元を通して、自己の成長を感じるとともに、仲間と協力しながら、一つの目的に向かって、自らの行動や役割に責任をもって行動する姿を目指したいと考えた。

本単元では、これまでの栗田祝い太鼓の歴史や伝統について、関わってきた方々へのインタビューや様々な記録を基に調べ、30年間の軌跡をまとめる。本時では、インタビューした内容をタブレット端末で振り返りながらまとめる活動を行った。

#### ①「自ら学び続ける子ども」と、授業における生徒のねらいのつながり

学年部で検討した「育てたい資質・能力」の育成を目指し、本単元では特に、「仲間との協力」

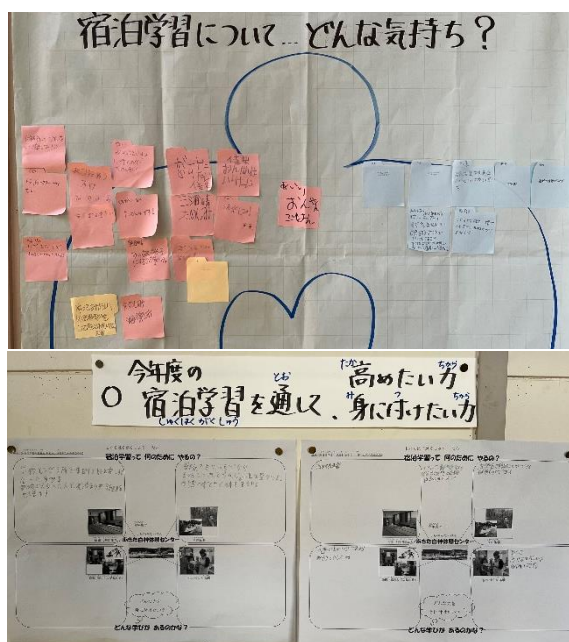


写真4 事前学習での取組の様子



写真5 授業の様子



や「責任」「自己の成長」などをキーワードに単元内容を検討した。また、授業づくりの成果を検証するために、対象生徒Bを抽出した。対象生徒Bは、自分の考えはしっかりもっており少しずつ責任をもって取り組む姿が見られるようになってきたものの、苦手なことは頭が痛いなどの理由を付けて避けようとしたり、自分のことであっても他者に責任を転嫁しようとしたりすることがある。そこで、本単元では、苦手なことにも前向きに取り組む姿や、課題を自分事として捉え、責任をもって活動する姿を目指したいと考えた。

## ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

一人一人が自ら活動できるように、生徒の得意なことやできることを生かした活動、少人数での学習活動を設定した。また、生徒が自ら考えることができるよう、めあてや活動内容を明確に示した。また、自分の考えを深めたり、他者の考えに気付いたりできるように、生徒の発言やつぶやきを視覚化したり、他の生徒に伝えたりした。

### 2) 自然な協働性を生むテーマ、活動、集団の工夫

協働性を育めるように、活動の目的を明確にしたり、グルーピングを工夫したりした。また、生徒同士で話し合いをする場や役割を設け協働して活動する場面の設定をした。

### 3) 多様な場や人材の活用

長年、栗田祝い太鼓の指導に携わってくださっている外部講師の方やこれまで太鼓演奏の指導をしたことのある教師に協力を依頼し、これまでの太鼓の歴史について話を聞く機会を設定した。

## ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

### 1) 事前授業検討

自ら学び続ける子どもの姿を目指し、生徒の主体性を引き出す活動の工夫について主に話し合った。栗田祝い太鼓の代々引き継がれてきた歴史や伝統について調べる活動がよい、音楽や総合的な探求の時間などとも関連させて、教科横断的に単元構成されていることもよい、太鼓演奏では、栗田祭以外にも発表の機会を設定し、互いに評価や改善ができる生徒同士のペアやグルーピングの工夫が必要などの意見が出た。また、対象生徒Bに関しては、自分事として捉えられるよう、太鼓のソロ演奏を設定したり、役割を工夫したりしてはどうかとの提案があった。

### 2) 授業協議

本時では、対象生徒Bが欠席だったため、新たに対象生徒（対象生徒C）を設定し、その見取りから授業協議を行った。対象生徒Cの本時での期待する姿は「インタビュー映像を振り返って、話し方や聞き方のよいところや改善が必要なところに気付く」「インタビュー映像を見たり、友達と相談したりしながら、インタビューの内容を整理して、短い文に書き表す」であった。インタビューの様子を動画で振り返ることで、自身の話し方や聞き方のよいところや改善点に気付くことができた。しかし、「簡潔」という言葉の理解が曖昧だったために、インタビューの内容を短い文で書き表すことは難しい様子であった。このことから、グループ協議では、まとめ方のゴールを生徒に明示しておく必要性について意見が出た。指導助言では、生徒にとって、今日何を頑張るか、授業展開が分かりやすいか、単元の分かりやすさはどうだったか、



写真6 授業の様子

など生徒にとっての様々な「分かりやすさ」を意識して授業をつくっていくことの大切さについて話があった。

### 3) 授業改善

その後、インタビューした内容を掲示物にまとめる授業では、誰に伝えるための掲示物か、どのように伝えたらよいかなどを生徒に考えさせたり、まとめ方を例示したりするなどして、生徒が分かりやすい授業を心掛けた。そのことで、生徒は読む人にとって伝わりやすい掲示物を意識し、自分で考え工夫しながら制作する姿が見られた。

## 3 まとめ

### (1) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて

#### ①「自ら学び続ける子ども」と、授業における生徒のねらいのつながり

「育てたい資質・能力」と単元における生徒のねらいとのつながりを意識して授業を検討できたことで、生徒の主体性を引き出し、「自ら学び続ける子ども」の姿に迫ることができた。更に、「自ら学び続ける子ども」を教師が意識して授業づくりを行ったことで、学んだことを生かした学習活動や学ぶ方法、学習計画などを生徒自身が考え活動する機会を設定するなど、学習活動を工夫できた。

一方で、授業検討会で扱う内容が、単元構想や単元内容、対象生徒、本時の授業と多岐にわたるため、一回だけでは本時の授業内容を深めるまでには至らなかった。また、学科での「自ら学び続ける子どもの姿」の具体性が欠けていたため、生徒の目指す姿が曖昧だったり、教師間での認識にずれがあったりした。それは、各学年の取組や成果を共有する機会が不十分であったことから推察される。

#### ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

生徒の得意なことを生かした役割や活動内容の設定をしたり、ペアやグループなど多様な学習集団の工夫をしたりして、生徒の主体性を引き出す仕掛けづくりを教師が意識的に工夫できた。また、生徒の分かりやすさにつながる ICT の活用ができた。

#### ③生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

生徒の学びを丁寧に見取る機会を積み重ねたことで、生徒の思いや考えに寄り添った教師の意識の向上が図れた。

一方で、対象生徒の見取りだけでは授業全体の改善につながりづらいことが課題として挙げられた。

### (2) 生徒の変容

#### ①主体的に取り組む姿勢

「協働的な学び」を方法とし、学習集団や学習活動を工夫したことで、生徒は安心して授業に臨めるようになった。そのことが、積極的に自分の意見や考えを伝えたり、主体的に活動したりすることにつながった。また、学習の重要性を理解して、時間いっぱい学習に参加したり、苦手なことにも取り組んだりする姿も見られるようになった。ある学年で行った生徒へのアンケート調査では、全員が自分の成長を感じ、今後も自身が成長できると回答していた。

#### ②相手の気持ちを考えた言動

友達の意見を聞いたり、友達と活動したりすることで、自己理解や他者理解につながった。一方的な関わりから、相手の気持ちを尊重する姿勢が見られるようになってきた。また、友達の意

見を参考にして、自分の考えを深める様子も見られた。

### (3) 職員の変容

#### ① 学びをつなぐ視点

学年で「育てたい資質・能力」の育成を目指し、各教科領域等の単元構成や学習内容を検討したことで、教科横断的な取組が実施できた。また、「育てたい資質・能力」を育成するための方法や手立てを各教科領域等で共有し様々な学習場面で取り入れた。そのことが、単元と単元、または昨年度から今年度、更に来年度へと学びをつなごうとする視点につながった。子どもの学びをつなぐ視点をもったことは「学び続ける子ども」の実現にとって大事な視点だったと感じる。

#### ② 生徒の思いや考えに寄り添った言葉掛けや学習活動の工夫

生徒の思いや考えを肯定的に捉え、その考えの理由に思いを巡らすようになってきた。その教師の姿勢が、生徒の安心感につながり、生徒の変容へとつながったのではないかと推察される。授業では生徒の「〇〇したい」を起点にした学習活動が展開されるようになった。

### (4) 次年度に向けて

#### ① 「自ら学び続ける子どもの姿」の具現化と共有

対象生徒についての「自ら学び続ける子どもの姿」は意識できたが、学科における「自ら学び続ける子どもの姿」については、共通理解が不十分だった。そのため、生徒の目指す姿が曖昧だったり、教師間での認識がずれていたりした。次年度に向けては、これらの姿を授業場面で具現化し、共通認識の下、研究を進めていきたい。失敗してもよいと思える安心感のある関係づくりに留意し、教師が環境や関係を整え、チャレンジする姿や主体的に活動する姿等を引き出していきたい。そして、その姿の実現のための方法や手立てについても検討していきたいと考える。

#### ② 事前授業検討の充実を図るための研究体制の構築

事前授業検討では、単元構成や単元内容、本時の授業内容、対象生徒への手立てなど、職員間で検討や共通理解したいことは多岐にわたるが、その時間を十分に確保することが難しい。そこで、次年度は、計画的に、検討事項を焦点化した事前授業検討を複数回設定し、事前授業検討の充実を図っていきたい。また、その中で、学年の取組や成果などを共有できる機会を工夫していきたいと考える。

## 高等部普通科2年3組 生活単元学習指導案

日 時：令和5年7月19日（水）13:20～14:30  
場 所：高等部多目的ホール、2-3教室  
生 徒：男子5名、女子2名、計7名  
指導者：門間陽子(T1)、小林朋子(T2)、能登屋弥(T3)

### 1 単元名

チャレンジ！チームワーク！チェンジ！～宿泊事前学習編

### 2 生徒と単元

#### (1) 生徒について

本学級は、自分の考えを言葉で伝えることができる生徒、選択肢の中から選んで伝える生徒と様々であり、うち、常に個別の支援が必要な生徒が数名いる学習集団である。不登校傾向であった生徒が数名いるが、昨年一年間の学校生活を経て学校生活に見通しをもち、友達との関わりや進路実現を励みに前向きに登校し、様々な活動に参加できるようになってきた。

これまでの学習では、学年や学級それぞれの集団の中で自分の役割を遂行する経験を通して、人の役に立つ喜びや人の期待に応えようとする気持ちを抱いたり、集団のために自分にできることを知ったりした。お楽しみ企画の話合いでは、「みんなができる」「みんなで楽しむ」というキーワードを挙げると、話合いの目的を理解でき、友達ができることを考えて役割分担したり、支援が必要な友達を補助する役割を引き受けたりするなど、互いを認め合い、協力して活動しようとする姿が見られた。一方で、新しい活動や苦手意識の強い場面への不安感や緊張感が強く、学習活動に気持ちが向くまで時間を要する生徒もいる。

#### (2) 単元設定理由

昨年度の宿泊学習では、なじみのない場所での活動や共同生活に不安を抱く生徒が多かったが、宿泊生活を通して、計画に沿って活動できたことや友達と体験活動を楽しんだことから、達成感や友達とのよい関わりの手応えを感じるよい経験となった。今年度の宿泊学習については、「行ってみたい」と話す生徒、不安感や抵抗感があり、「行きたくない」と話す生徒もいる。昨年度の経験を思い出し、宿泊学習に関連する事柄を調べたりすることで、宿泊学習の活動や宿泊先周辺の魅力を知ること、**「行ってみたい」「確かめてみたい」「やってみたい」といった期待感が高まると考える。**

以上の理由から、本単元を設定した。

#### (3) 指導について

##### ①児童生徒一人一人が自ら活動したり考えたりすることができる状況づくり

- ・昨年度の経験を踏まえて、期待感を高め、不安を軽減させるためには、どんな学習が必要かを生徒自身が考える機会を設け、学習活動に反映させていく。
- ・事前学習の積み重ねを実感し、宿泊学習の期待感につながるよう、調べ学習の成果やオリエンテーションのワークシートを整理しながら、「宿泊学習のしおり」を作成する。

##### ②自然な協働性を生むテーマ設定や学習活動、学習集団の工夫

- ・友達と協力することのよさに気付けるよう、生徒同士が互いにできることを生かし、苦手なことを補い合えるような役割分担や、ペアやグループでの活動場面を設ける。組合せやグループは、生徒が自信をもって活動できるよう、互いに安心して関わられるようなペアとする。

##### ③多様な場や人材の活用

- ・どの生徒も意欲をもって活動したり、生徒同士が関わり合って活動したりできるよう、調べ学習や創作活動などを組み合わせた学習活動を設定する。
- ・調べ学習では、調べたことを分かりやすく相手に伝えられるよう、タブレット端末での検索とアプリを活用したプレゼンテーションの制作を行う。

3 単元目標 知: 知識及び技能 思: 思考力・判断力・表現力等 学: 学びに向かう力・人間性等

- (1) 友達との話し合いや調べ学習を通して、宿泊先(八峰町周辺の自然、文化)に関する知識を広げたり、宿泊学習に前向きに臨む気持ちをもったりする。知 学
- (2) みんなが楽しめる宿泊学習にするために、どんな事前学習が必要かを考え、友達と協力して活動する。思

4 単元計画 (総時間数 20 時間/本時 11、12 時)

時	学習内容	学習活動	育成を目指す資質・能力 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">関</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> )
1、2	オリエンテーション①(学年) ・昨年度の宿泊学習の振り返りと学びや成長 ・秋田県の魅力 ・今年度の宿泊学習の概要と単元計画 ・学習に対する互いの心境 [国語] 聞くこと・話すことAカ 書くことBア	・昨年度の宿泊学習を通しての学びや互いの成長について意見交換する。 ・宿泊施設でできる体験活動を知り、自分がやりたい体験や宿泊活動に対する現在の思いを述べる。	・宿泊学習の学習内容に見通しをもち、昨年度の学習の成果を知る。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> ・自己の学習に対する心境を集団の場で表し、友達と互いに認め合い、一緒に活動しようとする気持ちをもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>
3、4	オリエンテーション②(学年) ・宿泊学習のねらいの確認 ・事前学習の内容についての話し合い [国語] 聞くこと・話すことA(オ)	・学習のねらいについて、四つの観点で友達と意見交換する。 ・学習のねらいの達成や期待感の向上、不安感の軽減のために必要な学習活動について友達と意見交換する。	・話し合いの観点を意識して、自分の考えを述べる。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> ・目的をもって事前学習に向かう気持ちをもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>
5、6	調べ学習① (学年) ・前時の振り返りとしおりの記入 ・調べ学習のねらいと内容 ・タブレット端末でアプリ操作の体験 [職業] 情報機器の活用B(ア)	・これまでの学習を思い出し、宿泊学習の概要やねらいをしおりに記入する。 ・友達とタブレット端末を共有し、「Keynote」の操作を体験する。	・宿泊学習の概要やねらいを明らかにし、当日までの学習活動の見通しをもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> ・友達と譲り合ったり教え合ったりしてアプリを操作し、調べ学習への意欲を高める。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">知</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span>
7、8	調べ学習② (学年) ・調べ学習の進め方と友達との協力 ・役割分担 ・テーマに関する情報収集 (学級) [国語] 聞くこと・話すことAオ [職業] 情報機器の活用B(ア)	・友達と互いのできることや苦手なことを考えて、活動ペアや役割分担について話し合う。 ・友達と協力してテーマに関する情報を検索し、調べる内容を決める。	・友達ができることや苦手なことを認め合い、協力して活動するためにできることを考える。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">学</span> ・友達と一緒に活動を進めるために、友達が分かるように活動を依頼したり友達の依頼に応えたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
9、10	調べ学習③ (学年) ・発表資料の作り方 ・テーマに関する情報収集 ・構成についての話し合い (学級) [美術] 表現ア(イ) [職業] 情報機器の活用B(ア)	・友達に宿泊先の魅力が伝わるように、伝える内容や方法を考え、調べたり準備したりする。	・友達と同じ観점에서意見交換しながら、楽しく情報を収集したり資料を作ったりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span>
11、12 (12/20 時)	調べ学習④ (学年) ・発表の目的の再確認と伝え方のポイント ・資料制作、発表準備 ・発表内容の修正 (学級) [美術] 表現ア(イ) [職業] 情報機器の活用B(ア) [国語] 聞くこと・話すことAカ	・友達に宿泊先の魅力が伝わるように、資料や発表の仕方を工夫して準備する。 ・グループの発表について意見交換し、改善点を修正する。	・友達のために自分なりに考えたことを述べたり、発表の目的を達成するために楽しい発表を考えたりする。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span> ・発表練習と修正を通して、次時の発表への意欲と自信をもつ。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">主</span>

13、14	調べ学習⑤～発表 ・各学級の発表と魅力度投票 ・日程等の確認としおり記入 ・体験活動の選択 (学年) [国語] 聞くこと・話すことAア 書くことBア	・互いの発表に関心をもって聞いたり、協力して発表したりする。 ・2日目の体験活動を選ぶ。	・自分の発表を楽しんだり、友達の発表への関心を表現したりする。[思][主] ・発表や活動選択を通して、学習に期待感をもち。[主]
15、16	荷物チェック (学年) ・荷物の確認と持ち物の把握	・チェック表と持ち物を照らし合わせて、不足や不備がないか確認する。	・自分の持ち物を把握する。[思]
17、18	結団式に向けて (学年) ・個人目標、活動班目標 ・結団式の準備、練習 [国語] 聞くこと・話すことAイエ	・これまでの学習を復習し、自分の目標と活動班の目標を立てる。 ・式の目的を知り、自分の役割の遂行に向けて、発表の動きを練習する。	・宿泊学習の四つのねらいや自分の楽しみを基に、目標を考える。[知][思] ・宿泊学習に期待感をもち、意欲的に結団式の準備をする。[主]
19、20	結団式 (学年) ・宿泊学習の目標と日程等の確認 ・体験活動のミッションと目標の確認 ・個人目標の発表 [国語] 聞くこと・話すことAイエオ	・友達と協力して発表する。 ・互いの発表を通して、宿泊学習のねらいや意気込みを再確認する。	・準備や練習したことを友達と協力して進め、式を通して宿泊学習への期待感を高める。[思][主]

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿泊先（八峰町地域の自然や文化）についての知識を広げる。</li> <li>・ 調べて分かったことを、相手に伝わるように工夫して資料を作ったり表現したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級の友達と互いの考えを認め合いながら話し合い、学年の友達が学習に期待感をもちたために必要な活動や情報について考え、話し合いの中で友達に伝えている。</li> <li>・ 発表練習で、伝えたいことが主張されているかを意識して聞き、改善点を考えて伝え方を見直している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 宿泊先周辺の自然や文化に関心をもち、互いに協力して宿泊学習に参加しようとしている。</li> <li>・ 発表の目的を意識してよりよい発表に向けて、魅力が伝わる工夫を考え友達と協力して活動しようとしている。</li> </ul>

## 6 本時の計画（20 時中の 11、12 時）

### (1) 本時のねらい

- ・ 学年の友達が宿泊学習への期待感を高められるような発表を考え、友達と協力して準備する。

### (2) 生徒のねらいと手立て（対象生徒部分は太枠で囲む）

No	氏名・性別	実 態	個別のねらい	手 立 て
1	A (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習のねらいに向かつて意欲的に活動するが、丁寧なあまり時間を要することがある。</li> <li>・ 自分なりの言葉で考えを伝えたり、友達が分かる言葉を選んで意見を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達がスムーズに資料作りを進められるよう、やり方を具体的な言葉や下書きにして依頼したり、ポイントを意識して編集したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間を意識できるよう、「何分まで〇〇をする？」と問い掛けて自分の活動と時間のめどを立てる場を設ける。</li> <li>・ 活用できるように、発表準備のポイントや友達との具体的な関わりの例を伝える。</li> </ul>

2	B (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点を絞って文にまとめることは難しいが、テーマに合った言葉を抜き書きできる。</li> <li>・自分から話すことは少ないが、機会があると自分の考えをみんなの前で話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を理解し、友達に具体的な言葉や下書きで活動を依頼したり、ポイントを意識し工夫して資料を作ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自信をもって活動できるよう、友達と意見交換するなど、出来栄を確認する場をつくる。</li> <li>・進んで活動できるように、発表準備のポイントや友達との具体的な関わりの例を伝える。</li> </ul>
3	C (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扱う内容量や時間に焦って手早に活動を終わらせることがある。</li> <li>・課題解決に関心を持ち、進んで自分の考えを述べたり、関連する話題を友達に伝え意見を聞いたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の役割を理解し、進んで友達に活動を伝えたり、ポイントを意識して工夫して資料を作ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達の役割が分かり進んで活動できるよう、伝え方のポイントや役割分担を伝える。</li> <li>・資料を推こうできるよう、TV画面に映したり友達と意見交換したりする場を設ける。</li> </ul>
4	D (女)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室での学級活動に拒否感が強く、うつむいたり、教室の移動ができなくなったりすることがある。</li> <li>・何について問われているかが分かると自分なりの考えや検索したことを記述できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの依頼に応じてスライドに文字を記入したり、積極的に体を動かして友達と踊りの練習をしたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく活動できるよう、関心の高い音楽や体を動かす活動を役割に取り入れる。</li> <li>・安心して学級活動ができるよう、席の配置や友達からの働き掛けを工夫する。</li> </ul>
5	E (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の動きをまねしたり、1つずつの活動を聞いたりしてやるのが分かり、意欲的に活動する。</li> <li>・簡単な口頭の質問に自分なりの言葉で考えを述べたり、選択肢から選んで伝えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの依頼に応じてスライドの入力や砂絵の制作をし、できたら自分から友達に報告に行く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの生徒に、本人の活動の内容や分かりやすい依頼の仕方を事前に伝える。</li> <li>・自信をもって活動できるよう、進捗状況を称賛したり、(F)の動きを言葉で伝えたりする。</li> </ul>
6	F (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達との関わりを好み、自分から友達の近くに行き様子を見たり、誘いに応じて活動したりする。</li> <li>・心理的な不安定があり、必要に応じて状況が安定するまで退室することがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から砂に触れて手を動かしたり、教師の言葉に応じて友達に手伝いやお礼を身振りで伝えたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心の高い感触遊びや本人の体の動きを生かした活動を役割に設定する。</li> <li>・友達と関わりながら活動できるよう、本人の制作を他の生徒が手伝う場面をつくる。</li> </ul>
7	G (男)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に手順ややり方を聞いてやるのが分かると、課題の達成まで意欲をもって活動できる。</li> <li>・友達とたくさん関わりたいが、自分の思いどおりにできず、気持ちが落ち込み、活動に向かえないことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表に向けて、友達からの依頼に快く応えてスライドに入力したり、友達の制作を手伝ったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアの生徒に、本人の活動の内容や分かりやすい依頼の仕方を事前に伝える。</li> <li>・自分のやるべきことが分かり意欲をもって活動できるよう、本人の関心の高い内容や友達と一緒にできる活動を役割にして伝える。</li> </ul>

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分はねらいに対する手立て
5	<p>1 魅力を伝える発表のポイントを考える。 (学年全体で)</p> <p>(1) 調べ学習の目的 (2) 伝え方のポイント (3) めあての確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習内容に見通しをもつことができるよう、本時の学習内容をホワイトボードに掲示し、順に内容を伝える。</li> <li>・調べ学習の目的を示したスライドから「意欲や期待を高めるため」の言葉に着目し、「期待感ってどんな気持ち？」と問い掛ける。問い掛けに対する生徒の答えを言い換えて、「わくわく」や「やってみたい」などの言葉をキーワードとして提示する。</li> </ul>
	めあて：みんなが宿泊学習に「行ってみたい」「楽しみ」と思える発表の準備をする。	
5	～教室移動、活動の準備～	
5  40	<p>2 本時の学習を話し合う。 (1) 前時の振り返り (2) 発表準備の工夫点について</p> <p>3 発表の準備をする。 (1) 発表資料作成 ・(A、B、C) 編集 ・(D、E、G) 文字入力 (2) 演技練習 ・(D、E、G) (3) 砂絵アート制作 ・(F) 制作 ・(D、E、G) F の補助</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの記録した画像やスライドを画面に映し、復習する。</li> <li>・活動に見通しがもてるよう、各ペアのスライドの中で主張したい内容を取り上げ、それぞれの具体的な発表の仕方について話し合ったことを板書する。</li> <li>・(T1、T2) は、相互に各ペアを回り、生徒同士が関わり合えるよう、個々の生徒の役割や友達とのやりとりの具体例を掲示する。また、生徒が調べた中から要点を絞ったり、発表の見せ方を工夫したりできるように、「どれを伝えたい?」「どう見せたら楽しいかな?」などと問い掛け、一緒に整理する。</li> <li>・(T3) は、制作の準備やFの活動の一部の手伝いを他の生徒に依頼したり、Fが「お願い」や会釈などの身振りができるよう支援する。</li> <li>・楽しく発表に向けた活動ができるよう、出来栄を称賛したり一緒に演技したりする。</li> </ul>
15	<p>4 発表練習をする。 (1) 各ペアの発表 (2) わくわく度投票 (3) よかった点とアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲をもって発表したり、楽しい発表になっているかを考えたりして互いの発表を認め合えるよう、ペアの発表の出来栄を3段階で表す活動を行う。</li> <li>・友達との活動の成果が分かるよう、投票の結果を称賛したりよかった点について意見交換したりする場面を設定する。</li> <li>・発表資料の修正に生かせるよう、話し合っただけで出たアドバイスをメモし、各ペアに渡す。</li> <li>・自分の活動の達成感や友達との関わりの満足感を高められるよう、教師が個々の生徒のよい活動を紹介したり、生徒が互いに頑張った点を述べる場を設けたりする。</li> <li>・次時の学習への期待を高められるよう、学年の友達に発表し、それを受けて体験活動を選択することを伝える。</li> </ul>

(4) 評価

<生徒の評価>

- ・学年の友達が宿泊学習への期待感を高められるような伝え方を考え、進んで活動したか。
- ・発表に向けて、友達を手伝ったり依頼に応えたりして、協力して活動したか。

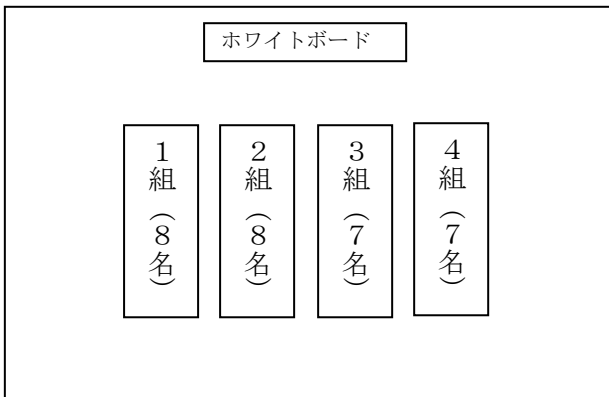
<教師の手立ての評価>

- ・学習のねらいに迫る活動展開と、生徒が発表のポイントを意識して活動するための発問や資料の提示ができたか。
- ・生徒同士が協働し、思考を広げたり意欲をもって活動したりするための場面設定だったか。

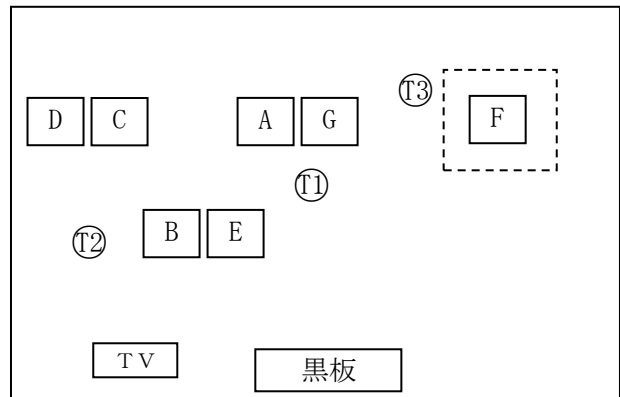


(5) 配置図

多目的ホール(学年)

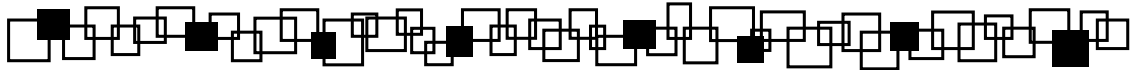


2-3教室(学級)



# 高等部

## 総合サービス科研究



## 高等部総合サービス科 授業づくりの実際

### 1 昨年度（1年次）の研究から

高等部総合サービス科では昨年度、「学びをよりよい思考、行動に生かす生徒の育成を目指した授業づくり～専門教科「流通・サービス」での取組を通して～」というテーマの下、職業を研究対象授業に設定し研究に取り組んだ。

成果として、職業科の指導内容を整理し、系統性・発展性のある計画立案ができた。専門3教科の学習内容について生徒のねらいの達成状況や進路希望に応じて、学習時期や学習内容が見直された。課題として、各教科を関連付けながら、年度途中での見直しと改善を図ること、「学び」を自信につなげ、活用する場を意図的に設けることなどが挙げられた。また、他者との関わりの中で学びを深める場の設定を他教科においても設け、生徒たちが様々な知識や技術を生活の中で生かしていこうとする力を育てていく必要があるという課題も挙げられた。

そこで今年度は、教科「福祉」を研究対象授業とし、昨年度の成果を生かしながら、さらに他者との協働的な関わりの中で学んだことを実践する姿に重点を置いた。教科「福祉」における介護技術を習得するために、「〇〇さんのアドバイスを参考に〇〇してみよう」「〇〇をすると上手くできた」など、生徒が積極的に課題解決する姿を目指し、研究に取り組んだ。

### 2 授業の実際

#### (1) 1年 福祉 入浴介助～手浴～

本学習グループは、1年生11名（男子7名、女子4名）の学習グループである。将来は福祉の仕事に就きたいと考えている生徒や、福祉の仕事に興味があると答える生徒が多く、全員が教師の話をよく聞き、学習に意欲的に取り組んでいる。

本題材は、生活援助技術の入浴に関する題材である。手浴は、全身入浴できない利用者さんの皮膚を衛生的に保ち、気持ちよい感覚を味わい、安眠できるようにすることを目的として行う。手浴をお互いに経験し、気持ちよさを味わったり、「気持ちよかったよ、ありがとう」と言われたりする学習活動は、福祉に興味をもち、楽しさを感じるために有効であると考え、本題材を設定した。

#### ①「自ら学び続ける子ども」と授業における児童生徒のねらいのつながり

高等部総合サービス科では、自ら学び続ける子どもの姿を目指し、対象生徒Fを抽出し、学習を通して身に付けたい力の確認や変容の共有を行った。Fの実態として、工程が決められている活動は手順を覚え進んで活動できることや、気付きや疑問をもって活動に取り組める反面、その表出が抽象的であることが多いという実態が挙げられた。

また、将来は介護施設で働きたいと考えており、福祉の授業において自ら発言することも多く、授業態度は良好である。以上の実態から、Fが本題材において、入浴介助を利用者役、介護者役の双方で体験しながら、入浴の意味や効果を知り、友達との関わりの中での気付きを具体的な言葉で表現する姿を目指していくことを確認した。

## ②自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイント

授業づくりのポイントに基づき、下記にある三つの取組を行った。

### 1) 生徒が自ら活動し、考える状況づくり

生徒が進んで学習に取り組む姿を目指し、「知る」「実践する」「自己評価・他者評価」「改善する」という学習サイクルを取り入れた。学んだ知識をすぐに試し、評価・改善する流れをつくることで、生徒が学習への見通しをもち、学習課題に対して前向きに取り組むことができると考えた。また、本サイクルを取り入れることで、実践の中で他者と協力したり、比較したりしながら、新たな気付きや学びが生まれるのではないかと考えた。対象生徒Fにとって、気付きや学びが実感しやすい状況が生まれ、分かったことを具体的に表現する姿へとつながると考えた。

### 2) 自然な協働性を生むテーマ、活動、集団の工夫

入浴介助を学ぶ上で「他者の気持ちを考え、理解する」ことが大切だと考える。そこで、介助をする際に、ペアやグループ活動を設け、協働的に学習を進める場面を意図的に設けた。他者と協力して活動する経験から、入浴介助で大切となる「相手の気持ちを考えること」「自らの介助を振り返り改善すること」「自分の気持ちを伝えつつ、相手の気持ちを聞き入れること」などを学び得ることができると考えた。また、生徒の相性や学習の理解度に応じてグループ編成を行い、対話が生まれるような状況づくりも併せて行った。

### 3) 多様な場や人材の活用

様々な人からアドバイスをもらう機会を設け、学び得たことを発揮する場を設定した。特に、友達や先輩、外部講師や福祉担当教員など、様々な人からアドバイスを受けることで、自分自身の介助を具体的に振り返ることへとつながり、安心して安全な介護技術を身に付けることができると考えた。先輩からのアドバイスにおいては、介助のポイントやアドバイスのみならず、自身の失敗談や経験談なども交えて話を聞くことで、先輩の等身大の姿を知り、学習に対して前向きに取り組もうとする姿が生まれると期待した。また、専門的な知識や技術の習得を目指し、外部講師と積極的に連携した。

## ③児童生徒の姿を基に、教師同士の対話を通して子どもの学びを丁寧に見取る評価の積み重ね

生徒の変容を捉え、実態に応じた手立てを講じるために、事前検討会、シミュレーション(日々の教師間の記録やロールプレイも含む)、授業協議を実施し、次の内容を職員間で共有した。

○事前検討会において、以下の点について意見が出された。

### 1) 授業展開について

- ・ 介助を実践する機会を単発で終わらせるのではなく、繰り返し何度も実践できるような機会を設けてはどうか。繰り返しの実践により生徒は自信をもつと考える。
- ・ 視覚情報の提示方法を工夫してはどうか。生徒によって手順やポイントの理解度に差があるとすれば、視覚的情報を効果的に活用できるとよい。

## 2) 対象生徒への手立てについて

- ・教師の発問を工夫してはどうか。生徒の様子に応じて問い掛ける内容を吟味することで、生徒が思考を深めるきっかけになるのではないか。
- ・学んだことを言語化する機会を増やしてはどうか。学びを表出するために環境設定や、教材を工夫できる余地があると考える。

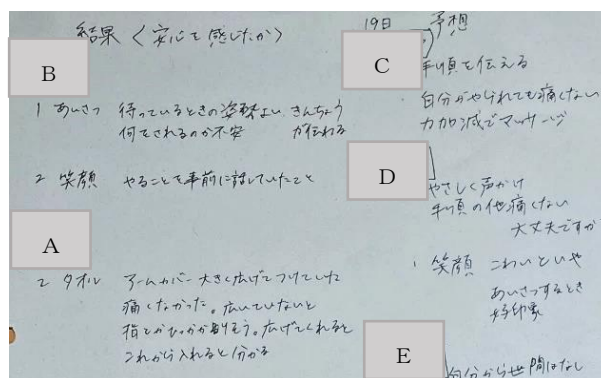


写真1 事前授業検討会

○シミュレーションにおいて、以下の点について確認や共有を行った。

### 1) これまでの生徒の姿から本時で予想される行動や発言について

生徒の変容を確認するために、学習の様子を記録し、教師間で共有した。授業の中での生徒の発言や行動記録を基に、教師の発問や教材の工夫を行った。日々様子を記録したことで、本時においてどのような行動や発言をするか具体的に想定することができた。ペアやグループの相性などを分析する一助にもなり、授業づくりを進める上で効果的な役割を果たした。



資料1 生徒の行動記録

### 2) 学習環境の工夫について

実際の授業を想定し、学習環境（板書計画、物品の配置、T Tの動き、ペアやグループの妥当性など）について検討を行った。特に板書計画や物品の配置については、生徒の思考の流れをイメージし、より学びが深まる環境づくりの視点で検討をした。また、生徒の予想される行動に対応できるようにT 1とT 2の動きを明確化し、互いにどのような役割をもって生徒に対応するか検討した。これまでの生徒の記録を基に、教師がどのような発問や支援をするか複数のパターンを想定し、準備をすることへとつながった。

○授業協議において以下の点について意見や助言をいただいた。

#### 【協議の概要】

協議では「実践の積み重ねにより生徒が進んで介護技術を学ぶ姿が見えた。」「生徒同士の関わりの中で新たな気づきが生まれていた。」「生徒が相手のことを考えた言葉掛けをしながら介助する姿が見られた。」など、生徒同士の関わりの中で学びの深まりが見られたという意見が多く出された。

一方で、入浴介助において大切となる気持ちよさは、人それぞれの感覚であるため、その違いをどのように具体化していくかが本授業の難しいところでもあると意見が出された。改善案として、生徒たちの経験値を高めるために、様々な機会を活用して介助の経験をさらに積み重ねていくことや、コミュニケーションの学習も併せて行っていくことなどが挙げられた。



写真2 授業協議の様子

### 【指導助言】

- ・生徒たちが意欲的だった。相手のことを考えて入浴介助をしようとする気持ちや安全に配慮して行動しようとする態度が表れていた。実際の現場において大切なこと
- ・介助をする際は互いに安楽な姿勢で行うことが大事である。学校で介助の練習をする際もその視点を大切にし、使用する道具が利用者に合っているかや、配置は適切かなど、環境設定を工夫するとさらにレベルアップできると考える。
- ・授業終わりに、「(手浴介助を) リベンジしたい」と生徒が話していた。自分の課題を見付け、次時への意欲が見られ、学びのある授業だったと考える。
- ・介護者(介助をする人)と利用者(介助をされる人)の両方を体験することで、自己評価や他者評価につながり、学びを実感する機会ができていた。
- ・教師が「どうして? どういうこと?」と考えを深める発問をしたことで、学びが深まっていた。今後は、先輩からアドバイスを受ける機会などを設け、介助を実践する機会の幅を広げてみてはどうか。そのような活動の中で、自ら考え、気づき、表現する機会を大切にしてほしい。

## 3 まとめ

### (1) 自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりに向けて

自ら学び続ける子どもを育てる授業づくりの実践として有効だった取組は次のとおりである。

#### ① 学びが実感できる学習活動の展開

生徒同士で介護を実践し合う機会を繰り返し設定し、入浴介助におけるポイントを体験的に学ぶ機会を設定した。座学での内容を演習で実践し、点と点を結ぶ学習活動の展開は、生徒たちにとって、知識と技術を一体的に学ぶことへとつながった。また、学習の中での気づきを生徒同士が伝え合う活動を通して、新たな発見や学びが生まれ、次時の実践で生かそうとする姿へとつながった。協働的に学習を進める場面を意図的に設けたことで、他者の気持ちを考えたり、他者から新たな気づきを得たりする姿が見られ、学習課題により意欲的に取り組もうと努力することへとつながった。学んだことを実感するために様々な場面において介助を実践する機会を設けた。学校祭において手浴体験コーナーを設け、保護者や教師など、様々な方に対して学びの成果を表現し、評価を受けることで、学習の成果を実感することへとつながった。

#### ② 学びを深める環境設定や発問の工夫

生徒の実態に応じたワークシートを提示したことで、気づきや学びを具体的に表現する姿へとつながった。また、学習の理解度や生徒同士の相性を踏まえたペアリングやグルーピングをしたことで、互いの意見を伝え合い、進んで活動する姿へとつながった。互いの意見を伝え合うことで、新たな気づきが生まれ学習に深まりが生まれた。さらに、教師の発問や支援方法の検討を積み重ねたことで、T1とT2の役割が明確になり、教師間の連携がスムーズに行われるようになった。生徒は教師の発問を受け、「〇〇はなぜだろう?」「もっと〇〇してみよう」と疑問や発見をもちながら学習活動に参加し、自分の言葉で気付いたことを表現できた。

### ③ 生徒の変容を具体的に共有する機会の設定

生徒の学習に向かう姿や変容を随時記録し、教師間で共有した。生徒のつぶやきや行動を記録したことで、教師が生徒の思考を想像し、手立てを具体的に改善する一助となった。また、外部講師の方との連携では、職員が授業を進める上で悩んでいる点や、実技指導におけるポイントや心構えなど、具体的な内容を相談し、助言を受けた。外部講師は年間18回授業で来校し、随時相談を実施した。授業協議においても助言者として参加していただき、環境設定の工夫について専門的な知見から助言をいただいた。「介助をする際は介助者と利用者がともに安楽な姿勢で行うことが大切である」という指摘をいただき、学習環境を改めて見直すきっかけとなった。

## (2) 生徒の変容

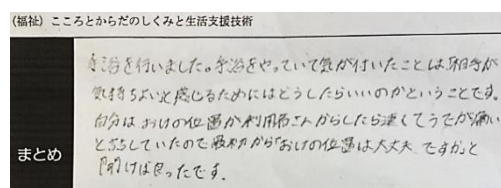
生徒の変容として以下の姿が見られた。

### ① 学んだことを具体的に表現する姿

介護技術を繰り返し実践する機会を通して、技術を正確に身に付けようと努力する姿が見られた。友達や教師との関わりの中で、一人では気付かなかったことに気付き、課題を解決しようとする姿勢が見られるようになった。個別の実態に応じて教材や教具を工夫したり、教師が生徒の思いを具体的な言葉で言い換えたりしたことで、生徒は自分の言葉で学びを表現するようになった。特に対象生徒Fは、これまで抽象的な言葉での表現が多く、学びや気付きが曖昧になることが多々あった。しかし、本時のまとめでは、介護者と利用者の双方の目線から望ましい介助とは何かを考え、次時の実践で生かしたい事柄を具体的に書き表すことができた。



写真3 協働的な学びの様子



資料2 生徒による学びの記述

### ② 相手の心情を考えて行動する姿

介護者と利用者の双方の体験をしたことで、介助をする際の心構えやポイントなどを具体的に学び、相手意識をもって行動する姿が増えた。介助を練習する場面においては、「お湯は熱くないですか?」「かゆいところはありませんか?」など、相手を気遣う言葉が自然と生まれ、どのような言葉を利用者に掛けると安心で安全な介護につながるか、生徒同士で議論する場面も見られるようになった。また相手の心情を考える行動は介護の場面以外でも見られるようになった。授業で使用する物品の準備を生徒同士で協力して行い、「ありがとう」「ごめんね」「助かった」など相手を思いやる言動が増え、生徒同士のつながりが深まった。

## (3) 職員の変容

### ① 生徒の変容を確認する機会の習慣化

対象生徒を一名抽出したことにより、生徒の実態を短いスパンで確認し、変容を細かく記録する習慣ができた。生徒の実態を学科や学部全体で共有したことで、対象生徒への手立てを試行・改善しながら授業の中で実践する流れが醸成された。また、これまでは生徒の様子を口頭のみで共有していたが、生徒の様子をメモに残すことで、授業づくりをする際に効果的な手立てを講じる一助

となった。実態把握を日常的に行い、学年の職員のみならず、学科全体で生徒の様子を共有する機会が日常的に増え、指導の方針を学科全体で確認することができた。

## ② 教科指導における専門性の向上

教科福祉を取り上げたことで、学科や学部で教科の内容や目標を共有することへとつながった。これまでは、福祉の内容や流れがどのように展開されているか学科内においても共有しきれていない部分があり、福祉担当教員のみが把握する実態があった。今年度は、教科福祉としてどのような力を身に付けさせたいか、どのように学習活動を展開しているかなどを事前検討会や学部研究日などを活用し、共有理解を図った。



写真4 外部講師との連携

また、外部講師（介護のプロ）と連携したことにより、介護現場で実践されている技やポイント、物品の配置や使用方法など、幅広く助言をいただくことができた。専門的な視点で助言をいただいたことで、介護現場に即した形で学習環境を設定することができた。授業づくりを進める上で、入浴介助は人によって感じ方が違うことから、その違いを生徒にどのように伝えたらよいか職員が悩む時期があった。外部講師からは「まずは介助する回数を増やすこと。様々なパターンを経験する中で感覚を養うこと。」などの助言をいただき、職員が迷いなく指導することへとつながった。定期的に外部講師と連携することで、生徒のみならず教師の専門性を高めることができた。

## （４）次年度に向けて

### ① 自ら気づき、考え、表現する機会を大切に学習活動の展開

協働的な活動の中で生まれた気づきや学びは生徒にとって新鮮なものであり、学びを深める大きなきっかけであった。また、繰り返し実践し評価・改善する機会は生徒にとって、何度も試行錯誤する機会となり、自分で課題解決をしようとする姿へとつながった。一方で、生徒の気づきや学びを表現する機会が授業内に限られることが多く、学びの広がりには課題が見られた。積極的に気づきや考えを表現し、他者との関わりの中で課題解決する機会や姿をさらに増やしていきたいと考える。

### ② 各教科における自ら学び続ける子どもの姿の明確化（学科として）

教科の目標や内容を共有したことで、学科全体で教科福祉の流れを確認することへとつながった。また、教科としての指導の方向性や重点事項を確認することができた。一方で、学部・学科内で教科指導と関連して自ら学び続ける子どもの姿の共有が課題に挙がった。各教科においてどのような姿が学び続ける姿であり、教科学習の中でどのような指導が必要か、さらに検討し共有していく必要があると感じた。さらに、各教科においてどのような流れや内容で学習が展開されているかを共有していく必要性も感じた。



## 対象児童生徒について

資料 5

### 対象児童生徒の実態

【障害特性や得意なこと、学習面や生活面で困っていることや、その背景にあること】

- ・清掃などの工程が決められたことは、やり方や流れを覚えて活動できる。
- ・臨機応変に対応することが苦手だが、一度経験したことは自信をもって臨むことができる。
- ・分かったこと、気付きはたくさんあるが「(タオルを畳むときは) ささっと (伸ばして整える) やるとうまくできた」「(足側シーツは) ピタッと付けて (角を) ぐいーってやるとよい」など自分なりの表現をしていることが多い。自分が書いた振り返りを読んで次回やろうとしても何について、どんなことを書いたのか分からなくなることがある。
- ・振り返りの際に、生徒の思いを教師が具体的な表現で言い換えたり、気持ちを代弁したりすることで、「そういうことか」「なるほど」と納得することがある。

【本単元に関わる実態】

- ・将来は介護施設で働きたいと考えている。
- ・福祉の授業では自ら発言をすることも多く、授業態度は良好である。

児童生徒写真



対象生徒  
F

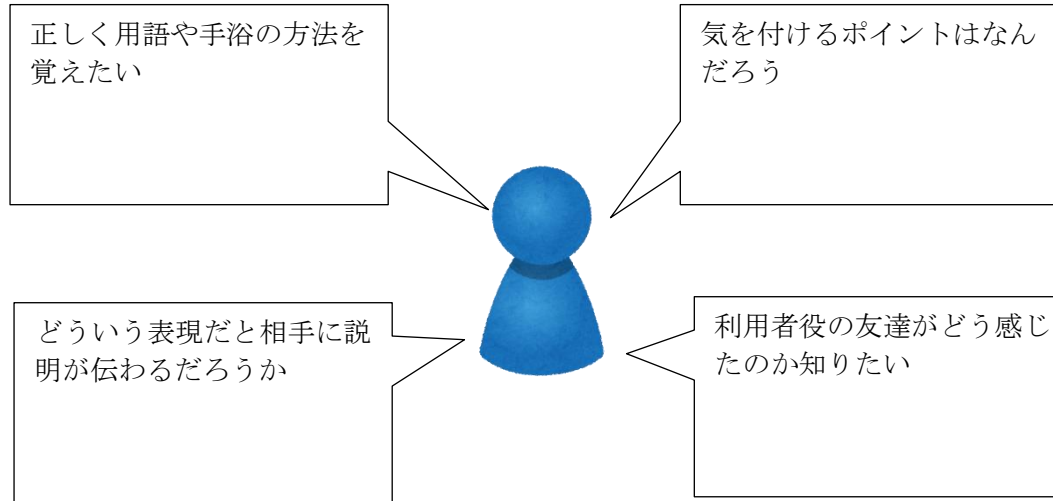
### 本単元における育みたい資質・能力 (対象児童生徒の本単元のねらい)

- ・入浴が心身にもたらす効果と手浴の目的を知る。[知]
- ・手浴の正しい手順を覚え、友達に手浴介助を行う。[知]
- ・相手が手浴を受けて気持ちよいと感じられるように、相手の様子をよく見たり、気持ちを聞き取ったりする。[思]
- ・利用者役の友達に手浴の手順や効果を説明する。[思]
- ・利用者役や記録者の友達の意見を聞いて、気持ちよい手浴になるような方法や工夫を考える。[主]
- ・気持ちよい手浴になるための方法についてグループの友達と話し合おうとする。[主]

### 本時の期待する姿 (本時のねらい)

- ・衛生や気持ちよさを感じるポイントを理解し、具体的に説明しながら実践する。
- ・相手が心地よさを感じられるような会話をしながら手浴する。

## 予想される子どもの思い



## このような思いを引き出すための支援や手立ての工夫

- ・生徒の実態を考慮したグルーピング編成
- ・手浴の工程とポイントの視覚化
- ・介護者役から意見を聞く機会の設定

## 本時で見られた子どもの様子と予想される子どもの思い

- ・介護の手順を確認し、主体的に活動に取り組んだ。
- ・友達との関わりの中で、新たな気づきや学びが生まれた。
- ・次時の学習課題を自ら見付け、意欲的に行動した。

## 思いを引き出すための支援や手立ての工夫

- ・生徒の実態に応じたワークシートを提示した。
- ・生徒の思いを教師が代弁したり言葉を言い換えたりした
- ・生徒のグルーピングを工夫し、自然なやりとりが生まれる状況づくりを行った。

## 高等部総合サービス科1年 福祉科学習指導案

日 時：令和5年10月25日（水）13：20～14：10

場 所：第二校舎 ランチくりた

生 徒：男子7名、女子4名、計11名

指導者：加藤真依子（T1）、藤井優香（T2）

### 1 題材名 生活支援技術 入浴介助～手浴～

### 2 児童生徒と題材

#### （1）生徒について

1年生11名（男子7名、女子4名）の学習グループである。本校中学部からの進学が4名、中学校からの進学が6名、学び直しを目的に留年した生徒1名である。全員が卒業後は一般就労を希望している。早い時期から福祉の仕事に就きたいと考えている生徒や、福祉の仕事に興味があると答える生徒が多く、全員が教師の話をよく聞き、福祉の学習に意欲的に取り組んでいる。

手浴は、中学部や中学校在籍時に、栗田祭の体験コーナーや体験学習などで見学したり、経験したりした生徒が多く、何をするのかを大まかに理解している。

これまで加齢による体や心の変化、介護職員としての基本的な態度などについて学んだ。加齢によって老化が進み、体が動かしにくくなることや、介護職員は相手を理解して受け入れることが大切だと知った。

高齢者向けレクリエーションの企画や実施、介護の実践などに触れ、専門教科「福祉」と介護の仕事の楽しさを感じ始めている。

#### （2）題材設定理由

総合サービス科では、1年次と2年次に全員が「家政」、「流通サービス」、「福祉」の専門教科を学ぶ。3年次には卒業後の進路を見据えて三つの専門教科から一つを選択し、専門知識を深めたり、技術を高めたりする学習を行っている。

1年次の「福祉」では、介護の仕事の大まかな内容を知り、福祉に興味をもつことを目的として学習を展開している。2年次に取得する介護職員初任者研修に向け、基本的な用語を覚えたり、介護技術に触れたりしている。

本題材は、生活援助技術の入浴に関する題材である。手浴は、全身入浴できない利用者さんの皮膚を衛生的に保ち、気持ちよい感覚を味わい、安眠できるようにすることを目的として行う。手浴をお互いに経験し、気持ちよさを味わったり、「気持ちよかったよ、ありがとう」と言われたりする学習活動は、福祉に興味をもち、楽しさを感じるために有効であると考え、本題材を設定した。

#### （3）指導について

##### ①協働的な学びの機会の設定

- ・福祉を選択している3年生の先輩からポイントや失敗談などを聞く機会を設定する。
- ・ペアやグループなど多様な意見に触れる機会を設定する。

##### ②学び続ける子どもを育てる授業づくりのポイントを生かした手立て

- ・加齢による心身の変化の学習を振り返る機会を設定し、既習事項からどのような言葉掛けや介助を行えばよいか問い掛ける。
- ・楽しさやできる喜びを感じられるように、よかったところを伝え合う状況づくりをする。

### 3 題材目標 知：知識及び技能 思：思考力・判断力・表現力等 学：学びに向かう力・人間性等

（1）入浴が心身にもたらす効果と手浴の目的と介助の方法を知る。知

（2）どのような環境設定や言葉掛けをしたら利用者役の友達が気持ちよさを感じられるか、友達と意見交換してよい手浴の仕方について考える。思

（3）利用者役の友達の様子を見て、思いやりのある言葉掛けや対応をしようとする。学

#### 4 題材計画（総時間数 3時間／本時5時）

時	学習内容（各教科の内容）	学習活動	育成を目指す資質・能力 （関 関 学）
2	入浴介助 ・効果 ・介助のポイント	・入浴すると心身にどんな変化が起きるか考える。 ・教師の演示を見て、入浴介助の仕方を知る。	・入浴が心身にもたらす効果と介助の仕方を知る。関
2 (1 / 2時)	手浴 ・効果 ・介助のポイント（3年生福祉の生徒より）	・教師の説明や先輩の話しを聞いて、手浴の効果を知る。 ・グループになった友達と手浴を実践し合い、感想を伝え合う。	・手浴の意味と効果を知る。関 ・手浴の仕方が分かり、実践する。思 学
1	振り返り	・利用者役からの感想を受けて、相手に喜ばれるための手浴の方法を知る。	・手浴の方法と効果についてまとめる。学

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴の目的や効果が分かる。</li> <li>手浴の方法や効果が分かり、手順よく介助できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手浴をする相手が気持ちよく感じる言動や方法を考える。</li> <li>相手の様子を見ながら手浴の介助をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちのよい手浴になるように友達と一緒に考えたり、実践したりしようとしている。</li> <li>友達と意見交換し合いながら、よい手浴の方法について話し合おうとしている。</li> </ul>

#### 6 本時の計画（3時中の5時）

##### （1）本時のねらい

- 手浴の手順や介助のポイントについて正しく知り、実際に行うことでその効果を理解する。思 学

##### （2）生徒のねらいと手立て（対象生徒部分は太枠で囲む）

No	氏名・性別	実 態	個別のねらい	手立て
1	A (男)  利用者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の仕事を大まかに理解し、「大変、命に関わるから怖い」などと感じているが、福祉の先輩に憧れ、興味をもち始めている。</li> <li>促しが必要なことがあるが、求められていることが分かると、進んで発言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手浴の効果を感じ、何がどうよかったか介護者役に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>何について伝えればよいか分かるように、伝えるべき項目を事前に説明したり、伝え方の例を示したりする。</li> </ul>
2	B (男)  利用者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活の乱れから欠席が多い。介護技術に関する学習には意欲的に取り組む。</li> <li>指示が2つ以上になると注意がそれて行わないこともあるが、ヒントを提示すると思い出して取り掛かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手浴の効果を感じ、何がどうよかったか介護者役に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的に伝えられるように、伝えるべき項目を事前に説明したり、伝え方の例を示したりする。</li> </ul>

3	C (男) 介護者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉の仕事には興味をもっており、意欲的に学習に参加している。</li> <li>教師の演示を見て正しく理解する。相手の状況が分かると、相手の興味関心に合わせた会話ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生に気を付け、気持ちよさを感じるポイントを理解し、実践する。</li> <li>利用者役が心地よさを感じられるような会話をしながら手浴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生や気持ちよさを感じるポイントについて写真を用いて説明する。</li> <li>相手が気持ちよさを感じる会話について、友達の見解を聞く時間を設定する。</li> </ul>
4	D (女) 記録者	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の仕事の具体的なイメージはまだないが、授業には意欲的に取り組む。</li> <li>老化による体の変化で高齢者がどのような気持ちになるかを考えて話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護者役や利用者役の様子を見て、どのような介護が安心や気持ちよさを与えるかワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生や気持ちよさを感じるポイントについて写真を用いて説明する。</li> <li>具体的な介護の様子を書けるようワークシートを工夫したりまとめ方の例を示したりする。</li> </ul>
5	E (男) 記録者	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来は調理関係の仕事に就きたいと考えている。経験したことを覚えて取り組むことは得意である。</li> <li>振り返りや感想まとめで抽象的な表現になるときがあるが、一問一答形式にすると具体的に答えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手浴の様子を見て、介助の仕方と利用者役の感想をワークシートの項目に沿ってまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>項目ごとにまとめられるように、書き方例を示すなどワークシートを工夫する。</li> <li>事前にまとめ方の例を示す。</li> </ul>
6	F (女) 介護者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>明るい性格で、友達に積極的に話しかける。将来は福祉の仕事をしたいと考えている。</li> <li>学習課題を実際に理解できていないことがあるが、問われていることが分かると進んで行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介助のポイントを正しく理解し、利用者役の生徒に何のためにどうするのかを話しながら実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介助のポイントを理解できるように、写真を用いて説明する。</li> <li>何のために行うかを伝えると相手は安心して手浴を受けることができることを説明する。</li> </ul>
7	G (女) 記録者	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や先輩に介助の手順ややり方を確かめたり、質問したりしながら介助の仕方を覚えようとする。</li> <li>自分の課題や役割が分かると安心して活動に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者役の様子を見たり、発言を聞いたりして手浴の様子をワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質問式にしたり、まとめ方の例を掲載したりしてワークシートを工夫する</li> </ul>
8	H (女) 介護者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や先輩に介助の手順ややり方を確かめたり、質問したりしながら介助の仕方を覚えようとする。</li> <li>教師や先輩の手本を見たり、説明を聞いたりして介助のポイントを覚え、実技で生かそうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>介助のポイントを正しく理解し、実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポイントをよく見るように事前に伝えたり、例となる友達と一緒にグルーピングを工夫したりする。</li> </ul>

9	I (男)  利用者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介助の実技を見ることで理解が定着しやすい。また、繰り返し練習することで実技のやり方を覚えられる。</li> <li>・利用者役になったときに、どうだったかを率直に話す。「何が」「どうして」など問いかけると具体的に話す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手浴の効果を感じ、何がどうよかったか具体的に介護者役に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に伝えられるように、伝えるべき項目を事前に説明したり、伝え方の例を示したりする。</li> </ul>
10	J (男)  介護者役	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来は福祉の仕事に就きたいと考えており、意欲的に学んでいる。</li> <li>・教師や先輩の実技を見て介助のポイントや手順を覚え、実技で実践しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生に気を付け、気持ちよさを感じるポイントを理解し、実践する。</li> <li>・利用者役が心地よさを感じられるような会話をしながら手浴する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生や気持ちよさを感じるポイントについて写真を用いて説明する。</li> <li>・どのような会話をすると相手が心地よさを感じられるか、友達の意見を聞く時間を設定する。</li> </ul>
11	K (男)  利用者役と記録者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を正しく理解し、意欲的に学んでいる。実技の際にも率先して準備や片付けをしたり、あやふやな友達に教えたりしている。</li> <li>・利用者役になったときに、どんな介護の仕方がどのようによいか具体的に伝えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手浴の介助を受け、安心や気持ちよさを感じられた介助方法を介護者役に伝え、ワークシートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな介助を受けてどのように感じたかを具体的に伝えたり、ワークシートにまとめたりすることを事前に説明する。</li> </ul>

### \*手浴の手順とポイント

<p>1 挨拶 自分の体に触られるのは緊張すること。<u>安心してもらえるように、笑顔で挨拶をする。</u></p> <p>2 タオルを腕に巻く タオルがずれないように巻く。</p> <p>3 手をお湯に浸す 今回は適温になったお湯を使用する。</p> <p>4 泡になった石けんを付けて洗う <u>血流がよくなるようにマッサージしながら洗う。</u></p> <p>5 指や爪の間を洗う 爪の間は特に汚れが溜まりやすい。汚れが落ちやすいように、<u>生え際に沿って指を動かす。</u></p> <p>6 大まかな泡を流す</p> <p>7 シャワーボトルで指や爪の間についた泡を流す</p> <p>8 水気をタオルで拭き取る</p> <p>9 終わりの挨拶をする</p>
--

\*安心して気持ちよくなってもらえるように、相手にとって楽しいと思えるような会話を心掛ける。

(3) 学習過程

時間 (分)	学習活動	教師の働き掛け、指導上の留意点 囲み部分は対象生徒の個別のねらいに対する手立て
10	導入 1 前時の内容を振り返り返る。 2 本時の学習課題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習に見通しがもてるように、学習の流れをあらかじめ板書する。</li> <li>・前時に学んだ手浴の手順を思い出せるように、写真を用いて説明する。</li> <li>・学習課題が視覚的に分かるように板書する。</li> </ul> 学習課題：衛生に気を付け、相手が気持ちよさを感じるためにはどのように手浴をしたらよいか。
30	展開 3 グループで、手浴をする。  4 話し合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順や介護のポイントが分かるように、前時で使用した3年生からの説明資料を一つずつ提示しながら説明する。</li> <li>・利用者役の友達が気持ちよさを感じたのは、介護者役がどのようなことをしたときかということに気付けるように、記録者を設定する。</li> <li>・覚えたことを話ししたり聞いたりして助け合いながら手浴の介助ができるようなグルーピングにする。</li> <li>・【T2】(記録者) 事前に記録者がどのようなことに視点を向けて記録するかが分かるように、記録の仕方を説明する。</li> <li>・(記録者 G、E) 相手を気持ちよくするためのポイントを意識して記録できるように、観点をワークシートに示す。</li> <li>・(介護者) 事前に行うことを説明しながら介助ができるように、説明することの理由を説明する。</li> <li>・(利用者役) 気持ちよいかどうか介護者役に伝わるように、感想を自由に話すように伝える。</li> <li>・よい介護の仕方や感想があった場合は、全員で共有できるように「ナイス福祉ポイントだね」と本人に伝え、全体に紹介する。</li> <li>・【T2】適温のお湯がすぐに使えるようにお湯を沸かし、水で適温にするなどして準備する。</li> <li>・机間支援を行い、生徒の理解度を見届ける。</li> <li>・相手が気持ちよさを感じるためにはどのように手浴をしたらよいかを振り返られるように、記録用紙を見ながら同じグループの友達と話し合う時間を設定する。</li> </ul>
10	まとめ 5 振り返り  6 次時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの発表内容が視覚的に分かるように、モニターに発表内容が映るようにする。</li> <li>・【T2】各グループの意見を共有できるように、発表内容を板書する。</li> <li>・次時の学習に見通しがもてるように、内容を簡潔に伝える。</li> </ul>

(4) 評価

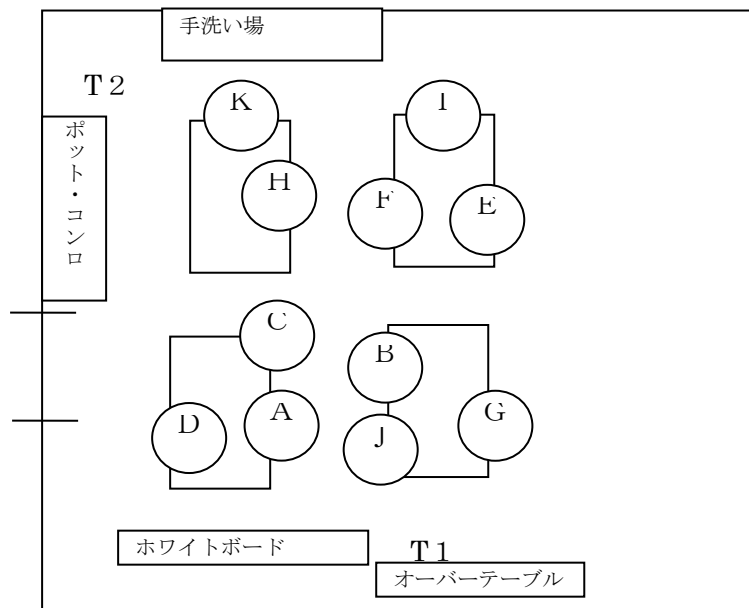
<生徒の評価>

- ・(介助者) 手浴のポイントを理解し、利用者役が気持ちよさを感じられるような介助の仕方や言葉掛けができたか。
- ・(利用者) 介助者のどのような介助で気持ちよさを感じたか、具体的に伝える。
- ・(記録者) 介助者と高齢者の様子をよく見て、どのような介助が高齢者役の気持ちよさにつながったか観察しながら記録する。

<教師の手立ての評価>

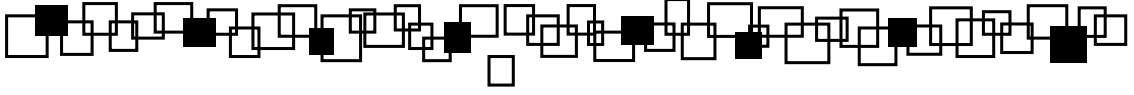
- ・手浴の手順やポイントを理解できるように、説明できたか。
- ・自分の考えをまとめたり、考えを深めたりできるように、ワークシートの活用やグルーピングの工夫ができたか。
- ・【T2】スムーズに手浴の活動ができるように、適温のお湯を準備する。
- ・即時的に生徒の理解に応じた指導ができるように、T1とT2が連携し、言葉掛けをしたか。

(5) 配置図





# 寄宿舎研究



## 学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成を目指した生活指導の実践 ～生徒同士の学び合いや体験的な活動を通して～

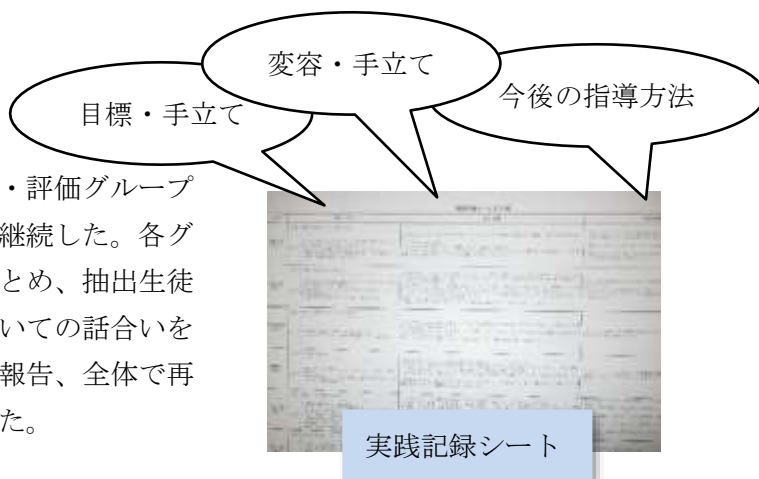
### 1 寄宿舍研究テーマ設定理由

一昨年度は、個々の実態に応じた学習会や指導体制・手立ての工夫と改善を積み重ねることで、知識や技能の向上と習慣化を図ってきた。一昨年度に有効だった指導方法を生かしつつ、本校の特色ある教育活動の一つである「地域学習」を取り入れた体験的な活動や生徒同士の学び合いの場面を多く設定していくことで、生活技術の習得、活用、探究の機会がより増え、生徒のさらなる深い学びへとつなげていくことができるのではないかと考え、この研究主題を設定した。

### 2 具体的な取組

#### (1) 実践記録シートを使った抽出生徒の見取り

- ・昨年度に続き、個別の生活指導計画の検討・評価グループを研究グループとして活用した指導体制を継続した。各グループは月ごとに「実践記録シート」をまとめ、抽出生徒の目標に対する変容や課題、指導方法についての話し合いを行った。話し合った内容を各グループから報告、全体で再検討、共通理解をし、翌月の指導に当たった。



※ **資料1**・**資料2**参照

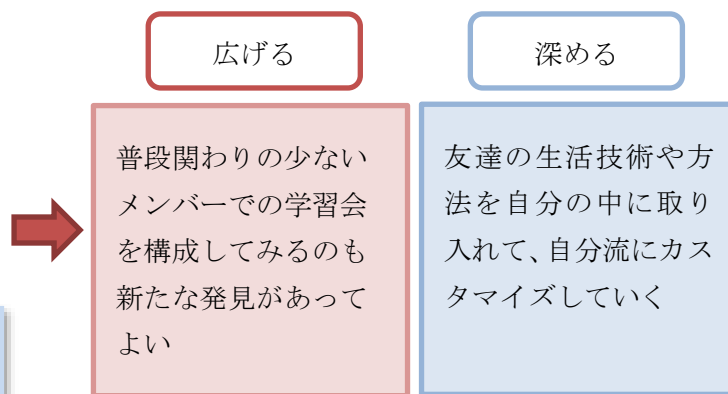
#### (2) 生徒同士の学び合いを広げ深めるための手立ての検討

##### ① 付箋紙を使ってのワークショップ

- ・日常の生活指導や学習会に生かすため、生徒同士の学び合いを広げ、深めるためにはどうしたらよいか、付箋紙に書き出すワークショップを行った。



学び合いを広げ、深めるための手立てを考えたシート



## ②職員研修会の実施

- ・ 寄宿舎職員研修として外部講師を招き、整理と収納の基本技術と生徒の実態に応じた片付けの方法を教えていただいた。研修終了後のアンケートでは、今後の生活指導に生かしていきたいこととして、以下のような感想が聞かれた。



職員研修会の様子

- 新しい習慣は、今定着していることにドッキングさせて取り組むこと、何かとセットにすることで、本人も指導者も分かりやすいということを学んだ。
- 困り感は支援のチャンス。そのタイミングを逃さず本人の困り感を聞き、考えさせ、提案というステップを踏みながら指導に生かしていきたい。
- 「何のために」という考え方は、全ての指導において、共通した大切なことであると感じた。生徒自身が必要性を感じることができ、さらには興味や意欲をもって取り組めるような支援方法を考えていきたい。

## (3) 生徒同士の学び合いを広げ、深める場面の設定

### ①生徒同士が学び合える学習会の設定

- ・ 生徒同士の学び合いの場を、1年目は「洗濯」と「アイロン掛け」に焦点を絞っていたが、2年目は、主に「洗濯から収納まで」に場面を広げて研究を進めた。

### スタイリッシュゼミ（男子学習会）

- ・ 昨年度も学習会は行っていたが名称を設けておらず、今年度は生徒の意欲をより高めるために名称を投票で決め、「スタイリッシュゼミ」として実施した。

日時	内容
7/20 (木)	衣類の畳み方①
8/30 (水)	洗濯干しの仕方
10/ 5 (木)	「クリーニング教室」の動画視聴（男女合同）
10/18 (木)	洗濯干しのグッズ紹介と活用法 洗濯洗剤の種類と使い方
10/30 (月)	衣類の畳み方②
11/ 8 (水)	アイロン掛けの必要な衣類と不要な衣類の違い

しわを伸ばさずに  
干すようになります



「手アイロン」だよ！



僕が記録をするよ



僕は衣類を縦に  
収納しているよ



## レディースデー（女子学習会）

- ・年度初めに、生徒同士で何を学びたいか話し合いをし、寄宿舎宿直指導員にもアドバイザー役として参加してもらった。

日 時	内 容
6/ 7 (水)	令和4年度の振り返り 令和5年度取り上げる内容について
6/21 (水)	衣類の畳み方①
6/28 (水)	衣類の畳み方②
7/ 5 (水)	手アイロン（手で洗濯物のしわを伸ばす）の仕方
7/20 (木)	洗剤の違いについて（自分たちが使っている物の比較）
8/31 (木)	夏休みの振り返り
9/ 7 (木)	アイロン掛け ※クリーニング教室翌日
9/21 (木)	アイロン掛けの仕方
10/ 5 (木)	「クリーニング教室」の動画視聴（男女合同）
10/19 (木)	洗剤の成分や、使い分けについて
10/26 (木)	洗濯の便利グッズの紹介、使い方
11/ 2 (木)	寝癖の直し方



今年は何をする？



衣料用…漂白剤？

やけどに注意！



ドライヤーを使うとまとまるよ

### ②アンケートによる振り返り

- ・学習会等に関するアンケートを実施した。設問は「舎監の先生からアドバイスを受けて、気を付けていること」「学習会に参加して勉強になったこと」「学習会で勉強してみたいこと」「自分が友達に教えられると思うこと」とした。



アンケート記入の様子

気を付けていること

洗濯物を干すとき、「パンパン」と振ってから干すこと。

勉強になったこと

いろいろな洗剤があることが分かりました。自分で買いにいきたい。

勉強してみたいこと

次はアイロン掛けの仕方や衣類の収納の仕方を学びたい。

教えられること

寝癖の直し方やヘアアレンジ、教えてあげるよ！

(4) 実生活への結び付きを意識した体験的な活動の拡充

クリーニング店・コインランドリー体験

- ・交流活動として行われた「クリーニング教室」では、新屋地区にあるクリーニング店の店主に来校してもらい、ハンカチやワイシャツへのアイロン掛けを教わった。実施後、生徒数名が実際に店舗へ行き、生徒に実施した事後アンケートの中から出た質問を店主に伝え、回答してもらった。回答は生徒が模造紙にまとめ、廊下に掲示した。また店舗へ行った際、クリーニングの依頼も体験した。
- ・コインランドリーへ行き、シューズクリーナーの操作を体験した生徒もおり、その際の様子は動画に収め、他生徒の視聴機会をもった。



店主よりアイロン掛けを教わっている様子



店主からの回答を確認している様子



制服をクリーニングに出している様子

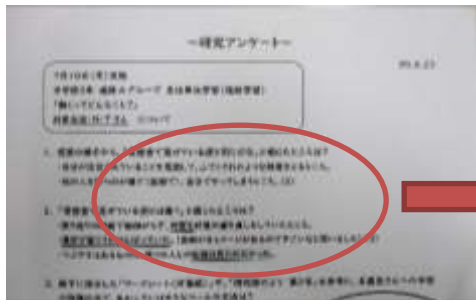


シューズクリーナー操作体験

(5) 学部・保護者とのより密な連携

①研究授業等の参観

指導方法の共有や生徒の多角的な実態把握のため、研究授業や授業者実践研修等の参観を行った。



寄宿舎生が対象生徒となっている研究授業を参観した後のアンケート

1. 「寄宿舎で見せている姿と同じ」と感じたところ
  - ・他の人を待つのが苦手で、一人で作業してしまうこと。
2. 「寄宿舎で見せている姿とは違う」と感じたところ
  - ・振り返りの場面で、根気よく何度も付箋紙の書き直しをしていたところ。
3. 学部の先生方が記入したワークシート等も参考に、今後の指導に、生かしていけそうな方法

・興味のあることに関しては、探究心のある生徒だと思うので、指導の導入部分に興味のあることを関連付けながら、本人がメリットを感じられる指導をしていきたい。

(一部抜粋)

②舎監からのメッセージ

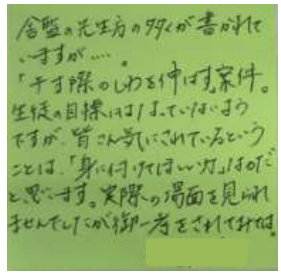
舎監から、生徒への励ましのメッセージと、学び合いの場面の様子や職員の指導に対するアドバイスについて、付箋紙への記入協力を得た。また、記入してもらった付箋紙は、掲示をして生徒に見せるだけではなく、寄宿舎研究会での話合いの際、生徒の実態の変化や生徒同士の関わりの様子を知る貴重な資料としても活用した。



舎監からのメッセージを掲示



舎監からのアドバイスを実践して  
よい変容が見られた生徒の紹介



指導に対する助言

### ③ 寄宿舎通信の発行

- ・ 寄宿舎での頑張りや家庭での取組を寄宿舎通信に掲載し、保護者との情報共有や生徒の意欲向上を図った。掲載回数も、昨年度より増やした。



学習会の様子を紹介



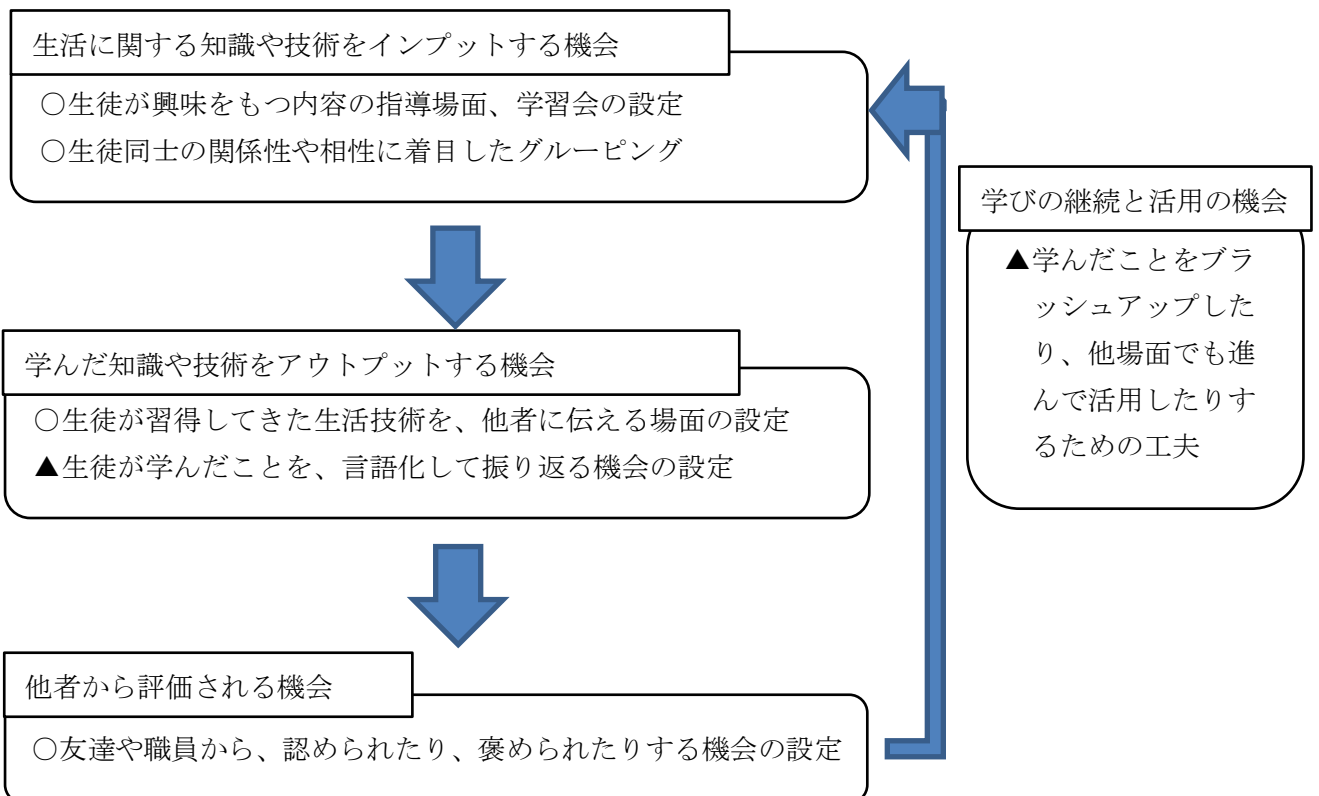
保護者からの生徒へのメッセージや、家庭での取組を紹介

## 3 まとめ

### (1) 学んだことを自分の力として活用できる生徒の育成に向けて

#### ① 学んだことを自分の力として活用するためのサイクルの構築

○成果 / ▲課題・改善点



## (2) 生徒の変容

- ・昨年度は教えられる立場であった生徒が、今年度は教える立場になり、積極的に学習会に参加する様子が見られた。また、相性のよい生徒同士が学習会の集団の中にいることや、生徒からの意見を学習会の内容に取り入れることが、学習会への参加意欲につながる様子が見られた。
- ・クリーニング教室では、家族や職員のハンカチ等にアイロン掛けをした生徒がお礼を言われ、家族や職員に喜んでもらえたと感じ、その後のアイロン掛けにも意欲をもつ様子が見られた。
- ・舎監からのメッセージが励みになり、アドバイスしてもらったことに取り組み、生活技術が向上する様子が見られた。

## (3) 職員の変容

- ・外部講師による整理収納に関する研修を受けたことで、「片付け」の捉えが変わり、より生徒の目線に立った指導ができるようになった。
- ・生徒たちの学習会を様々な形で計画、実施、振り返りをしたことで、生徒同士の相性や関係性、実態について改めて考え、指導に当たることができた。
- ・授業参観等で学級での生徒の様子に触れた上で学級担任との情報交換をしたり、付箋紙を活用して舎監から指導についてのアドバイス等を受けたりしたことで、生徒を多角的に見て、学部と寄宿舎で連携して指導することの有効性を実感した。
- ・寄宿舎通信の発行等をきっかけに、家庭での様子や保護者の生徒に対する思いを知り、指導について共有したことで、保護者との情報交換の機会の大切さについて改めて考えることができた。

## (4) 次年度に向けて

### ① 寄宿舎研究会の進め方の工夫

- ・寄宿舎研究会では、より生徒同士の学び合いが広がり深まっていくように、現在の研究グループでの話し合いを基本としながら、研究会の内容に合わせてグループ編成を工夫する。

### ② 生徒同士の学び合いを広げ、深める場面の設定

- ・学んだことを般化させたり、より自分に合った方法を選んだりできるように、生徒の実態や希望に合わせた学習会を継続していく。その際に、今年度各棟で行った学習会の中で効果があった指導方法を取り入れて、計画する。
- ・学んだことの定着を図るため、振り返りの場面を増やし、学習会のほかにも他者に伝えたり教えたりする機会の設定を拡充していく。
- ・言葉で表現することが難しい生徒の振り返り方法などに、ICTを活用する。

### ③ 実生活への結び付きを意識した体験的な活動

- ・より多くの生徒が地域資源の利用を体験し、家庭生活にも生かすことができるように、保護者との連携を強化する。

### ④ 学部・保護者とのより密な連携の推進

- ・舎監からのメッセージを紹介する場面を増やし、生徒同士が頑張りを認め合ったり、生活技術を比較し合ったりする機会になるようにする。また、付箋紙のメッセージがより多くの生徒の励みになるよう、寄宿舎指導員や寄宿舎宿直指導員も記入するようにする。
- ・寄宿舎通信を通して、寄宿舎や家庭での生徒の頑張りが取組の発信を継続する。



去年は洗濯の一連の作業について学んだり、制服のズボンのアイロン掛けをしたりしたよ。

中3 A

実 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こだわりが強く、確認した手順等に納得するまで時間が掛かることがあるが、覚えは早い。</li> <li>・ワイシャツにアイロン掛けができるようになりたいという気持ちがある。</li> </ul>
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワイシャツのアイロン掛けの仕方を覚える。</li> </ul>
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の取組を振り返る機会を設ける。</li> <li>・ワイシャツのアイロンの掛け方を職員と一緒に確認する。</li> </ul>

**学部・保護者との連携**

学部との連携

- ・本生徒が事例対象となっていた研究授業を参観し、中学部職員が行ったワークショップの記録を共有した。



保護者との連携

- ・寄宿舎通信等を通して本人の頑張りや、取組の経過を共有した。

**体験的な活動**

クリーニング教室

- ・ワイシャツへのアイロン掛けの仕方を教わり後日クリーニング店へ礼状を届け、アイロン掛けに関する質問に答えてもらった。



**生徒同士の学び合い**

スタイリッシュゼミ

- 8/30(水)  
「洗濯干しの仕方」  
・「寄宿舎生活の先輩」として、上級生に洗濯の干し方をアドバイスした。普段関わりの少ない他の上級生からも、称賛された。



あなたは、素晴らしい！

変 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員と一緒に、電源が入っていない状態でハンカチにアイロンを当てたことで、落ち着いて基本動作を再確認することができた。</li> <li>・クリーニング教室で、講師に手を添えてもらいながらワイシャツにアイロン掛けをしたことで手順が分かり、プロの技を体感することができた。</li> <li>・アイロン掛けに取り組む曜日を担当職員と話し合っ決めて、練習をした。ワイシャツをアイロン台に置く向き、アイロンの動かし方、生地を引っ張りながら掛けることなど、アイロン掛けのこつをつかんできている。また、友達との会話の中にもアイロン掛けに関する話題が出るなど、意識が高まってきている。</li> </ul>
-----	--





私も去年は、先輩から衣類の畳み方を教えてもらったよ！

中3 B

実 態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明るく素直な性格だが、自分が納得のいかないことにこだわる傾向がある。</li> <li>・様々なことに挑戦しようとする意欲がある。</li> </ul>
目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラウスのアイロン掛けの仕方を覚え、一人で行う。</li> </ul>
手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や先輩と一緒にアイロン掛けを行い、取組を共有する機会を設ける。</li> <li>・地域資源を活用した体験的活動を設定し、技術の習得や向上を図る。</li> </ul>

**学部・保護者との連携**

学部との連携

- ・修学旅行前の授業参観で旅行かばんの衣類収納の様子を見て、寄宿舎で学んだことを生かしているか確認した。



保護者との連携

- ・寄宿舎通信等を通して本人の頑張りや、取組の経過を共有した。

**体験的な活動**

クリーニング教室

- ・ワイシャツへのアイロン掛けの仕方を教わり後日クリーニング店の利用を経験した。



**生徒同士の学び合い**

レディースデー

○9/7 (木)

- 「アイロン掛けの仕方」
- ・クリーニング教室の翌日、友だちの前で率先して手本を見せていた。

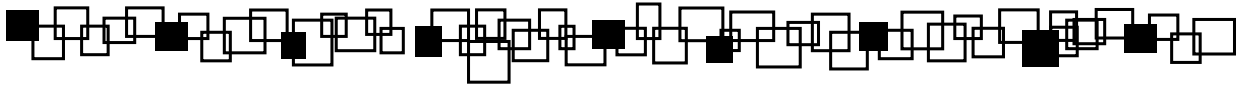
昨日、先生に教えてもらったよね！



**変 容**

- ・女子生徒の学習会（レディースデー）を活用して、ハンカチやバンダナ、ブラウスのアイロン掛けに挑戦した。先輩の様子を見て、始めに「手アイロン」をする、片方の手で端を引っ張るなど工夫している点に気付き、まねをするようになった。
- ・地域の先生によるクリーニング教室に参加し、プロの技に触れた。直接手を添えて教わったことで力加減や動かし方を覚え、丁寧に取り組むようになった。クリーニング店へ訪問した際は、進んで疑問点を質問したり、制服をクリーニングに出したりした。「緊張したけれど、よい体験になった」と感想を話した。

# 資料



- 研究のあゆみ

### 研究のあゆみ

昭和 56年度	生活単元学習、遊びの学習
57年度	合同遊び、作業学習
58年度	日常生活の指導、作業学習
59年度	日常生活の指導、作業学習
60年度	ことば（国語）・かず（数学）の要素表の作成
61年度	ことば（国語）・かず（数学）の年間指導計画の作成、自作教具集の作成
62年度	音楽・図工・美術・体育
63年度	養護・訓練

児童生徒の障害の重度化・多様化に伴い、これまでの指導内容や方法だけでは子どもたちの発達要求に十分応えることができないという状況が多く見られるようになってきた。また、基礎集団としての学級での指導を基本としながらも、子どもたちの発達段階と各教科の課題を考慮しつつ、「質」と「量」の違う複数の集団での活動を保障しながら「個」への配慮が必要だという意見が出るようになった。このことから平成元年度に研究テーマを設定し、「個別学習」についての研究・実践を進めた。

これが、「研究くりた」の始まりである。

### 「研究くりた」 研究主題

平成 元年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導の形態と個別指導のあり方～
2～3年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究 ～一人ひとりを生かす指導のあり方～
4～7年度	個々の発達課題に即した指導の内容と方法に関する研究
8～10年度	生き生きと豊かに生活していく力を育てるために ～日常生活の指導の実践をとおして～
11～12年度	「生活する力」を育てる指導実践 ～生活単元学習を中心として～
13～15年度	個別の指導計画の効果的な活用 ～よりよい授業づくりを目指して～
16年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～専門性の向上及び環境の整備を軸に児童生徒の伸長を目指す～
17～18年度	障害の特性に応じた指導の在り方 ～自閉性障害の障害特性に適切に対応した教育内容・方法の充実を目指して～
19～20年度	一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりを目指して ～4つの観点（主体性、知識・技能、生活への般化、社会性）から～
21～22年度	一人一人の願いを生かした授業づくり
23～24年度	一人一人の自立と社会参加を目指した一貫性のある指導の在り方 ～働く意欲を育てる授業づくりを通して～
25～26年度	自立と社会参加を目指して、主体的に学習する姿を求めた授業づくり ～「考える」「活かす」に焦点を当てて～
27～28年度	自分のよさに気付き、もてる力を発揮できる児童生徒を育てる授業づくり
29～30年度	「合わせた指導」の基本を徹底した授業づくり ～「授業改善プロジェクト」の検証と成果を踏まえて～
令和元～2年度	児童生徒が学びを実感できる授業づくり ～学ぶ姿に着目した授業研究を通して～（元年度） ～単元・題材の構成及び配列の工夫・改善を通して～（2年度）
3年度	一人一人の学びに応じた教育課程の工夫・改善＜1年計画＞ ～学んだことを活用・発揮できる児童生徒の育成を目指した授業づくりを通して～
4～5年度	自ら学び続ける子どもを育てる授業づくり＜3年計画＞ ～協働的な学びの充実を通して～

## おわりに

「自ら学び続ける子ども」の育成をキーワードとした三か年計画の研究の二年目が終了しました。今年度は、研究一年目の課題として挙げられた「自ら学び続ける子どもの具体的な姿」について、授業におけるねらいとのつながりを明確にする中で明らかにしようとしたことが大きな成果だったと思います。

子どもたちの「もっと活動したい!」「もっと知りたい!」「もっとできるようになりたい!」という思いは、どのような姿から分かるのか。また、子どもたちのこのような思いを引き出すための授業の工夫はどうあればよいのか。これまで行ってきた学部縦割りグループ等も活用して、単元や授業の検討を重ねてきました。この教員同士の対話の積み重ねにより、各学部等では、子どもたちの学びや、学びを通した内面の動きを丁寧に見取ろうとする気運が高まり、小学部ではそのための具体的な方策について工夫がなされました。

この「子どもの学びを見取る」ことは、子どもの実態把握や目指す姿、授業のねらいと達成のための手立てを改めて検討することにつながり、さらには子どもたちの学習意欲の向上にもつながりました。そして、この一連の取組は、昨年度の研究で二つめの課題として挙げられていた「教員同士が互いに学び合う授業研究」の実現に大きく寄与することができたと考えています。

「不易流行」という言葉があります。「不易」はいつまでも変わらないもの、「流行」は変化していくものを意味します。時代の流れや社会の情勢によって育成すべき資質・能力や、それらを育成するための学びの在り方は変化しますが、一方で、目の前の子どもたちを理解することから指導を始め、積み重ねていくことは、私たち特別支援教育に携わる者の基本であり、不変の営みです。今年度の研究を通して、この基本の大切さに改めて気付かされました。全校の教員で共有して、三年目の研究に取り組んでいきたいと思えます。

今年度も昨年度に引き続き、研究成果は本研究紀要にまとめたほか、研究概要としてリーフレット版を発行しています。より分かりやすく見やすい形で内容をまとめることを心掛けました。併せてご覧いただき、御意見、御感想をお寄せいただきますようお願いいたします。

最後に、本校の研究推進に対し、御指導御助言をくださった全ての皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後も変わらず御指導御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。巻末の御挨拶といたします。

副校長 神部 守

# 研究同人

校長 佐々木孝紀      副校長 神部 守      教頭 相場 力 飯塚 正純  
事務長 真田 郁朗      教諭(兼)教育専門監 菅原 文彦      研究主任 杉渕 陽子

## 小学部

齊藤 理香	京屋 庸子	筒井 清子	佐々木千春	久慈由起子	茂内 みき
大塚亜紀子	新目 敏子	齋藤 彩夏	照井真理子	磯邊 千春	渡辺 舞子
堀田 聡弥	岩谷 桜	藤原 真美	田村 優	柳田 智子	大山万里子
菅原 尚子	篠田るり子	中村麻希子	秋元 仁美	梅田 季和	熊谷 好
畑 美貴子	臼井 道和	会場 友美	菅原 雅彦	佐藤 緑	渡部 大樹
長谷部 元	岩田 祝子	高橋 遥	宮野佳代子	高久 貴子	海道 史子
鷺谷 武彦	田中 亜希	小嶋美智子	佐々木江利子	筒井 仁	藤原 忍

## 中学部

黒澤 正子	照井真紀子	工藤 彩	高橋ひな子	菊池 良一	長谷部優子
原田もとよ	杉渕 陽子	鈴木 暁子	太田 清子	葛西亜樹子	五十嵐智子
村上世生子	市川奈津子	熊谷理香子	高橋 裕子	大島 由紀	大友 信
小野 格	信太真喜子	目黒 雄悦	佐藤 雅子	渡邊将太郎	三浦 弥
渡部 恵	柴田 壮紀	佐藤 聖哉	富岡 雅江	佐藤 美鈴	高橋 陽子
八鍬せい子					

## 高等部

【普通科】					
菊地 武	伊藤 学	渋谷 真二	伊藤 俊彦	佐藤 洋子	千葉 隆之
播摩友紀子	津嶋 孔明	和泉 緑	首藤 真理	加藤真理子	遠藤 葵
沖口 祥子	小川 華佳	門間 陽子	小林 朋子	小林 哲	大友 良江
二階堂 悟	加藤 秀幸	佐藤 美幸	大友 祥子	鈴木 崇	東谷 秀昭
田近礼津子	笹渕 幸廣	後藤真紀子	長谷川舞子	熊谷 彩	藤田 広次
能登屋 弥	伊藤ひとみ	白瀬 喬彦	大山 等	成田 ゆか	
【総合サービス科】					
安藤 一敏	菅原 智子	中野 貴洋	藤井 優香	佐藤あゆみ	小田野 陵
館山 柊	菊地奈都子	相澤 晶	加藤真依子	竹場 久美	千葉 仁
長谷川節子	近藤 文晴				

## 寄宿舎

佐藤 明子	佐藤 光子	坂本 香織	菅原ルリ子	花田 滝	岩澤 佑一
永澤 正太	藤田志穂子	荻原 雅子	堀江 千里	佐々木晶子	保坂 康子
加藤 郁恵	渡會 妙子				

## 令和5年度 研究 くりた

発行年月 令和6年3月発行

発行所 秋田県立栗田支援学校

〒010-1621 秋田市新屋栗田町 10-10

TEL 018-828-1162

018-888-8171 (第2校舎)

018-828-1170 (寄宿舍)

FAX 018-828-4720

ホームページ <http://www.kurita-s.akita-pref.ed.jp/>

メールアドレス [kurita-s@akita-pref.ed.jp](mailto:kurita-s@akita-pref.ed.jp)